福 岡 市

埋蔵文化財年報vol.5

1990年度

1992

福岡市教育委員会

表紙は早良区清末遺跡群調査区全景および作業風景

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　位	地　点	東　経	北　経
市役所（本庁）	中央区天神一丁目８－１	130°24′15″	33°35′14″
極東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極西（陸部）	西区大字西の浦字外蒔	130°12′00″	33°38′11″
極西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極南	早良区大字板屋字苦笑	130°25′13″	33°42′33″
極北（陸部）	東区大字三苫字牧山	130°22′50″	33°25′17″
極北	西区大字小呂島字向	130°02′17″	33°52′17″

※福岡市勢要覧－平成３年度－による

平成２年度福岡市当初予算

一般会計	4,806億9,200万円
特別会計	2,411億141万５千円
企業会計	2,096億5,349万円
合　計	8,944億3,090万５千円

教育・文化に604億円

平成２年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	853万６千円
公共事業関係費	4億8,317万３千円
民間・国庫補助関係調査費	３億7,402万円
合　計	８億6,572万９千円

面積．人口．土地利用状況（有租地面積など）

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地				農地		山林	原野その他	免税点未満
					総数	商業地	工業地	住宅地	田	畑			
全　市	336.39	492,666	1,237,902	187,373	75,876	8,432	8,963	58,481	28,914	10,838	50,597	21,148	8,418
東　区	63.20	95,767	248,530	34,207	17,176	432	4,317	12,426	3,935	2,465	5,031	5,600	1,084
博多区	31.40	72,001	165,748	17,453	11,745	3,035	3,540	5,170	1,298	632	1,224	2,554	216
中央区	15.14	67,246	139,653	7,979	7,491	3,049	753	3,689	2	7	205	273	2
南　区	30.98	90,415	233,543	18,804	12,925	657	175	12,093	1,387	396	2,153	1,943	257
城南区	16.02	53,862	124,471	9,653	6,545	282	－	6,263	471	207	1,699	731	122
早良区	95.88	67,792	188,883	47,081	10,534	604	－	9,930	7,954	750	24,798		2,237
西　区	83.77	45,614	139,074	52,197	9,461	373	178	8,910	13,869	6,382	15,486		4,499

※人口は平成３年１月１日現在の推計人口。福岡市勢要覧－平成２年度－による。

序

平成２年度（1990）は、史跡野方遺跡の整備、市博物館の普及・研究活動など文化財・埋蔵文化財の発掘調査とともに事業進展の多くみられた年度でありました。

また、埋蔵文化財保護に係る諸業務は事前審査・試掘調査・発掘調査とともに開発者による電話相談、文化財分布地図の閲覧などが飛躍的に増大し、市内遺跡の周知化が比較的急速に進行していることが知られるところです。

以下では平成２年度の埋蔵文化財保護行政の概要を示して、関係者各位の文化財保護についての更なるご協力を仰ぎますとともに、本書が市民の文化財に対する理解の一助となり有効に活用されることを希望いたします。

平成４年１月13日
福岡市教育委員会
教育長　井　口　雄　哉

例　言

本書は、教育委員会埋蔵文化財課が平成２年度に行った事業のうち、開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務についての概要を記したものである。

本書の作成は、平成３年度事前審査担当（荒牧、吉武、宮井）及び同担当主事（横山）で行った。なお各発掘調査の概要は各担当者で分担した。また文化財整備課により平成２年度の文化財調査の概要報告を得た。

目　次

Ⅰ．開発事前審査……1
1)平成２（1990）年度の概要……1
2)試掘調査一覧……3
Ⅱ．発掘調査
1)平成２（1990）年度の概要……14
2)発掘調査一覧……16
3)各調査の概要……19
Ⅲ．文化財調査の概要……84
Ⅳ．トピックス……87
附　平成２（1990）年度刊行の報告書一覧……88

平成２（1990）年度の組織

- 文化部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：公共事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：公共事業に係る埋蔵文化財の事前審査
    - 第　2　係：民間事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：民間事業に係る埋蔵文化財の事前審査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管　理　係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：考古学的資料の調査・収集・整理
  - 文化課
    - 文化財管理係：文化財の指定、史跡の保存・整備
    - 文化係：芸術・文化の振興・普及、文化団体との連絡
  - 少年科学文化会館
    - 管　理　係：施設の管理運営
    - 学　芸　係：児童図書の閲覧・貸出し、プラネタリウム等
  - 副主幹－主査：鴻臚館址調査

- 博物館
  - 庶務課
    - 庶　務　係：博物館の庶務、連絡調整、施設の管理運営
    - 計画管理係：施設の管理運営、渉外
  - 学芸課－主査：博物館資料の収集・保存・展示・調査研究

埋蔵文化財文化財課の構成

課　　長：柳田純孝

第一係長：飛高憲雄

文化財主事：塩屋勝利.　横山邦継.　浜石哲也

係　　員：（技術）　山崎龍雄.　松村道博.　小林義彦.　瀧本正志.

加藤良彦.　宮井善朗.　池田祐司.　長屋　伸

（事務）　中山昭則.　松延好文

第二係長：柳沢一男

文化財主事：山口譲治.　井澤洋一

係　　員：大庭康時.　下村　智.　小畑弘己.　常松幹雄.　佐藤一郎

吉留秀敏.　荒牧宏行.　菅波正人

Ⅰ　開発事前審査

本市において、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事などにかかわる開発事前審査は、昭和52年度から57年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図．１：4000．Ｂ３版．全173図）をもとに行っている。

文化財分布地図は、市役所各部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また民間の開発関係、不動産取引関係者などには、埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談にのっている。この際に文化財保護法の主旨及び手続きなどを説明するとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

1）平成２（1990）年度の概要

平成２年度に埋蔵文化財課に提出された開発事前調査についての申請（埋蔵文化財事前審査願い及び事業計画書）は、下表に示すように公共事業492件、民間開発事業546件の計1,038件である。また窓口に備え付けた文化財分布地図の閲覧では年間1,695件と増加傾向にある。

事業別では公共的事業が前年比より１割減少し、民間事業では前年比の35％の増加となった。

このうち公共的事業では、各種道路・都市公園建設、下水道構築に伴う事業が大半を占め、長期試掘・工事立合い等対応に苦慮している。

また民間事業関係は、博多駅周辺の再開発事業（共同住宅・商業ビル）や早良・西区等の都市計画法にもとずく開発事業が主体となっており、前記のように分布地図閲覧・電話による問い合わせ等も多く、遺跡の周知化の進行が知られる。

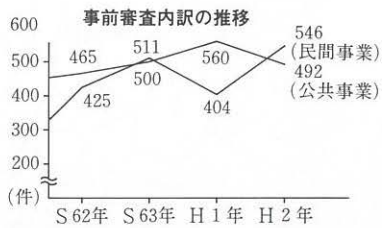
事業審査の処理内訳では書類審査によるものが７割以上を占めており、暦年の試掘調査成果の集積によって遺跡内容の判断基準が次第に明らかになりつつあるものと考えられる。

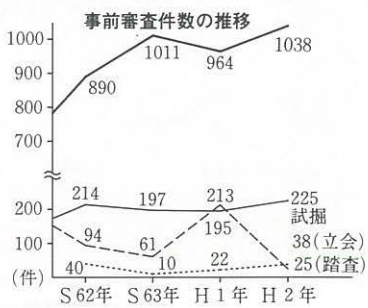
開発事前調査件数の推移　（件）

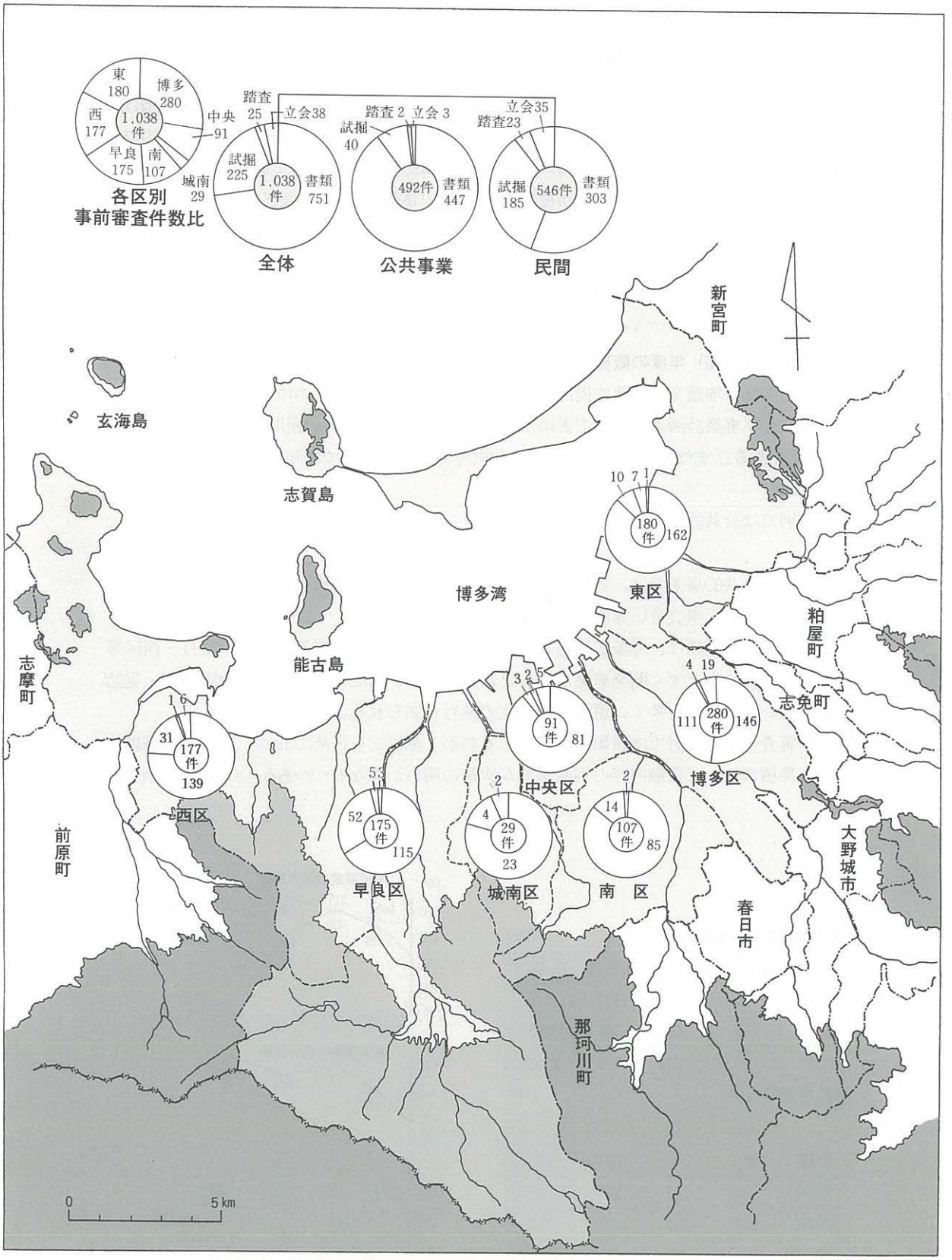
	S. 62年	S. 63年	H. 1年	H. 2年
民間	425	511	404	546
公共	465	500	560	492
計	890	1,011	964	1,038

事前審査の内訳　（件）

	S. 62年	S. 63年	H. 1年	H. 2年
書類	555	743	534	751
踏査	94	61	213	25
試掘	214	197	195	225
工事立会	40	10	22	38







平成２年度開発事業事前審査状況
各区の円内訳は、図上の円グラフ一致する。

試　掘　調　査　一　覧

ここに掲載する試掘は、平成２年度（1990年４月１日～1991年３月31日）におこなったものである。

東区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	三苫遺跡群	大字三苫字草場135-1	900510	共同住宅	1,318.07	有	本調査	27	古墳～奈良集落址	1-2-35
2	椛の谷遺跡群	青葉四丁目7他19筆	901002	専用住宅	61,908	無		7	削平丘陵	2-2-39
3	箱崎遺跡	馬出二丁目22-14	900724	共同住宅	248.04	無		34	削平砂丘	2-2-129
4	奈多砂丘Ｂ遺跡	奈多字裏付1293-34 1293-30	901018	分譲宅地	2,362	無		43	砂丘後背部	2-2-242
5	蒲田原遺跡群	蒲田字小田62～66外	901027	倉庫	8,677.878	無		1	水成堆積層のみ	2-2-257
6	箱崎遺跡	箱崎一丁目745-1	901205	共同住宅	238.90	無		34	既削平	2-2-318
7		香椎二丁目745-1	910319	分譲マンション	1,122.73	無		17	丘陵先端部斜面	2-2-415
8	箱崎遺跡	箱崎三丁目2401外8 筆	910322	共同住宅	1,068.08	有	工事立会	34	中世前期集落址	2-2-474
9		大字西戸崎	901018		235	無			砂丘後背部	2-1-433

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	博多遺跡群	祇園町220番地	890926	商業ビル	214.01	有	慎重工事	49	中世都市	1-2-195
2		麦野三丁目9番3号	891202		990	有	要調査	12	8～9世紀集落遺跡	1-2-271
3	博多遺跡群	下呉服町425,426	900912	共同ビル	384.62	有	発掘調査	48	14世紀以降の都市遺跡	1-2-370
4	博多遺跡群	下呉服町542-1～4	900411	共同住宅	287.34	無	慎重工事	48	近世都市	2-2-2
5	那珂遺跡群	東光寺町一丁目45,46,47	900411	店舗	773.67	有	慎重工事	37	古墳後期集落址	2-2-10
6	博多遺跡群	博多駅前二丁目203,204	900418	ビル	259.71	無		36	旧河川堆積層	2-2-14
7	板付遺跡	板付五丁目7-2,3,4	901205	専用住宅	676.28	有	慎重工事	24	水成堆積層	2-2-19
8	博多遺跡群	奈良屋町109,110番	900424	共同住宅	198.35	無		48	近～現代都市	2-2-27
9	板付遺跡	板付二丁目11-8	900612	増築	290.33	有	慎重工事	24	弥生時代水田址	2-2-30

10	榎田遺跡群	上牟田一丁目57番1	900424	貸倉庫	1,060	有	慎重工事	22,36	中世～古代水田址	2-2-31
11	博多遺跡群	店屋町3番	900516	立体駐車場	1,027.91	有	要調査	49	古代～中世生活址	2-2-36
12	那珂遺跡群	東光寺町一丁目190,191	900424	事務所倉庫	223.05	有	工事立会	37	弥生中～後期集落址	2-2-41
13	井相田Ａ遺跡群	井相田三丁目7-2	900509		124	有	慎重工事	12	古墳後期以降集落址	2-2-46
14	吉塚遺跡群	堅粕四丁目496-1	900605	専用住宅	313.47	有	慎重工事	36	古墳時代中期集落	2-2-55
15		大字下月隈字正手浦の一部	900524		11,310	無		10	丘陵斜面	2-2-56
16	諸岡Ａ遺跡群	諸岡三丁目870-1,888-1	900516	集合住宅	253.69	無		24	丘陵端部～谷部	2-2-60
17	諸岡Ａ遺跡群	諸岡三丁目64	900524	２階建倉庫	274.80	無		24	丘陵端部	2-2-62
18	麦野Ｃ遺跡群	銀天町二丁目43-1,39,40-1の一部	900606	ビル	約600	無		12	堆積台地上	2-2-65
19	博多遺跡群	博多駅前一丁目305他	900605		825.65	無		36	旧河川堆積層	2-2-76
20	比恵遺跡群	博多駅南四丁目143-2 外	900612	郵便局	345.34	有	工事立会	37	弥生中期集落址	2-2-77
21	井相田Ｂ遺跡群	春町二丁目21-1	900612	共同住宅	280.81	無		12	氾濫原	2-2-83
22	井相田Ｃ群	井相田二丁目6-7,6-8	900614		2,522	有	工事立会	12	古代水田跡	2-2-90
23	金隈遺跡	金隈483他18筆	900621	貸事務所	4,849.82	無		11	丘陵端部	2-2-98
24	井相田Ｃ群	麦野三丁目6-1～4	900626	倉庫増築	4,966.01	有	慎重工事	12	古代～中世水田址	2-2-99
25	那珂遺跡群	那珂一丁目442-1の一部	900621	事務所倉庫	274.68	有	慎重工事	37	弥生中期集落址	2-2-104
26	板付遺跡	板付四丁目2-2	900626		165	有	要調査	24	弥生～古代水田址	2-2-105
27	雑餉隈遺跡群	新和町二丁目17	900621	共同住宅	130.86	無		13	旧溜池か	2-2-107
28	板付遺跡	板付五丁目9-1	900703	共同住宅	897.14	無		24	水成堆積層	2-2-114
29	那珂遺跡群	東光寺町一丁目162～165	900713	倉庫	479.93	有	発掘調査	37	弥生～古墳後期集落址	2-2-116
30		諸岡二丁目13-33	900703	ＲＣ４階建	297.88	無		24	水成堆積層址	2-2-120
31	板付遺跡	板付二丁目12-10	900703	２Ｆ木造建	214.50	無	慎重工事	24	弥生集落址	2-2-122
32	比恵遺跡群	博多駅南四丁目150-3,4、154	900718	共同住宅	1,579.96	有	発掘調査	37	弥生中期～古墳集落址	2-2-130
33	比恵遺跡群	博多駅南六丁目10	900808	分譲共同住宅	470.42	無		37	水成堆積層	2-2-137
34	比恵遺跡群	博多駅南三丁目453	900712	ワンルームマンション	189.97	無		37	洪積台地上	2-2-138
35	那珂遺跡群	那珂三丁目18番	900705	事務所付共同住宅	226.26	無		23	洪積台地上	2-2-139
36	立花寺遺跡群	大字金隈字隈ノ下959,960の一部 字光明寺955	900724	共同住宅	2,595.72	有	発掘調査	11	古墳後期～中世集落址	2-2-142
37	比恵遺跡群	博多駅南三丁目46-1,47	900726	共同住宅	299.76	有	発掘調査	37	弥生時代包含層	2-2-146

38	博多遺跡群	店屋町100, 101	900726	ビル	215.82	不　明		49	地下室により不明	2-2-147
39		金隈字持田ヶ浦292-5, 259	900724	共同住宅	5,959.91	無		11	丘陵傾斜地	2-2-152
40		博多駅東二丁目13-34	900719	事務所ビル	1,333.21	無		36	水成堆積層	2-2-153
41		諸岡三丁目527	901107	貸倉庫付事務所	1,869.74	無		24	沖積地堆積	2-2-158
42	那珂遺跡群	那珂一丁目174, 175	900801	ビル	198.34	無		37	八女粘土水成堆積層	2-2-161
43	那珂遺跡群	那珂二丁目133, 134の一部対象	900906	、共同住宅	2,514.83	有	慎重工事	38	弥生後期集落址	2-2-172
44	那珂遺跡群	大字那珂字沼口802-1, 802-15	900807	歯科診療所	156.52	有	発掘調査	23	弥生～古墳集落址	2-2-173
45		大字金隈字堤ヶ浦316-68　他10筆	900807	共同住宅	3,628.46	無		11	丘陵先端部	2-2-175
46	博多遺跡群	店屋町49, 50	900906	事務所ビル	756.32	有	慎重工事	49	8～14世紀集落址	2-1-176
47		井相田二丁目6-38	900823	車ショールーム	1,602.14	有	要調査	12	古代集落址	2-2-178
48	博多遺跡群	店屋町161-1	900828	立体駐車場	335.87	有	工事立会	49	近世都市遺跡	2-2-180
49	那珂遺跡群	那珂一丁目158, 159	900808	共同住宅	314.14	有	発掘調査	37	奈良～平安時代集落址	2-2-181
50	博多遺跡群	店屋町8-9	900912	ビル	448.49	有	要調査	49	15世紀代の低湿地	2-2-183
51	那珂遺跡群	那珂二丁目250番	900823	専用住宅	252.83	有	慎重工事	38	弥生～中世集落址	2-2-187
52	比恵遺跡群	博多駅南五丁目81-2	900821	事務所	466.11	無		37	沖積堆積層	2-2-190
53		博多駅南五丁目101-1, 3, 5, 102-1、2、3 他	900821	事務センタービル	3,265.05	無		37	洪積丘陵端部	2-2-192
54		麦野三丁目7番3, 5	900830	自動車整備工場	1,005	無		12	旧河川堆積層	2-2-197
55	博多遺跡群	奈良屋町267番地	901009	事務所ビル	735	有	発掘調査	48	中世末都市	2-2-203
56		井相田一丁目13番5, 7, 8	900829	共同住宅	2,338.35	無		12	沖積微高地	2-2-204
57		井相田一丁目13-9, 10	900913	中古車販売センター	2,800.86	有	慎重工事	11, 12	微高地上の古代集落址	2-2-206
58	井相田Ｃ遺跡群	麦野三丁目6-8	901115	ビル	578.08	無		12	氾濫原	2-2-215
59	比恵遺跡群	博多駅南五丁目74-2	900829	共同住宅	135.53	無		37	水成堆積層	2-2-216
60	博多遺跡群	祇園町355, 357	900920	オフィスビル	379.59	有	要調査	49	中世都市	2-2-218
61	比恵遺跡群	博多駅南四丁目15-17 他	901004	事務所工場増築	1,128.3	有	発掘調査	37	弥生中期集落址	2-2-219
62	板付遺跡	板付五丁目6-3, 10, 11	900925	共同住宅	275.30	有	慎重工事	24	弥生中期集落址	2-2-220
63	那珂遺跡群	東光寺町一丁目270	900925	専用住宅	164.06	無		37	既削平	2-2-226
64	博多遺跡群	冷泉町338, 339, 342, 522, 523	900925	分譲マンション	571.06	有	発掘調査	49	弥生～中世集落址	2-2-227
65	那珂遺跡群	那珂一丁目157, 158-2	901107	共同住宅	175.43	無		37	低湿地	2-2-234

66	那珂遺跡群	那珂一丁目442の一部	901003	事務所駐車場	174	有	慎重工事	37	弥生中期集落址	2-2-236
67	那珂遺跡群	那珂一丁目462-1	901003	事務所倉庫	265	有	発掘調査	37	古墳時代集落址	2-2-249
68	博多遺跡群	古門戸町28, 29	901012	事務所ビル	277.08	有	要調査	49	中世都市	2-2-261
69	吉塚遺跡群	吉塚三丁目262-1 外	901025	集合住宅	533.05	有	工事立会	35	砂丘後背地	2-2-269
70	堅粕遺跡群	堅粕三丁目21-4	901102	共同住宅	270.94	無		35	削平砂丘	2-2-270
71	博多遺跡群	御供所町47番	901204	専用住宅	183.82	有	慎重工事	49	中世末期湿地	2-2-272
72	那珂遺跡群	那珂二丁目381-1の一部, 382	901102	専用住宅	420.65	有	慎重工事	24	古墳～中世集落址	2-2-279
73	南八幡遺跡群	寿町二丁目86-1, 2	901108	マンション	670.04	有	発掘調査	12	古墳～中世集落址	2-2-284
74	南八幡遺跡群	南八幡町一丁目20-1, 21-1	901107	マンション６Ｆ	800	有	工事立会	25	古代集落址	2-2-286
75	博多遺跡群	冷泉町335, 336, 337	901114	ワンルームマンション	179.34	有	発掘調査	49	中世前期都市	2-2-287
76	諸岡Ｂ遺跡群	諸岡四丁目228, 229	901115	専用住宅	78.63	無		24	氾濫原	2-2-288
77	麦野Ａ遺跡群	麦野三丁目9番14号	901204	専用住宅	139.58	有	慎重工事	12	古墳時代集落址	2-2-296
78	那珂遺跡群	那珂三丁目185	901115	倉庫付事務所	184.51	無		24	既削平	2-2-300
79	博多遺跡群	綱場町5-11	901129	銀行店舗	478.80	有	工事立会	49	中世末期湿地	2-2-301
80	諸岡Ａ遺跡群	諸岡四丁目527-2	901205		296.66	無		24	既削平丘陵址	2-2-317
81	比恵遺跡群	博多駅南四丁目109-1	901218	事務所ビル	659.09	有	発掘調査	37	古墳時代集落址	2-2-319
82	諸岡Ａ遺跡群	諸岡三丁目725, 728	901212	駐車場及び２Ｆ社屋	998	有	慎重工事	24	中世集落址	2-2-323
83	比恵遺跡群	博多駅南四丁目138-1	901218	倉庫付事務所	671.29	有	工事立会	37	古墳時代集落址	2-2-324
84	那珂遺跡群	那珂二丁目4-6	901207	給油所	527.8	無		24	削平丘陵	2-2-330
85		板付四丁目3-14	910109	賃貸住宅	361.74	有	工事立会	24	弥生水田址	2-2-335
86	博多遺跡群	博多駅前一丁目386	910116	ビル	1,392.79	有	工事立会	36	氾濫原	2-2-341
87	那珂深ヲサ遺跡	那珂四一丁目241	910109	賃貸共同住宅	1,745	無		24	氾濫原	2-2-355
88	比恵遺跡群	博多駅南四丁目199, 200, 203-1, 204-1, 205-1	910122	商業用ビル	3,220	有	発掘調査	37	弥生～古墳集落址	2-2-357
89	榎田遺跡群	榎田二丁目9-6	910116	倉庫	928	無		22	氾濫原	2-2-367
90	博多遺跡群	店屋町201-2～5	910129	車庫付事務所ビル	523.70	不　明		49	近世都市	2-2-369
91	比恵遺跡群	博多駅南六丁目30-2	910206	社屋増築	991.90	有	発掘調査	37	古墳時代後期集落址	2-2-370
92	比恵遺跡群	博多駅南三丁目2-22	910319	増築	354.44	有	発掘調査	37	弥生時代集落址	2-2-371
93	博多遺跡群	上呉服町131-2	910219	共同住宅	270.96	有	発掘調査	48	中世前期都市	2-2-387

94	博多遺跡群	冷泉町425, 423	910228	社員寮共同住宅	491.77	有	要調査	49	近～中世末都市	2-2-394
95	那珂遺跡群	那珂三丁目95	910307	専用住宅	806.86	有	慎重工事	23	弥生～古墳時代集落址	424 2-2-398
96		板付六丁目2-11	910220	事務所付倉	309.60	有	慎重工事	24	弥生水田址	2-2-399
97	那珂遺跡群	竹下五丁目376	910228		1,551.55	有	要調査	38	古代集落址	2-2-401
98	豊遺跡群	豊一丁目200-1	910220	事務所ビル	880.218	無		36	後背湿地	2-2-404
99	博多遺跡群	上川端町264-2	910307	ビル	364.72	有	発掘調査	49	中世末都市	2-2-413
100	吉塚遺跡群	吉塚三丁目260-4, 5	910218	共同住宅	242.89	無		36	旧河川堆積層	2-2-417
101	南八幡遺跡群	南八幡町一丁目33-2	910328		278.38	無		25	洪積台地谷部	2-2-445
102	比恵遺跡群	博多駅南四丁目132-1	910327	事務所ビル	349.32	有	要調査	37	弥生中期～古墳後期集落址	2-2-449
103	高畑遺跡	板付六丁目10-7	910409	個人住宅	732	有	慎重工事	24	古代自然流路	2-2-450
104	吉塚遺跡群	吉塚一丁目地内	901108		3,233	有	発掘調査		古墳時代集落址	2-1-2
105	吉塚本町遺跡	吉塚本町130-6	900517	共同住宅	5,448	有	要調査	35	弥生　古墳集落址	2-1-261
106	吉塚本町遺跡	吉塚本町地内	900627	共同住宅	2,606	有	発掘調査	35	古墳時代集落址	2-1-428
107-1		福岡空港内	900904 ～0907	誘導路		有	要調査		中世生産遺跡	2-1-432
107-2	上牟田遺跡	福岡空港西側地区	901029	誘導路建設		有	発掘調査	22	古代～中世水田址	2-1-432
108		福岡空港内	901120		1,500	無			旧河川跡	2-1-435
109	天神森遺跡群	大字下月隈字天神森	910123	倉庫建設	20,000	無			削平丘陵	2-1-439
110		吉塚本町130他	910212 13		4,400	無			砂丘上	3-1-205

中央区

番号	遺跡		調査日	事業		調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	元寇防塁	地行一丁目13番33号	900726	集合住宅	198.70	無		71	砂丘上	2-2-162
2	元寇防塁	地行二丁目12-19	901129 30	確認調査	201.65	無		71	既削平	2-1-436
3		梅光園団地	910214	共同住宅	28,000	無			河川氾濫原	2-1-437

南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	中村遺跡	野間三丁目233, 234-1, 2, 236, 237	900606	共同住宅	1, 338. 24	有	発掘調査	51	古墳～古代集落址	2-2-73
2	警弥郷B遺跡	弥永四丁目9-3	900612	分譲マンション	792. 48	無		41	沖積微高地上	2-2-88
3		三宅一丁目1108-2	900705	鉄筋コンクリート4階建	246. 24	有	発掘調査	39	古代集落址	2-2-118
4	井尻B遺跡群	井尻一丁目294-15	901017	専用住宅	462. 9	有	慎重工事	25	古墳～奈良集落址	2-2-256
5	三宅B遺跡群	三宅二丁目30-28	901204	専用住宅	186. 095	無		39	低湿地	2-2-307
6		桧原六丁目863-2, 828-1, 827-1 外6筆	910305	スポーツ施設 乗馬クラブ	3, 560. 68	無		64, 65	河川氾濫原	2-2-400
7	警弥郷B遺跡	弥永五丁目14-2, 14-37の一部	910305	貸倉庫	859. 75	有	慎重工事	41	中世水田址	2-2-411
8	駄ヶ原遺跡	桧原六丁目884-4	910305	専用住宅	250. 68	無		64	扇状地堆積層	2-2-414
9	諸岡A遺跡群	井尻二丁目1290-9	910327	事務所	292. 5	無		24	河川氾濫原	2-2-431
10	野多目A遺跡	野多目三丁目	900945	共同住宅	72, 000	有			古墳時代集落址	2-1-175
11		大橋	900710	道路拡張	4, 620	無		39	旧河川沖積層	2-1-429
12		的場二丁目15-1	901120		697	無			氾濫原	3-1-419
13		弥永四丁目2-1 弥永小学校	910312	学校増設	920	無		41	沖積地	3-1-489

城南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
		堤地区	900517～0604	学校増設		無				
1	飯倉C遺跡	七隈二丁目1180, 1181	910306	分譲住宅	928	有	発掘調査	73	奈良～平安集落址	2-2-395
2		長尾五丁目1-1 長尾小学校	910313	学校増設	920	無		62	丘陵上	3-1-486
3	笹栗遺跡	樋井川六丁目27-56 堤小学校	910313	学校増設	920	無		64	丘陵谷部	3-1-490

早良区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	田村遺跡群	大字田字柿木町548-1, 554	900822	倉庫事務所	1,763.51	有	慎重工事	84	中～近世集落址	1-2-215
2	有田遺跡群	南庄三丁目78	900523	専用住宅 共同住宅	364.38	無		81	洪積台地谷部	1-2-378
3	四箇遺跡群	大字四箇字亀丸522-1	900419	専用住宅	1,384	無		84	自然堤防上	2-2-12
4	西新遺跡群	西新五丁目586-1, 635-2	900419	店舗クリニック住宅	683.98	無		72	近世以降集落	2-2-13
5	有田遺跡群	小田部一丁目174-3	900425	専用住宅	165.54	有	慎重工事	82	奈良時代集落址	2-2-16
6	藤崎Ａ遺跡群	高取一丁目76-2, 3, 4, 79	900523	テナントビル	363.11	無		81	砂丘後背斜面	2-2-20
7	飯倉遺跡群Ｂ地区	飯倉五丁目156-2	900529	専用住宅 共同住宅	390.17	有	慎重工事	73	丘陵谷頭部	2-2-68
8	飯倉遺跡群Ｃ地	飯倉六丁目15-2	900529		3,651	有	発掘調査	73	弥生～古墳墓地	2-2-69
9		小田部一丁目112	900529	共同住宅	188	無		82	洪積台地谷部	2-2-74
10	有田遺跡群	小田部一丁目33-7	900620	専用住宅	356.12	有	慎重工事	81	古墳時代集落址	2-2-78
11	有田遺跡群	小田部一丁目91	900613	増築	196.25	無		81	洪積丘陵谷部	2-2-85
12	有田遺跡群	小田部三丁目251	900620	３階建ビル	206.99	有	発掘調査	82	古墳後期集落址	2-2-86
13	有田遺跡群	小田部一丁目22-4	900619	共同住宅	198.32	有	慎重工事	81	古墳集落址	2-2-87
14		西新町1132	900613	商業ビル	981.75	無		72	砂丘後背斜面	2-2-89
15		野芥五丁目362-1, 363	900717	賃貸住宅	2,519	有	慎重工事	84	古墳時代集落址	2-2-110
16	有田遺跡群	小田部一丁目123	900704	住宅	196.80	有	発掘調査	82	古墳中期集落址	2-2-113
17	有田遺跡群	小田部五丁目82-2, 83	900704	専用住宅 作業場	493.80	有	慎重工事	82	古墳時代後期集落址	2-2-119
18	有田遺跡群	小田部一丁目170-2	900717	専用住宅	155.46	無		82	洪積台地上	2-2-128
19	有田遺跡群	南庄三丁目74	900712	鉄筋３階建	246	無		81	洪積台地谷部	2-2-140
20	藤崎Ａ遺跡群	高取二丁目192	900725	集合住宅	286.44	無		81	砂丘斜面	2-2-154
21	有田遺跡群	有田一丁目28-3	900802	専用住宅	199.27	有	工事立会	82	古代～中世集落址	2-2-170
22	有田遺跡群	有田一丁目21-11	900802	住宅	198.40	有	発掘調査	82	弥生～古墳集落址	2-2-171
23	有田遺跡群	小田部三丁目25	900912	専用住宅	235.10	無		82	旧水田面のみ	2-2-179
24	有田遺跡群	小田部二丁目155-2	900907	専用住宅	145.91	有	慎重工事	82	弥生～古墳集落址	2-2-189
25	野芥遺跡群	野芥五丁目386-1	900927	戸建分譲住宅	1,538.5	有	発掘調査	84	古墳時代集落址	2-2-200
26	有田遺跡群	有田二丁目17-29	900926	自宅	54.45	有	慎重工事	82	古代包含層	2-2-221

27	内野熊山遺跡群	大字内野字熊山1316-1, 3, 6	900927	ビル倉庫配送センター	2, 173	有	要調査	早良16	古墳時代後期集落址	2-2-237
28	原遺跡群	原六丁目845-1	901012	事務所併用	334	無		82	氾濫原堆積層	2-2-260
29		賀茂二丁目15-1, 9, 154-1	901025	分譲住宅	2, 971. 34	無		83	氾濫原堆積層	2-2-265
30	有田遺跡群	小田部一丁目12-13	901114	物品販売店舗	262. 43	無		82	氾濫原	2-2-271
31		有田三丁目38-12	901025	専用住宅	239. 89	無		82	洪積丘陵谷部	2-2-274
32	有田遺跡群	小田部五丁目5-40	901206	専用住宅	330	有	発掘調査	82	弥生～古墳集落址	2-2-308
33	内野遺跡群	内野字ツル286-7 他 7筆	910117	分譲専用住宅	1, 559	無		早良17	扇状地堆積	2-2-350
34	原遺跡群	原六丁目13-41	910117	寺院本堂	195. 46	有	発掘調査	82	古墳時代集落址	2-2-366
35	有田遺跡群	有田一丁目33-4	910206	借家	361	有	慎重工事	82	中世末集落址	2-2-393
36	田村遺跡群	大字田字ホシキリ川152-1, 151-1	910306	貸店舗兼事務所	1, 936	無		84	河川氾濫原	2-2-410
37	免遺跡群	賀茂三丁目199-2	910322		396. 71	無		83	台地段おち部	2-2-438
38	有田遺跡群	小田部五丁目154-1	910326	専用住宅	495. 962	有	発掘調査	91	古墳時代集落址	2-2-462
39	城ノ原遺跡	脇山地区内	900628	道路拡張	3, 600	無		早良10	旧河道	2-1-31
40-1	次郎丸遺跡	次郎丸一丁目, 二丁目	901126	道路建設	2, 000	有	要調査	83	弥生～中世集落址	2-1-184
40-2	免遺跡	賀茂	901213～27	道路建設		有	要調査	83	古墳時代生産址	2-1-184
41	城ノ原遺跡	大字脇山字城ノ原	900628～17	道路拡張	250	無		早良10	旧河道	2-1-198
42	荒平古墳L群	東入部字松尾　他	900709	給水施設		無		早良16	古墳隣接地	2-1-420
43	岩本遺跡群	大字東入部字ノマ1443-9	900620	郵便局	1, 650	有	発掘調査	85	弥生時代生産遺跡	2-1-427
44		内野237	910205		661	無		早良17	丘陵端部	3-1-156
45	有田遺跡群	小田部三丁目32-1　西福岡中学校	910312	学校増築	1, 600	再調査	発掘調査	82	古墳時代集落址	3-1-492
46		昭代２丁目15-51 高取小学校	910313		1, 000	無		72	砂丘上	3-1-495

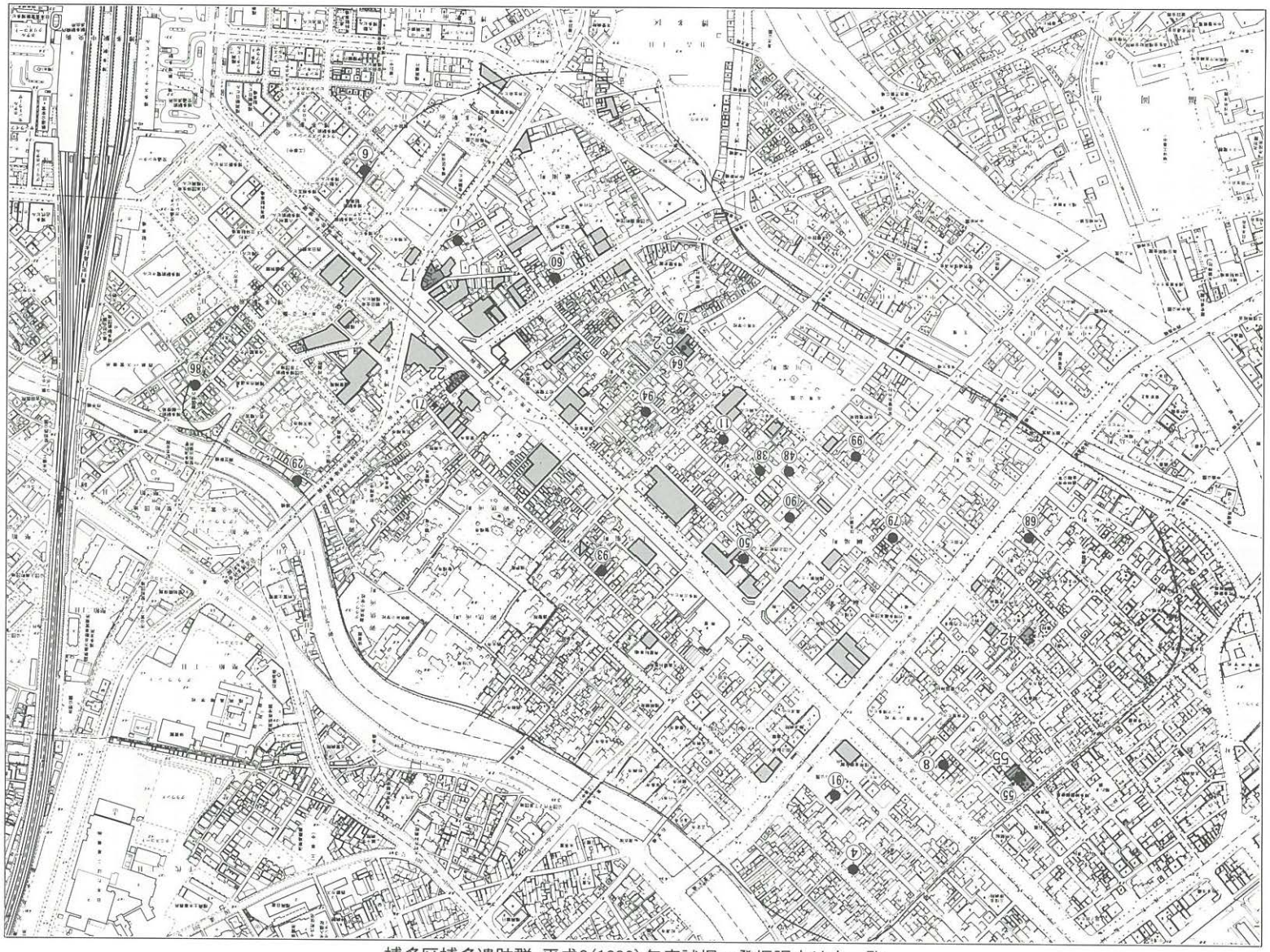
西区

番号	遺跡		調査日	事業		調査の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	女原遺跡	大字女原字笠掛111, 112-1, 102-6	900412		628. 66	無		120	扇状地堆積	2-2-4
2	飯氏遺跡群	大字飯氏扇子821-1, 821-3	900417	分家住宅	1, 332. 56	無		121	冲積谷	2-2-9
3		周船寺三丁目70-1, 71-2, 72-23, 73-4	900417	共同住宅	1, 819. 61	無		120	冲積谷	2-2-17

4	牟多田遺跡	拾六町二丁目380-1	900425	倉庫事務所	2,917	有	慎重工事	91	中世生産址	2-2-22
5	千里遺跡群	大字千里字大町518-1, 519-1, 520-4	900501	えのき栽培施設	2,210.30	無		132	自然堤防	2-2-37
6	大泊遺跡	大字能古字小平谷1605-62～65 1605-3～6	900530	運動場施設	12,128	無		100	丘陵斜面	2-2-49 59
7		石丸二丁目490-4 他	900704	共同住宅	266.79	有	慎重工事	90	古墳以降生産遺跡	2-2-117
8	周船寺遺跡群	周船寺二丁目446-5	900712	共同住宅	524.02	無		120	水成堆積層	2-2-123
9		野方二丁目485-3, 486-1, 2	891018	専用住宅	1,100.39	有	要調査	105	弥生前期集落址	2-2-126 (1-2-208, 209)
10		上山門一丁目1087-5, 1088-3	900822	貸店舗	1,909.93	無		103	河川後背湿地	2-2-193
11	青木遺跡群	今宿字西方292-1, 2	900926	専用住宅	641.90	無		113	氾濫原	2-2-222
12		福重二丁目392-8, 9, 12, 392-10の一部	901009	貸店舗	1,226.16	無		91	氾濫原	2-2-230
13	周船寺遺跡群	周船寺一丁目571-1, 5	901211	マンション	1,227.57	無		131	河川氾濫原	2-2-235
14	野方久保遺跡	野方522-4 他11筆	901113 901206	分譲住宅	2,550.71	有	発掘調査	91	弥生～古墳集落址	2-2-254
15	拾六町平田遺跡	拾六町平田83-6, 87-1	901101	農産物販売所	1,650	無		90	水成堆積層のみ	2-2-275
16		下山門三丁目422-1	901024	共同住宅	727	有	工事立会	90	氾濫原	2-2-278
17	羽根戸古墳群 G群、H群	大字野方字塚原1094-5 他	901113		15,243	無		105	古墳2基のみ	2-2-281
18		今宿東一丁目32-1, 33, 34-1	901212	店舗	3,139	有	工事立会	112	弥生前期水田址	2-2-333 345
19	藤崎A遺跡群	今宿東一丁目90, 91, 93-1	910207	店舗貸工場	2,288	有	要調査	112	弥生～中世集落址	2-2-382
20	周船寺遺跡群	周船寺二丁目457-1, 458-1	910207	スーパー	2,753.71	無		120	後背湿地	2-2-383
21	今宿五郎江遺跡	今宿字松本177-1, 179-1	910110	資材置場	1,886	有	慎重工事	112	丘陵端部	2-2-386
22		大字羽根戸字コハゼ201-3, 4	910326	給油所	1,426	有	慎重工事	92	河川氾濫原	2-2-423
23	橋本一丁田遺跡	拾六町，橋本	901023～26	道路建設		有	要調査		弥生水田址など	2-1-184
24	浦江B遺跡	金武地内	900619			無		94	沖積扇状地	2-1-311
25		飯盛地内	900619	道路拡張	1,326	無		93	日向川氾濫原	2-1-315
26		草場地区	900426		147,000	無			沖積谷	2-1-409
27	元岡瓜尾貝塚	大字元岡字瓜尾873	901122	堤改修	15,120	無			堤埋土	2-1-425
28		小戸五丁目1752-2	900725		10,988	無		89	砂丘後背湿地	2-1-431
29	青木遺跡群	今宿青木138-1	910226		817	無			丘陵地	3-1-157
30	周船寺遺跡群	周船寺一丁目　周船寺小学校	910213	学校増設	160	無		131	湿地帯	3-1-481

早良区有田遺跡群　平成２(1990)年度試掘・発掘調査地点一覧

● は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈早良区〉に一致）
■ は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧―16～18Ｐ―に一致）
■ は既応の発掘調査地点
道路上の黒色は下水埋設に係る調査位置をしめす



博多区博多遺跡群　平成2(1990)年度試掘・発掘調査地点一覧

● は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈博多区〉に一致）
■ は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧—16～18P—に一致）
■ は既往の発掘調査地点

Ⅱ　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、公共的事業にかかる調査を本課第１係、民間事業および区画整理・圃場整備・国庫補助事業にかかる調査を第２係が担当している。なお年度の調査量の多寡により、随時係間での補完をはかっている。

また本市では、調査資料の保管・管理のため個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡略号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年（上２桁）＋調査順（下２桁）の４桁数字で表示する。更に調査番号は、調査開始時に設定するために１遺跡の調査が複数年度にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録されることがある。

1)　平成２年度の概要

平成２年度市域内で発掘調査が実施された件数は65件であり、前年度より21件の減少となる。これは社会的景気下降に伴うものと考えられる。

調査は下表のように公共事業16件、民間46件、圃場整備３件の構成である。

各区別では博多28件、早良18件、西10件などとなっており、民間事業を主として博多、那珂・比恵遺跡群が大半を占める結果となった。

事業別では数的減少のなか民間営業分が７割近くを占め、次いで公共的調査（史跡整備、道路、公園など）となる。また圃場整備事業は前年比で推移しており、全体の調査面積でも前年比の６割弱を示している。

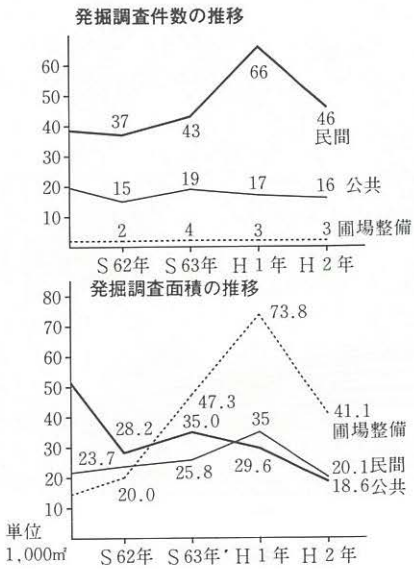
ここで主な調査成果を拾ってみると、入部第４次調査（早良区、圃場整備）の中世後期大型居館址、鴻臚館第６次調査の筑紫館遺構の一部検出、飯倉Ｃ遺跡２次調査の細形銅剣、鉄刀子、玉類を副葬した甕棺墓地（前期末～中期）など、那珂・比恵遺跡群の弥生～古墳時代集落址、博多遺跡群の中世都市遺跡などの発見が相次いだ。

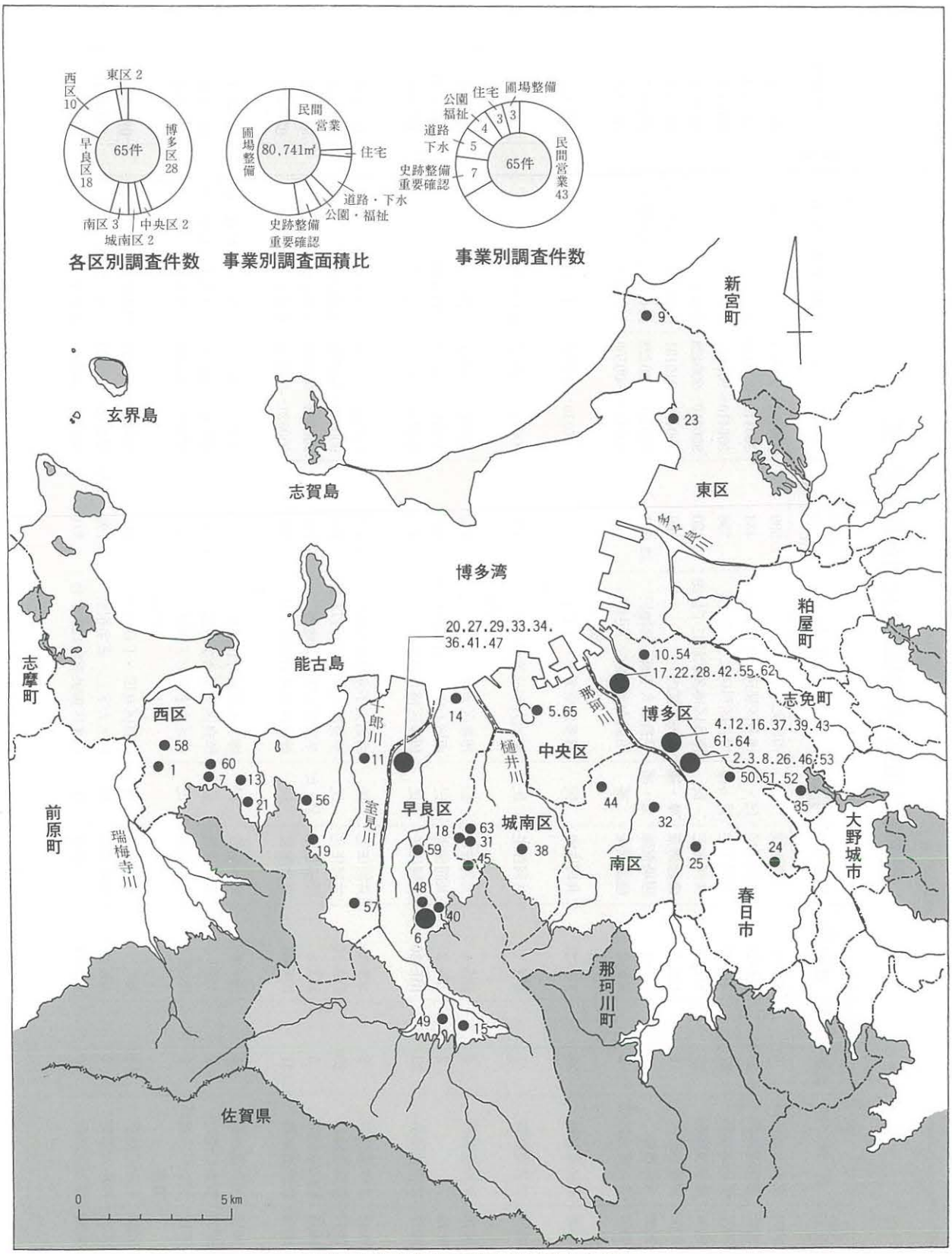
発掘調査件数の推移　（件）

	S. 62年	S. 63年	H. 1年	H. 2年
民　間	37	43	66	46
圃場整備	2	4	3	3
公　共	15	19	17	16
計	54	66	86	65

発掘調査面積の推移　（㎡）

	S. 62年	S. 63年	H. 1年	H. 2年
民　間	23,776	25,826	35,054	21,000
圃場整備	20,000	47,330	73,790	41,132
公　共	25,233	35,082	29,650	18,609
計	72,009	108,238	138,449	80,741





平成２年度発掘調査状況と調査地点の位置
（調査地点の番号は発掘調査一覧と一致する）

平成２（1990）年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	地区	遺跡略号	調査原因	調査種類	調査地所在地	調査面積		調査期間	調査担当者	報告書	分布地図
								㎡	古墳				
9001	周船寺遺跡群	6		SSJ-6	道路建設	公	西区大字千里	7,500		900402～900914	松村、宮井、長家		121-A-1
9002	那珂遺跡群	26		NAK-26	共同住宅	民・補	博多区那珂二丁目249番	436		900410～900416	荒牧宏行		038-A-3
9003	那珂遺跡群	27		NAK-27	共同住宅	民・補	博多区那珂二丁目7-22	756		900410～900616	下村　智		024-A-1
9004	比恵遺跡群	29		HIE-29	共同住宅	民	博多区博多駅前三丁目29	120		900410～900428	菅波正人		037-A-1
9005	鴻盧館址	6		KRE-6	確認調査	単・補	中央区城内	1,300		900409～910131	山崎純男、吉武　学		006-A-1
9006	入部遺跡	4		IRB-6	圃場整備	公・補	早良区大字東入部地内	22,294		900404～910228	浜石哲也、池田祐司		085-A-7
9007	若八幡宮古墳	2		WHK-2	確認調査	補	西区大字徳永字下引地 208-2 他	16		900425～900502	小林義彦		120-B-6
9008	那珂遺跡群	28		NAK-28	共同住宅	民	博多区東光寺一丁目312 他	150		900510～900609	佐藤一郎		037-A-3
9009	三苫遺跡群	1		MTM-1	共同住宅	民	東区大字三苫字草場 183-1	450		900514～900622	常松幹雄		027-A-3
9010	堅粕遺跡群	3		KKS-4	公営住宅	公	博多区吉塚一丁目	845		900514～900630	井澤洋一		035-A-2
9011		2		JRH-2	共同住宅	民	西区石丸二丁目489-1 他	1,260		900517～900921	山崎龍雄		090-A-11
9012	比恵遺跡群	30		HIE-30	共同住宅	民	博多区博多駅南四丁目 221	570		900519～900620	菅波正人		037-A-1
9013	青木遺跡群	2		AOK-2	共同住宅	民	西区大字今宿青木107	2,449		900521～900703	小林義彦		112-A-7
9014	藤崎遺跡群	20		FUA-20	共同住宅	民	早良区高取二丁目173-3	185		900523～900704	加藤良彦		081-A-1
9015	脇山遺跡群	5		WKA-5	圃場整備	公・民	早良区大字脇山地内	18,718		900523～901228	小畑弘巳、池田祐司		018-A-5
9016	比恵遺跡群	31		HIE-31	寮舎建設	民	博多区博多駅南四丁目 201	530		900621～900713	菅波正人		037-A-1
9017	博多遺跡群	65		HKT-65	ビル建設	民	博多区祇園町161-1	1,335		900703～901211	小畑弘巳、佐藤一郎		049-A-1
9018	飯倉Ｇ遺跡	2		IKRG-2	公園建設	公	早良区千隈二丁目地内	1,480		900703～900831	宮井善朗、長家　伸		074-A-2
9019	羽根戸古墳群Ｂ群	9		HNDB-5	宅地造成	民	西区大字野方字塚原 1098-2	209		900709～900808	小林義彦		105-B-7
9020	有田遺跡群	158		ART	専用住宅	補	早良区有田一丁目34-3	214		900709～900727	加藤良彦		082-A-2
9021	相原古墳群	2		ABK-2	畑地造成	補	西区大字上ノ原字相原	160	2基	900709～900803	下村、常松、菅波		113-B-11
9022	博多遺跡群	66		HKT-66	ビル建設	民	博多区御供所町129-1 他	324		900709～900929	井澤洋一		048-A-1

9023	名島城址	1	NZE-1	共同住宅	民	東区名島一丁目2415-7他	458	900709～900905	佐藤一郎	032-E-1
9024	雑餉隈遺跡	1	ZSK-1	共同住宅	民	博多区新和町二丁目10-2	300	900718～900825	荒牧宏行	013-A-12
9025	警弥郷Ｂ遺跡	2	KYB-2	共同住宅	民	南区弥永五丁目14-1	444	900726～900929	下村　智	041-A-4
9026	那珂遺跡群	29	NAK-29	倉庫建設	民・補	博多区東光寺町162 他	313	900802～900825	山口譲治	037-A-3
9027	有田遺跡群	159	ART		民	早良区小田部三丁目251	185	900807～900911	加藤良彦	082-A-1
9028	博多遺跡群	67	HKT-67	ビル建設	民	博多区冷泉町1-6	105	900807～900902	常松幹雄	049-A-1
9029	有田遺跡群	160	ART	共同住宅	民	早良区小田部一丁目157	612	900817～900927	小林義彦	082-A-1
9030	吉塚遺跡群	1	YAH-1	共同住宅	公	博多区吉塚本町130-6	2,380	900820～901227	菅波正人、常松幹雄	035-A-5
9031	飯倉Ｆ遺跡	2	IKRF-2	公園建設	公	城南区梅林三丁目地内	1,731	900904～901227	宮井善朗	074-A-3
9032	大橋Ｅ遺跡	3	OOE-3	共同住宅	民	南区三宅一丁目1108-2	80	900904～901002	常松幹雄	039
9033	有田遺跡群	161	ART	下水建設	公	早良区有田地内	86	900910～900331	長家　伸	082-A-1
9034	有田遺跡群	162	ART	共同住宅	民	早良区小田部一丁目108 他	132	900910～900914	山崎龍雄	082-A-1
9035	立花寺遺跡群	2	RGK-2	共同住宅	民	博多区大字金隈字隈ノ下 959	1,002	900919～901225	山口譲治	011-A-2
9036	有田遺跡群	163	ART	共同住宅	民	早良区小田部一丁目123	150	900917～901011	松村道博	082-A-1
9037	比恵遺跡群	32	HIE-32	共同住宅	民	博多区博多駅南三丁目 46-1	159	900925～901113	荒牧宏行	051-A-3
9038	カルメル修道院	2	KMS-2	共同住宅	民	城南区神松寺三丁目 1617-2	224	900926～901016	山崎龍雄	074-A-8
9039	比恵遺跡群	33	HIE-33	社屋建設	民	博多区博多駅南四丁目 150-3	965	901004～900208	下村　智	037-A-1
9040	岩本遺跡群	4	IWM-4		公	早良区大字東入部1443-9	734	901009～901215	吉留秀敏	085-A-6
9041	有田遺跡群	164	ART	共同住宅	民	早良区小田部二丁目106	416	901011～901130	山崎龍雄	082-A-2
9042	博多遺跡群	68	HKT-68	福祉建設	公	博多区古門戸町98-1他	360	901029～910131	井澤洋一	049-A-1
9043	比恵遺跡群	34	HIE-34	事 務 所	民	博多区博多駅南四丁目 15-17	80	901105～901116	菅波正人	037-A-1
9044	中村町遺跡	1	NMN-1	共同住宅	民	南区野間三丁目46-1他	820	901121～910228	荒牧宏行	051-A-3
9045	野芥遺跡群	2	NKE-2	共同住宅	民	早良区野芥五丁目386-1	300	901123～901220	松村道博	084-A-8
9046	那珂遺跡群	30	NAK-30	倉庫建設	民	博多区那珂一丁目462-1	80	901201～901215	常松幹雄	037-A-3
9047	有田遺跡群	165	ART	倉庫建設	民	早良区有田一丁目21-11	184	901207～910111	山崎龍雄	082-A-1
9048	四箇古川遺跡群	1	SHF-1	道路建設	公	早良区大字四箇・東入部	1,000	901113～901117	長家　伸	085-A-1

9049	内野原田遺跡	1		UHD-1	圃場整備	公・補	早良区大字西127 番地	120		901207～901225	池田祐司		早良11
9050	板付遺跡			ITZ	確認調査	市単	博多区板付二丁目9 番	800		901105～910131	二宮忠司		024-A-8
9051	板付遺跡			ITZ	確認調査	市単	博多区板付五丁目5-2	150		901204～910131	二宮忠司		24-A-8
9052	板付遺跡			ITZ	確認調査	市単	博多区板付二丁目7-16	100		901105～910131	二宮忠司		024-A-8
9053	那珂遺跡群	31		NAK-31	病院建設	民	博多区大字那珂字沼口 802-15	123		901218～910131	常松幹雄		023-A-1
9054	堅粕遺跡群	4		KKS-5	公営住宅	公	博多区吉塚一丁目568-2	1,600		901219～910331	菅波正人、山口譲治		035-A-2
9055	博多遺跡群	69		HKT-69		民	博多区奈良屋町267 番地	257		901225～910131	佐藤一郎		048-A-1
9056	野方久保遺跡	3		NKU-3	宅地造成	民	西区野方二丁目486-1 他	300		901225～910131	宮井善朗		092-A-1
9057	浦江Ｂ遺跡	1		URB-1	道路建設	公	西区大字金武字牛久保 860-1	117		910114～900115	吉留秀敏		094-A-10
9058	周船寺遺跡群	7		SSJ-7	共同住宅	民	西区周船寺一丁目531-1	700		910106～910320	山崎龍雄		131-A-1
9059	田村遺跡群	11		TMR-11	道路建設	公	早良区大字田	600		910116～910309	吉留秀敏		092-A-14
9060	山ノ鼻２号墳	1		YHK-1	重要確認	補	西区大字徳永211-4 他	-		910117～910228	小林義彦		120-B-13
9061	比恵遺跡群	35		HIE-35	社屋建設	民	博多区博多駅南四丁目 109-1	432		910218～910323	下村　智、常松幹雄		037-A-1
9062	博多遺跡群	70		HKT-70	共同住宅	民	博多区冷泉町338 他	350		910311～910531	井澤洋一、佐藤一郎		049-A-1
9063	飯倉Ｃ遺跡	2		IKRC-2	共同住宅	民	早良区飯倉六丁目15-2	1,861		910311～910827	小林義彦		073-A-3
9064	比恵遺跡群	36		HIE-36	事 務 所	民	博多区博多駅南六丁目 30-2	820		910308～910331	常松幹雄、荒牧宏行		037-A-1
9065	福岡城月見櫓			FUE	確認調査	市単	中央区城内	190		910301～910331	山崎純男、吉武　学		006-E-1

9001　周船寺遺跡群第６次（ＳＳＪ－６）

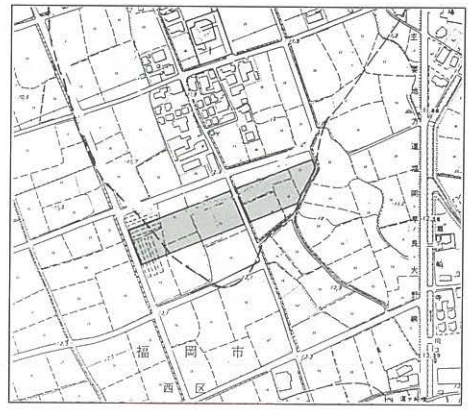
所 在 地　西区大字千里字屋形
調査原因　道路建設
調査期間　900402～900914
調査面積　7,500㎡
担 当 者　松村道博
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は糸島平野の沖積微高地に位置し、文化財分布地図（西部ＩＩ）では周船寺遺跡群と千里遺跡群の中間にあたり、周知の遺跡に含まれなかった。試掘調査の結果、遺構が検出されたので発掘調査を実施した。周辺の調査では千里シビナ遺跡やゾウサ遺跡が調査され縄文時代晩期～弥生時代にかけての遺構が検出されている。

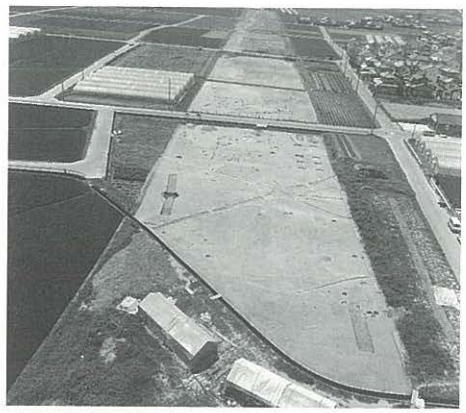
検出遺構　弥生時代の前期甕棺８基、土壙28基、古墳時代の溝２条、掘立柱建物１棟、中世の溝２条、掘立柱建物１棟がある。ＳＫ－23は小規模で平面形は三日月形、断面形はＵ字形を呈する。祭祀用土壙と思われ、丹塗りの壺や鉢、甕、器台など完形品が多く出土している。弥生時代の遺構の基盤層は縄文時代晩期の包含層で土器片や黒曜石製石鏃等が出土している。

出土遺物　出土した遺物はコンテナ38箱である。甕棺と土壙から出土した弥生式土器が主で、他に縄文時代晩期土器、土師器、須恵器、中世の土器が少量ある。

まとめ　調査地点は標高11ｍ前後を測る沖積微高地に占地し、周船寺遺跡群の南端にあたる。今回の調査では住居址は検出できなかったが、集落に伴う溝、土壙があり、小規模な集落が形成されていたものであろう。縄文時代晩期から弥生時代、中世まで連綿と続く集落である。



1．調査地点の位置



2．調査区全景

3．Ⅱ区SK20

9002　那珂遺跡群第26次（ＮＡＫ－26）

所 在 地　博多区那珂二丁目249
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900410～900616
調査面積　436㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は中位段丘面を占める那珂遺跡の南西部に位置する。既往の第20次、第23次調査で検出された弥生中期末の環濠より南へ約50m外側に離れている。

検出面は表土下20mの鳥栖ローム面で、標高11.0mを測る。

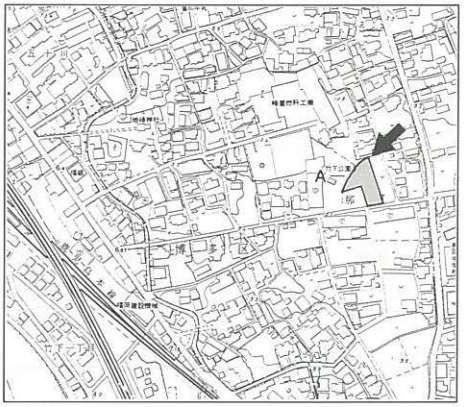
検出遺構
・弥生時代後期：竪穴住居跡４、土壙２、井戸１
・古代：大溝１、掘立柱建物（倉庫）１
・中世：大溝１

掘立柱建物の２間の柱間には地中梁を埋設した幅15cmの溝が検出された。古代（奈良時代）の大溝は幅約７m、深さ1.6mの規模を測る。南北に走行し、調査区北際で東に屈曲する。

出土遺物　総量でコンテナに26箱分出土した。弥生中期中頃の井戸の底より壺、甕等が出土した。奈良時代の大溝からは丸瓦片が出土し、中世末の大溝には第13次調査でも出土した百済系単弁軒丸瓦が混入していた。

まとめ　弥生時代後期においては、中期末の環濠より以南に集落の広がりが認められ、第９次の調査でも検出されている。

７世紀代以降、那珂遺跡では南北、東西に走行する溝が検出され、計画的な区画が認められる。また、既往の初期瓦を含む瓦の出土からも官衙的施設が予想され、今回の調査成果を追認するものである。



1．調査地点の位置（38－Ａ－3、1：8,000）

2．調査区全景
（南から）

3．大溝土層断面
（南から）

9003　那珂遺跡群第27次（ＮＡＫ－27）

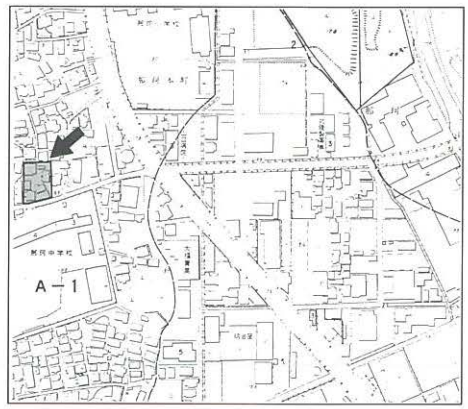
所 在 地　博多区那珂二丁目７－12
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900411～900616
調査面積　756㎡
担 当 者　下村 智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、那珂遺跡群の東南部に位置し那珂川と御笠川にはさまれた標高９ｍ前後の中位段丘上に立地する。付近の第９調査では古墳時代前期の溝、第20次調査では弥生時代の環濠と古墳時代の集落址、第26次調査では奈良時代の大溝などが出土している。遺構は表土直下の鳥栖ローム面で検出できる。

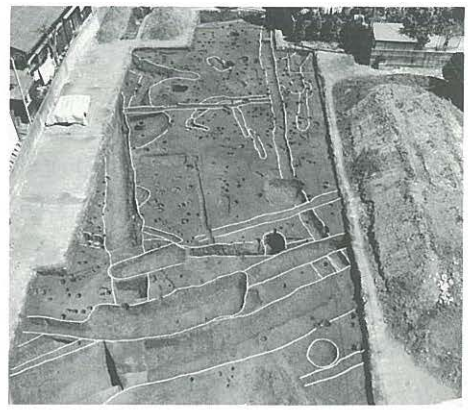
検出遺構
・古墳時代：溝１条、土壙数基
・古代：溝２条
・中世：溝４条以上、土壙数基
・近世：溝３条、井戸址１基、土壙数基
その他、各時期に伴うピットが125個ある。

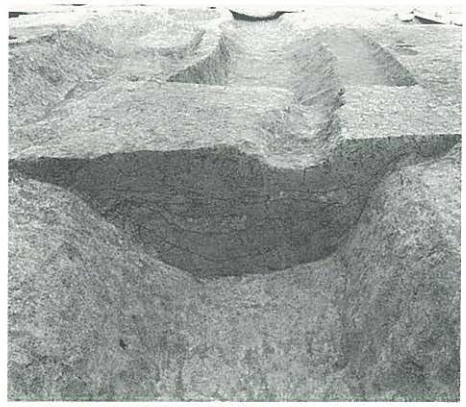
出土遺構　単独出土のナイフ形石器１点、古墳時代の遺構から６世紀代の高杯、甕など須恵器、中世の溝を中心とする遺構から土師皿、瓦質土器、白磁、明染付磁器、近世の遺構から伊万里染付磁器を中心とする近世陶磁器類などが出土している。染付磁器の中には筑前能古焼がふくまれていた。（コンテナ13箱）

まとめ　今回の調査で注目されるのは、略東西方向をとる大溝とこれに平行して30ｍ北側に延びる大溝である。ともに逆台形の断面を呈し、幅2.5ｍ前後、深さ0.7ｍを測る規模である。また、これらの溝と直書くに接続する溝がある。幅1.5ｍ前後、深さ0.5ｍ前後である。これらの溝は時期的に同一で、15世紀を中心とする遺物群が出土している。溝の形状、方向から何等かの区画溝と考えられる。溝に囲まれた範囲内には浅いピットが多数見られた。この付近帯は、中世豪族の山浦氏に縁の深い地域であり、今回検出された遺構も居館の一部にあたる可能性がある。



1．調査地点の位置（24－Ａ－1、1：8,000）


2．調査区全景
（南から）


3．SD-01溝土層堆積状況
（西から）

9004　比恵遺跡群第29次（ＨＩＥ－29）

所 在 地　博多区博多駅南三丁目29
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900410～900428
調査面積　120㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

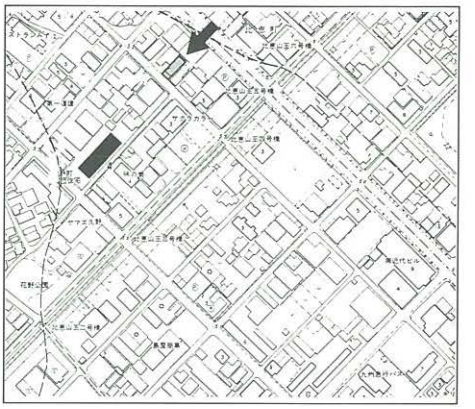
位置・環境　本調査地は、比恵台地の北端部にあたる。調査地周辺では、第24、25、26次調査が実施され、台地の先端に入り込んだ谷が検出されている。標高は約4.6m、地表下0.7～0.9mで基盤の鳥栖ローム層となる。地形は緩やかに北側に傾斜している。

検出遺構　・弥生時代前期～中期：土壙、溝
・中世以降：水田址

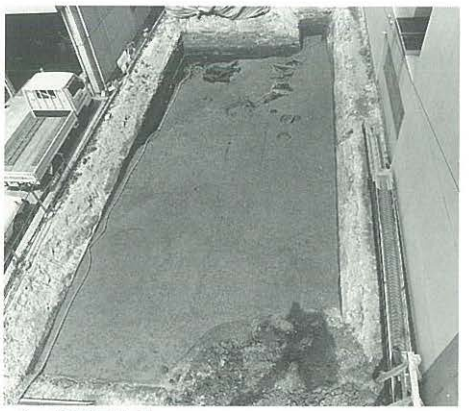
検出した遺構は近・現代の削平によって、残りは良くない。この他、調査区東側は台地の落ち際にあたり、谷部分の弥生時代前期～中期の包含層を検出した。台地の落ち際は約70㎝程急激に落ちた後は、緩やかに北側に傾斜していく。検出し得た谷底の標高は約2.6mである。

出土遺物　遺物は主に谷部の包含層からコンテナ６箱が出土した。包含層の遺物は弥生時代前期～中期の弥生土器、磨製石器、砥石などがある。この他、流木や種子などの植物遺体も多量に出土した。

まとめ　今回の調査では比恵台地の北端の地形の状態が確認できた。比恵台地の先端は第24～26次調査で明らかになったように狭い谷が入り込んだ地形を呈している。今回の調査で台地先端の状況は更に具体的に把握することができ、今後、集落の広がりを考える上で重要な成果を得ることができた。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1、1：8,000）



2．調査区全景
（西から）

3．調査区北東　土層断面
（南から）

9005　鴻臚館址第６次（ＫＲＥ－６）

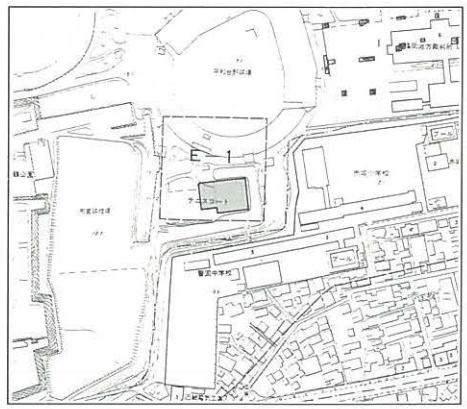
所 在 地　中央区城内
調査原因　確認調査
調査期間　900409～910131
調査面積　1,300㎡
担 当 者　山崎純男、吉武学
処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　鴻臚館跡に比定される平和台野球場周辺は福岡城三の丸にあたる。この地域は城外との比高差約６ｍの低台地となっている。本年度の調査区には野球場南側のテニスコート東半分と昨年度調査区の未掘の土壙群を対象とした。地形は東に緩やかな傾斜をもつ。

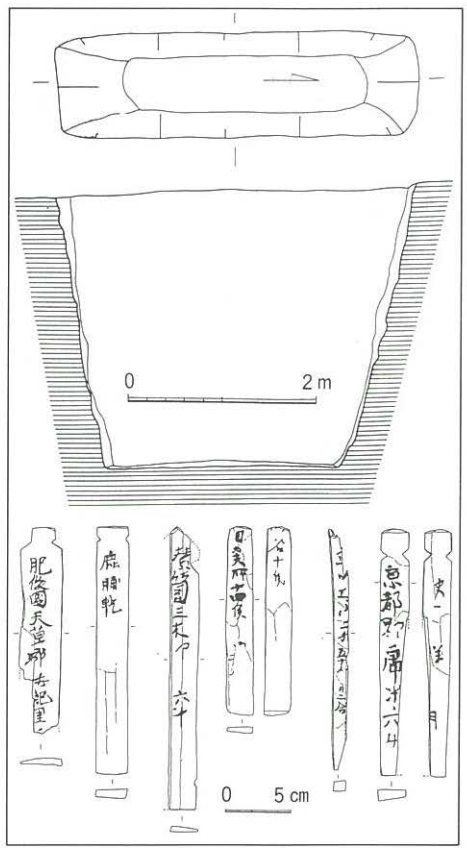
検出遺構　検出遺構は、筑紫館・鴻臚館前半期・鴻臚館後半期の三時期に大別できる。筑紫館に相当する遺構は、布掘りの柵列、掘り込み地業、土壙がある。布掘りの柵列は第５・６次調査区合わせて東西に71ｍと確認した。東端は調査区外に伸び、西端は途中で北に直角に曲がり展示館側に伸びる。展示館の追加調査では北に27ｍを確認した。掘り込み地業は展示館内の追加調査で検出したが、詳細については不明。柵列東西コーナーの南に検出した土壙は南北に並列し、深さ４ｍに達する。中より籌木、木簡が多量に出土し、考古学的所見や脂肪酸分析から日本最古の便所であることが判明した。鴻臚館前半期の遺構としては、大型礎石建物の南側延長部を確認したが、更に南は近世遺構によって破壊されている。後半期の遺構は土壙が主体で、瓦溜めの土壙と越州窯青磁器を多量に出土する土壙がある。

出土遺物　総量コンテナ500箱。大半は奈良・平安時代の瓦類である。越州窯を中心とする中国陶磁器も莫大な量である。新羅、高麗陶器、イスラム陶器も多い。木簡、木製品も出土。

まとめ　古代の便所の確認は特筆すべきであろう。中より出土した籌木として再利用された木簡は、肥後・肥前・豊前・讃岐など各国のものが含まれ、本遺跡が筑紫館（鴻臚館）の可能性が強いことを示している。



1．調査地点の位置（06－Ａ－1、1：8,000）



2．奈良時代土壙（便所）と出土木簡

9006　入部遺跡第４次（ＩＲＢ－４）

所 在 地　早良区大字東入部
調査原因　圃場整備
調査期間　900618～910318
調査面積　22,294㎡
担 当 者　浜石、小畑、宮井
池田、長家
処　　置　調査後破壊

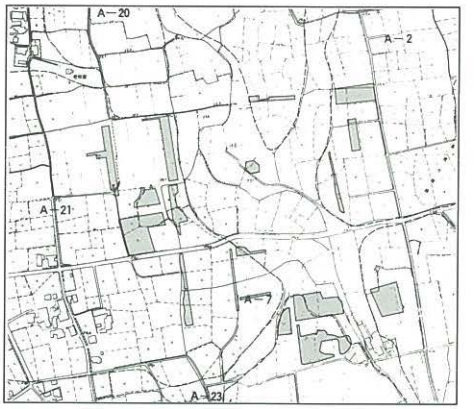
位置・環境　調査地は早良平野南部の室見川右岸、油山西麓に位置する。今回対象地内には四箇船石・四箇古川・清末・岩本・東入部の各遺跡群が分布する。

検出遺構
・縄文時代晩期：溝１
・弥生時代：竪穴住居址、溝、土壙、甕棺墓
・古墳時代：竪穴住居址、溝、土壙
・中世：掘立柱建物、井戸、土壙、溝

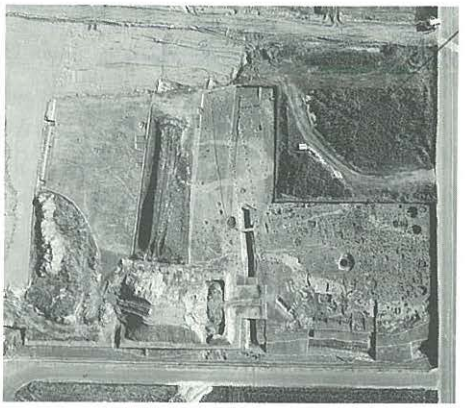
出土遺物　縄文晩期～古墳時代、中世の遺物が出土している。量的には中世集落址に伴う輸入陶磁器、土師器、瓦器、滑石製品が多くを占める。その他試掘時に石帯が出土しており、注目される。

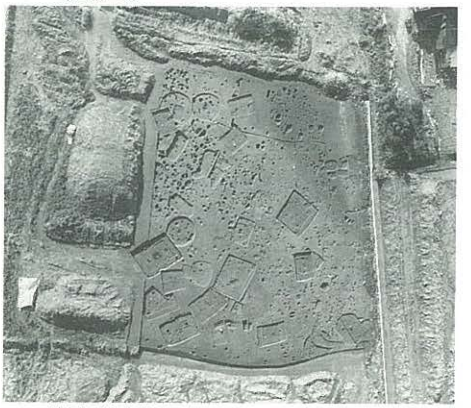
まとめ　今回調査地点では遺構、遺物とも多岐に亘ったが、中でも中世（鎌倉時代）の遺構は対象地全面に万遍無く検出された。清末遺跡群では２×11間の東西棟に同規模の南北棟を東西に配し、内部の数棟の建物を備えている。官衙、寺院的配置であるが当該期に類例を見ない。また方形状に区画された内部に掘立柱建物を配する居館的な建物も検出されており、13～14世紀の入部地域における水田開発の形態をさぐる上で貴重な資料を提供している。

東入部・岩本遺跡群においては弥生時代、これらの集落は旧貞島川との関連で捉えることができ、前述の中世遺構とあわせて、当地域における開発状況を伺うことができよう。



1．調査地点の位置（85－Ａ－7ほか）


2．清末遺跡群全景
（西から）


3．岩本遺跡群全景
（北から）

9907　若八幡宮古墳第２次（ＷＨＫ－２）

所 在 地　西区大字徳永字下引地208－２
調査原因　社殿立て替え
調査期間　900426～900509
調査面積　15.5㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後埋め戻し

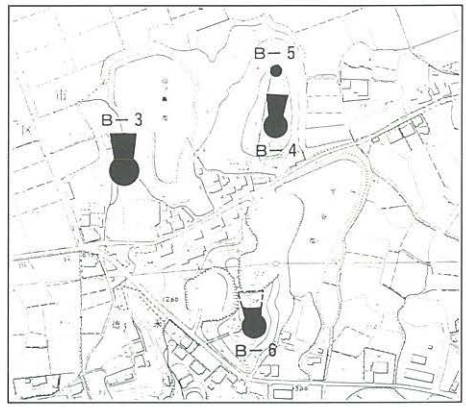
位置・環境　本古墳は、糸島平野の東縁部に東西長約３kmにわたって狭長に延びる今宿平野のほぼ中央部に位置し、高祖山から派生する舌状丘陵上に立地する前方後円墳で、標高は29mを測る。本古墳の南には下谷古墳、北には本墳を基部として又状に分岐した丘陵端部には山ノ鼻１・２号墳が並列してあり、同一丘陵上に４基の前方後円墳が立地している。この狭長な今宿平野には本古墳のほかに鋤崎古墳や今宿大塚古墳・丸隈山古墳等12基の前方後円墳がある。

現状は雑木林で、後円部の西側は社殿によって削平されている。本古墳は、今宿バイパスの建設に先立って1970（昭和45）年に発掘調査が実施されている。その結果、本古墳は刳貫式の舟型木棺を内部主体とする全長約47m、後円部径25m、前方部長25mの３段築成の前方後円墳で、三角縁二神二獣鏡や環頭大刀・鉄剣・短甲等を副葬しており、４世紀後半代の築造と考えられている。

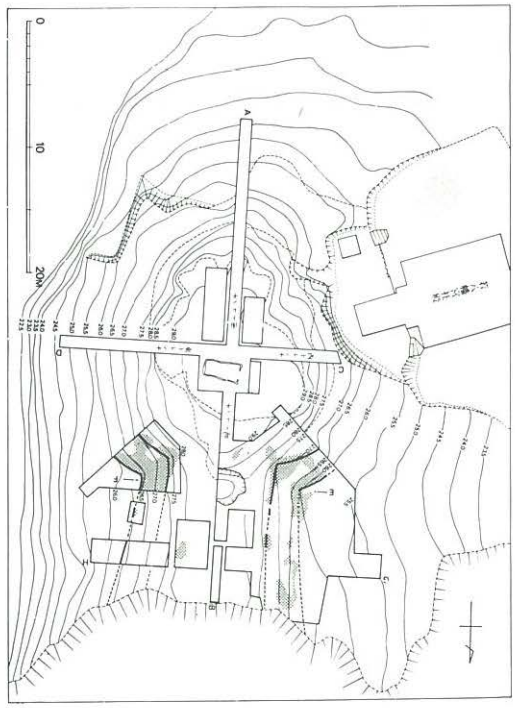
検出遺構　古墳時代：前方後円墳１基
中世：土壙１基

出土遺物　遺物は、中世の土壙等から土師器片15点が出土したが、前方後円墳の築造に伴う遺物は検出されなかった。

まとめ　今回の調査は、老朽化した社殿の建て替えに伴うもので、後円部西側の墳裾確認を目的として実施した。その結果は、前回の調査成果を補完するものであり、墳裾からは葺石は検出されなかった。



1．調査地点の位置（120－Ｂ－6、1：8,000）


2．古墳全体図

9008　那珂遺跡群第28次（ＮＡＫ－28）

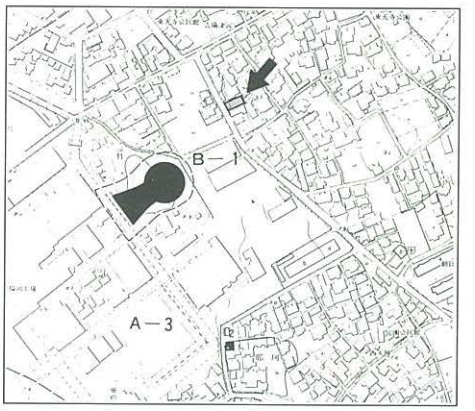
所 在 地　博多区東光寺町一丁目312 他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900510～900609
調査面積　150㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、那珂遺跡の北部、東光寺剣塚の東約100mに位置する。遺構面は耕作土下約50cmで検出したローム層である。

検出遺構　検出した遺構は16世紀前半の矩形の溝１条、地下式土壙１基、18世紀代の溝１条などである。16世紀前半の矩形の溝は幅1.0～1.5m、深さ50～80cmを測り、調査区内では北辺約7.0mおよび西辺約3.0mを検出した。溝の北辺の調査区端より3.5mにわたって幅約30cm、深さ約20cmの浅い溝が南に接して検出された。地下式土壙は矩形の溝の北辺と接して検出されたが、先後関係は明らかにできなかった。底面の長さ2.3m、幅1.9m、深さ0.9mを測り、天井部は崩れ落ち、壁は上方に向かって窄まる。底面のほぼ中央では径70cm、深さ10cm、の浅い皿状のピットを検出した。

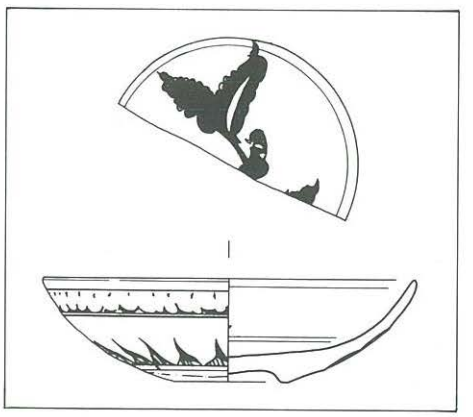
出土遺物　遺物は16世紀代の溝、地下式土壙から瓦質すり鉢片、瀬戸・美濃系天目碗片、明代の青花磁（碗片、碁笥底の皿）等が出土している。18世紀代の溝からは、内底見込みに昆虫文を描く肥前系磁器が出土した。先般発掘調査が行われた能古焼の可能性がある。

まとめ　今回の調査では、那珂遺跡の北側中央部、東光寺剣塚の東約100mという立地にもかかわらず、古墳、弥生時代の遺構は全くみられず、中世後半の遺構の残存状況と考えあわせてみて、後世の多大な削平により、遺構が破壊されたものと考えられる。



1．調査地点の位置

2．調査区全景（西から）


3．那珂28次出土青花皿

9009　三苫遺跡第２次（ＭＴＭ－２）

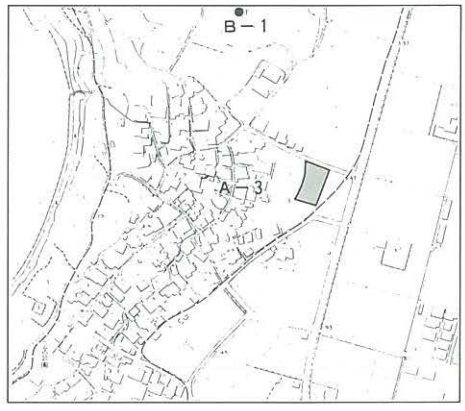
所 在 地　東区大字三苫字草場184－１
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900514～900623
調査面積　450㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、三苫遺跡ののる丘陵先端部にあたる。標高は約５ｍ程で、同じ丘陵頂部には三苫京塚をはじめとする古墳群が分布している。

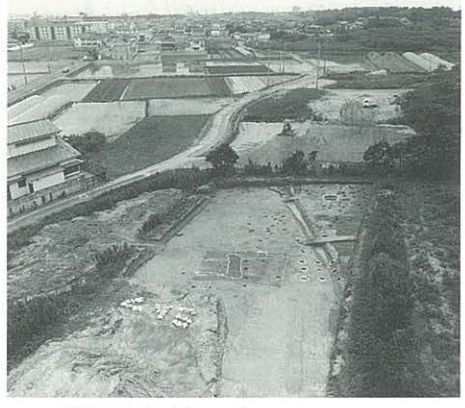
検出遺構　調査は地表下0.5ｍあまりの表土を重機で掘削したのち、遺構の検出を行った。検出された遺構は古代と中世に区別できる。古代８世紀後半に属するものには一辺１ｍ程の土壙１基、掘立柱建物３軒などがある。掘建柱建物は２×２間が２軒で、うち１軒は総柱で倉庫の可能性がある。その南側の不整形の落ちこみでは、鉄滓がコンテナ１箱分検出された。この周囲から落ちこみを囲むように柱穴も確認され、鍛冶に関係ある工房跡かもしれない。

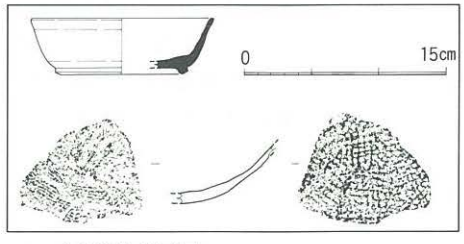
一方、中世の遺構としては、南北方向に走る溝１条がある。溝中より出土した陶磁器などから15世紀頃と考えられる。

古代の遺物としては、須恵器の坏や玄海灘式製塩土器などがある。古代におけるこれらの遺物と倉庫、工房跡などを関連づけるとき、海岸部にある御贄をとり、加工、管理などの機能をあわせもった厨戸のひとつとしての姿が窺えるようである。



1．調査地点の位置（27－Ａ－3、1：8,000）


2．調査区全景（北から）



3．出土遺物実測図

9010　堅粕遺跡群第４次（ＫＫＳ－４）

所 在 地　博多区吉塚１丁目１番外
調査原因　市営住宅改築
調査期間　900514～900630
調査面積　845㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　調査後破壊

位置・環境　当該地は御笠川右岸の砂丘上に立地し、現在の標高は約４ｍを測る。砂丘の南側後背地の緩く傾斜した地形に遺跡は形成されている。

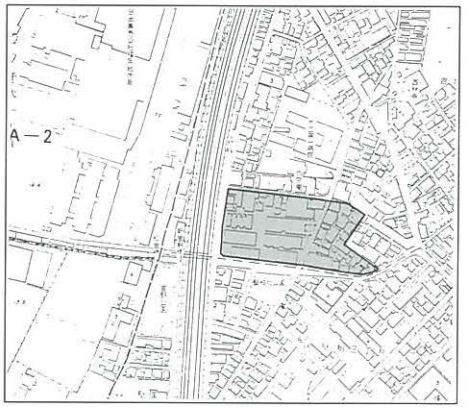
試掘調査によれば、遺構は後世の撹乱により遺存状態が悪いと判断されていたが、遺構の分布状態を再度確認したところ開発予定地全体に遺跡が存在することが判明した。

検出遺構　土層は、上から表土、暗い黄褐色粘質土、黄褐色砂、灰白色微砂の順である。表土は近代の整地層で、深さ20～40㎝を測る。第２層は粘土粒子を含んでおり、締りが良い。厚さは10～20㎝を測り、この土層内には、６～８世紀代の須恵器坏・身や土師器の甕、カマド片などが含まれており、整地層と考えられる。

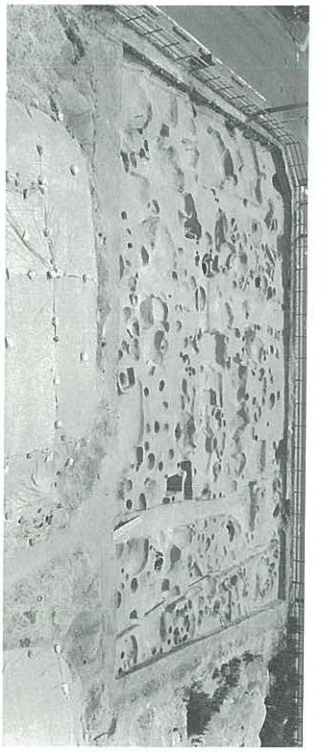
・奈良時代　土壙、井戸
・江戸時代　土壙、井戸
・近現代　土壙、瓦井戸

出土遺物　出土した遺物の数量はコンテナ14箱である。古墳時代は須恵器坏身、蓋、甑、甕片等が、奈良～平安時代は須恵器坏、蓋、甕の他、土師器の坏、埦、内黒土器、軒平瓦、布目瓦、曲物等が出土。近世の遺物には伊万里、唐津系の陶磁器、土師質土器の鍋、鉢、焙烙が出土した。

まとめ　従来、この地域では遺跡の発掘調査例が少ないため遺跡の性格については不明な点が多かったが、今回の調査によって奈良時代の遺構や遺物を検出したことは、古代においてこの地域が近隣に所在している博多遺跡群や筥崎宮と密接な関連をもった遺跡と考えることができる。



1．調査地点の位置（35－Ａ－2、1：8,000）



2．調査区全景（東から）

9011　拾六町平田遺跡第２次（ＪＲＨ－２）

所 在 地　西区石丸二丁目489－１他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900517～900921
調査面積　1,260㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

立地・環境　調査地点は室見川や十郎川の沖積作用によって形成された沖積微高地上に立地し、現標高は４ｍを測る。調査区周辺では西側に石丸古川遺跡、東側に福重稲木遺跡南側に橋本一丁田遺跡など、縄文時代晩期末の突帯文土器期から弥生時代中期頃までの遺跡が点在している。第１次調査では中期の水田が確認されている。

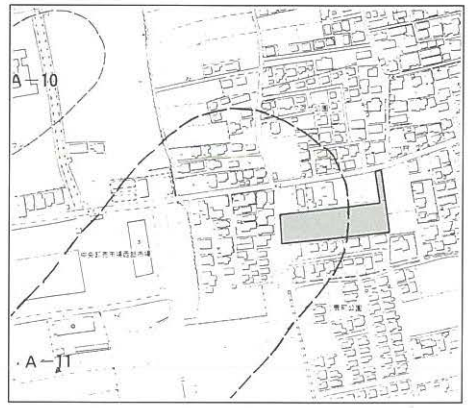
検出遺構　表土下１ｍで弥生時代から古墳時代後期までの遺物を含む包含層を検出し、更にその下で、弥生時代の旧河川と土壙、ピットなどを検出した。主な遺構は以下の通りである。

・弥生時代：旧河川２条、溝７条、土壙５基
・古墳時代後期：祭祀遺構

出土遺物　包含層からは弥生時代前期から古墳時代までの各時代の遺物が出土した。特に古墳時代の祭祀遺物と考えられている滑石製の管玉、臼玉、ミニチュア土器などが数個づつ出土している。また旧河川から縄文時代晩期の夜臼式土器や弥生時代前期前半の板付Ⅰ式土器が多量に出土し、また木製品類も出土している。東側の旧河川からは炭化米も出土している。出土遺物総数はコンテナ100箱である。

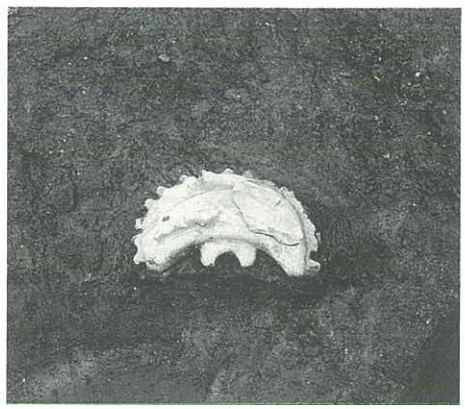
まとめ　早良平野では弥生時代前期の段階では、標高５ｍ前後の沖積地に遺跡が立地することが多く、また炭化米の発見は周辺で稲作農耕が行われていたことが明確となった。

包含層から発見された滑石製の祭祀遺物は当地で水に関する祭祀が行われていた証拠と考えられる。



1．調査地点の位置（035-A-2、1：8,000）

2．調査区全景（東から）


3．子持勾玉出土状況

9012　比恵遺跡群第30次（ＨＩＥ－30）

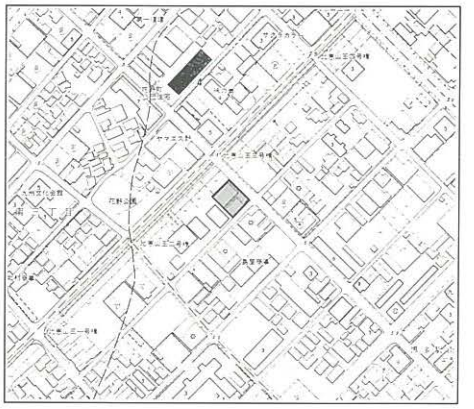
所 在 地　博多区博多駅南四丁目221
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900519～900620
調査面積　570㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、比恵台地の北側部分にあたり、第31次調査地点に近接する。調査地周辺では、第24、25、26次調査が実施され、台地の先端に入り込んだ谷が検出されている。標高は約5.7m、地表下0.4～0.6mで基盤の鳥栖ローム層となる。

検出遺構
・弥生時代前期：貯蔵穴29基
・弥生時代中期：井戸３基
・古墳時代初頭：溝１条
・古墳時代　　：竪穴住居址１軒
・古代　　：掘立柱建物１棟

出土遺物　遺物は貯蔵穴、井戸からコンテナ50箱が出土した。貯蔵穴の遺物は弥生時代前期の弥生土器、磨製石器、砥石などがある。また、貯蔵穴SU-012からはカキ、ハマグリ等の貝殻やタイ、ウナギ等の魚骨、イノシシの頭骨が出土した。この他、井戸SE-009からは弥生時代中期末の弥生土器とともに中細銅戈の鋳型片が出土した。

まとめ　今回の調査では弥生時代前期から古墳時代にかけての各時代の遺構を検出することができた。特に弥生時代前期の貯蔵穴がこの地域に群集する事が判明した。本調査区の南側の第31次調査地点でも同時期の貯蔵穴が検出されており、周辺にも貯蔵穴が群集して分布することが予想される。今までの調査では第４、26、28次調査地点で貯蔵穴が検出されているが、数基程度で今回の調査での在り方と異なる。第26次調査では同時期の竪穴住居址が検出されており、集落内での住居と貯蔵施設の関係を考える上で重要な成果と言えよう。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1、1：8,000）

2．遺構全景
（北から）

3．SU-012　検出状況

9013　青木遺跡群第２次（ＡＯＫ－２）

所 在 地　西区今宿青木字小畠106 他
調査原因　共同住宅
調査期間　900521～900703
調査面積　2,449㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、糸島半島の東縁部に細長く伸びる今宿平野の東部にあり、高祖山塊から底平な舌状丘陵の先端部に立地する。

現況は水田。表土層を20～50cm除去すると遺構の掘り込まれた黄褐色の鳥栖ローム層に達し、東側に浅い谷が入る。北隣には、1985年に調査された第１次調査区があり、竪穴住居址や掘立柱建物址等が検出されている。

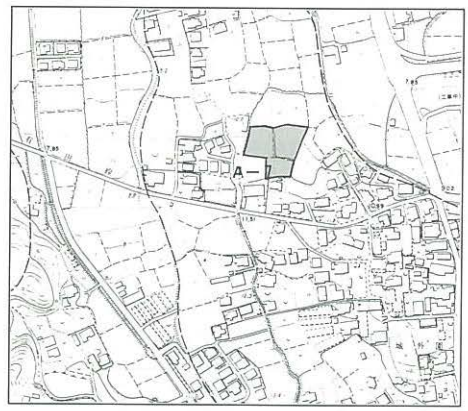
検出遺構　弥生時代：竪穴住居址１軒、井戸址２基
古代：掘立柱建物址10棟、井戸址２基、土壙、墓１基、溝５条

出土遺物　遺物は、主に井戸址や土壙等から弥生式土器（コンテナ１箱）や土師器（コンテナ２箱）・須恵器（コンテナ１箱）のほか磨製石斧などの石器（標本箱１箱）等が出土しているが、全体的に出土量は少ない。

まとめ　弥生時代の井戸址は、いずれも直径１～1.5m、深さ1.5～２mの素掘りのもので、後期の壺や甕片が出土している。

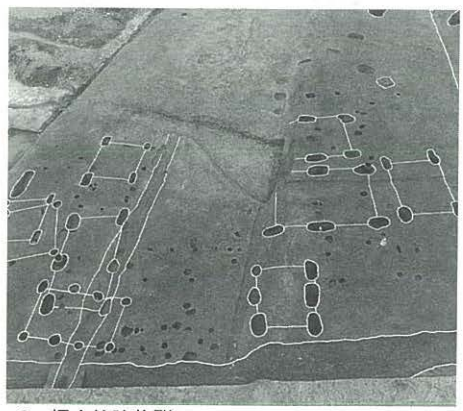
古代の掘立柱建物址は、１×１間、１×２間、１×３間の規模で切りあいから２時期にわかれる。これらの建物址は、東側の谷を背にした幅１～２mの「コ」字状溝によって囲まれている。また、この溝は北西隅が陸橋状に途切れており、出入り口部としての機能を持つものと考えられる。

本調査区で検出した「コ」字状溝によって囲まれた掘立柱建物群は、当該期の集落構成の最小単位を示すものである。第３面は、畦畔の一部を検出したのみで遺存状況は悪い。畦畔は第２面と同方向に走り水口等は確認できなかった。水田１枚の面積は30～50㎡と推定される。



1．調査地点の位置（112－Ａ－7、1：8,000）

2．調査区全景
（北から）


3．掘立柱建物群
（北から）

9014　藤崎遺跡群第20次（ＦＵＡ－20）

所 在 地　早良区高取二丁目173番３号
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900523～900704
調査面積　185㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は藤崎遺跡の中央、東西方向に延びる古砂丘の南緩斜面と独立小丘陵の西斜面とが接する位置にある。周辺では第１、２、10、13次調査が行われており、弥生時代～近世の甕棺墓、方形周溝墓や溝、竪穴住居址などが検出されている。

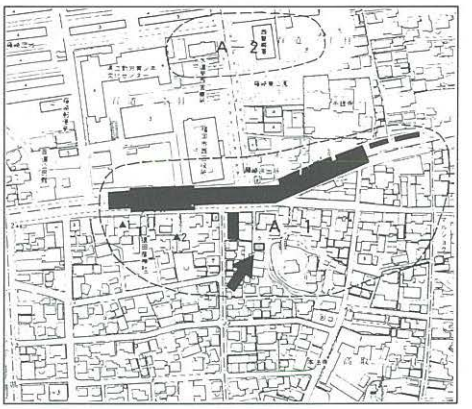
標高3.5mで旧状は宅地である。表土下35cmで近代、80cmで古墳時代後期の客土層が有る。その上面が遺構面となっており、古墳時代後期から近代に及ぶ遺構を検出している。

検出遺構
・古墳時代後期：土壙３、溝２
・平安時代末～鎌倉時代：井戸１、溝１
・近代：土壙６、溝３

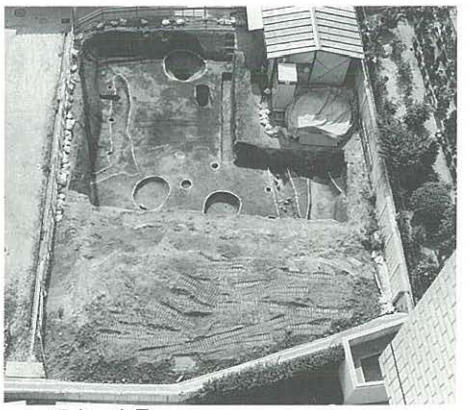
出土遺物　包含層及び遺構からコンテナ10箱分を検出した。弥生時代後期から近代までにわたるが、９割以上を高取焼関係が占める。

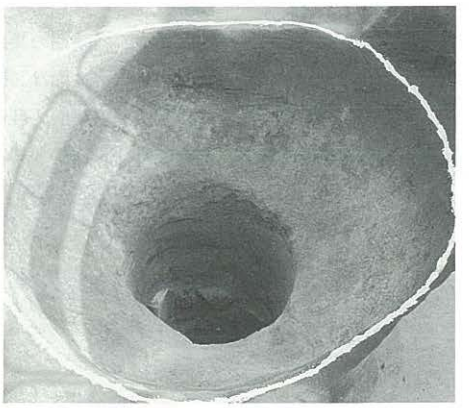
まとめ　近代の高取焼関係の遺構は東側の独立丘寄りの部分に集中し、多量の窯道具、焼損品を検出した。溝は南北方向で、上部客土層の上下２面にわたっている。

古墳時代の遺構も下部客土層の上下両面にわたっている。客土層は風化した砂岩角礫混じりの砂質土で、東側の独立丘陵を削平し、谷部を浅く埋めならしめたものと思われ、下面の検出遺物は客土上層のものと大きな時期差はなく、７世紀後半から末にかけての地業と思われる。



1．調査地持の位置（81－Ａ－1、1：8,000）


2．調査区全景
（南から）


3．井戸址検出状況
（北から）

9015　脇山遺跡群第５次（ＷＫＡ－５）

所 在 地　早良区大字脇山字大楽、小ノ原
調査原因　圃場整備
調査期間　900523～901228
調査面積　18,718㎡
担 当 者　浜石、小林、小畑、長家、池田
処　　置　調査後破壊

位置・環境　脇山遺跡群は、早良平野の奥部背振山の南側山麓に椎原川と小笠木川によって形成された扇状地にあたる。今年度の調査区は、３次、４次調査地点の南に位置し、標高約77ｍを測る。

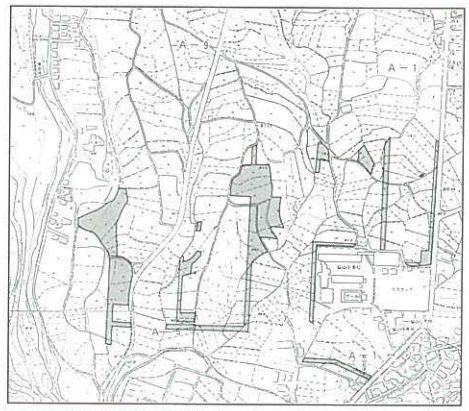
調査対象区は、切り土によってよって削平される部分と水路などの永久構築物が計画されている部分とした。

検出遺構
・縄文時代晩期：土壙、集石遺構、埋甕、包含層
・古墳時代後期：竪穴住居址、土壙
・中世：掘立柱建物、焼壁土壙、土壙

出土遺物　縄文時代は、楕円押型文土器を数点採集した他は晩期の遺物が主体である。土器を中心に石鏃、磨製石斧、石臼等が主に包含層より出土した。古墳時代では、住居址のカマドから甕形土器および赤焼けの須恵器の坏が出土している。掘立柱建物の柱穴には、龍泉窯系青磁碗、四耳壺が埋置されていたものがある。

まとめ　縄文時代から中世までの幅をもつ遺跡だが、弥生、古墳時代の遺構・遺物は少なく、連続しない。縄文時代晩期前半の一時期になんらかの生業が営まれた後は、掘立柱建物、焼壁土壙にみられるように、12世紀後半以降に大きな開発が始まるものと考えられる。

晩期の遺物は調査区のほぼ全域で採集され、集中する４ヶ所を中心に調査した。黒川式並行期までが主体を占めるが、刻目突帯文土器は小片１点のみである。



1．調査地点の位置(18－Ａ－5)

2．調査区遺構全景

3．集石遺構検出状況

9016　比恵遺跡群第31次（ＨＩＥ－31）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目201
調査原因　共同住宅建築
調査期間　900621～900713
調査面積　530㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

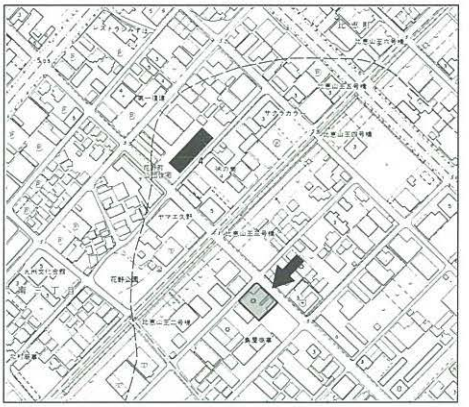
位置・環境　本調査地は、比恵台地の北側部分にあたり、第30次調査地点に近接する。調査地周辺では、第24、25、26次調査が実施され、台地の先端に入り込んだ谷が検出されている。標高は約5.8m、地表下0.6～0.8mで基盤の鳥栖ローム層となる。

検出遺構
・弥生時代前期：貯蔵穴７基
・弥生時代中期：溝２条
・弥生時代後期～古墳時代：河川跡１条
・古墳時代　　：溝２条、土壙１基
・古代　　：土壙１基

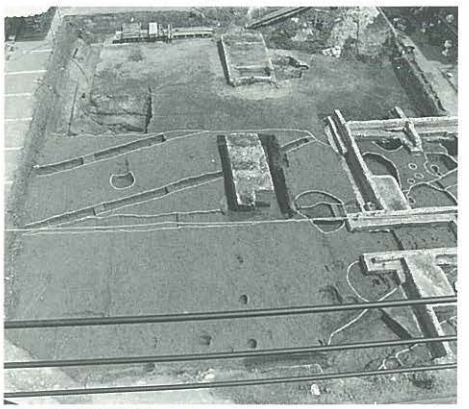
本調査区では第30次調査と同様に貯蔵穴を多数検出したが、遺構の遺存状態は悪く、深さ10～40cmが残存するのみである。また、調査区南側では東西方向に流れる河川跡を検出した。河川跡SU-014は調査区内では北岸を検出したのみで幅などは不明である。

出土遺物　遺物は貯蔵穴、河川跡からコンテナ25箱が出土した。貯蔵穴の遺物は弥生時代前期の弥生土器、磨製石器、砥石などがある。また、河川跡SD-014からは弥生時代後期から５世紀にかけての弥生土器、土師器、須恵器等が多量に出土した。

まとめ　今回の調査では第30次調査地点で検出した貯蔵穴が更に南側に分布することが判明した。これらの成果からこの地域には弥生時代前期の間に100基近い貯蔵穴が営まれたと想定される。この他、河川跡SD-014は弥生時代後期から５世紀にかけて流れていたものであるが、今後の調査でこの河川の流路や規模などの解明が待たれる。



1．調査地点の位置
（37－Ａ－1、1：8,000）



2．調査区全景
（北から）

3．SD-014
検出状況
（東南から）

9017　博多遺跡群第65次（ＨＫＴ－65）

所 在 地　博多区祇園町161-1
調査原因　ビル建設
調査期間　900703～901211
調査面積　1,335㎡
担 当 者　小畑弘己・佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、博多遺跡群の南側にあたる。地表下1.5mまでを重機ですき取ったのち、人力で包含層を掘り下げた。都合５面の遺構検出面を設定した。

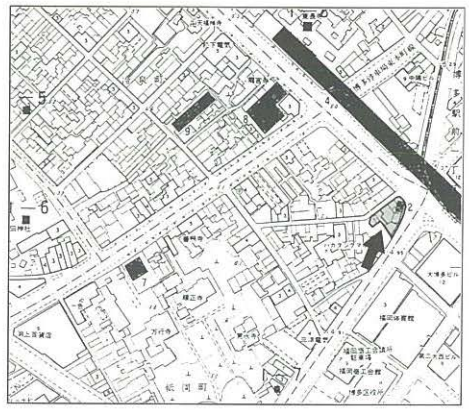
検出遺構・出土遺物

第Ⅰ、Ⅱ面……14世紀前半の包含層上面で遺構の検出にあたったが、既存の建物の基礎杭やコンクリート枠積み上げの井戸等の撹乱のほか近世後期から近代にかけての井戸を除いて顕著な遺構は確認できなかった。

第Ⅲ面……12世紀後半の包含層面で遺構の検出にあたった。柱穴・溝・井戸・土壙等が検出された。遺構の時期は13世紀後半から14世紀前半にあたる。包含層掘り下げの際、博多周辺域に限定してみられる瓦が多量に出土した。平瓦は縄目の叩きをもつ薄手のものでその大半を占め、丸瓦は少ない。瓦当文様は軒平瓦がひだ状の押圧文、軒丸瓦は花文であろうが、複数の型がみられる。第Ⅲ面に伴う遺構ではないが、黄色砂までおよぶ撹乱層を除去した面で当核期の井戸を検出したが、井戸枠内より、多量の滑石製石鍋の未製品、原石が出土した。

第Ⅳ面……黒色砂（風成砂）上面で遺構の検出にあたった。柱穴・溝・井戸・土壙等が検出された。溝ＳＤ03は西に約10°ふれ、南北にのび、調査区の南西部で西に屈曲してのびる。今回の調査区の北側のあたる第25次調査区の西端で検出された溝とつながるものとみられる。溝の幅約2.0m、深さは約1.4mを測り、断面形はＶ字を呈する。溝ＳＤ03、土壙ＳＫ300、ＳＫ601、ＳＫ602からは包含層出土のものと同じ型の瓦が多量に出土した。遺構の時期は12世紀後半から13世紀前半、「白磁単純期」の遺構はみられなかった。

第Ⅴ面……黒色砂（風成砂）の下面の黄色砂



1．調査地点の位置（49－Ａ－1、1：8,000）

2．第Ⅲ面全景（12世紀後半、東から）

3．南北溝（12世紀後半、北から）

にあたる、黒色砂中からは殆ど遺物の出土はない。8世紀前半の掘立柱建物2棟（2間×4間の側柱のみ、2間×2間の総柱）、井戸1基を検出した。建物上面の包含層（但し、第Ⅲ面掘り下げ時の12世紀前半の包含層に下層のものが混入）からは、石製巡方が出土している。井戸からは、僧？、隅、十、奉の墨書が記されている土器が出土した。4世紀前半のものでは、1間×4間の掘立柱建物1棟、竪穴式住居跡2棟、鍛冶炉を廃棄した土壙1基、方形周溝墓1基、溝1条を検出した。

まとめ　今回の調査では、4世紀前半、8世紀前半、12世紀後半～14世紀前半の遺構が主体として検出された。4世紀前半から8世紀前半にかけての遺物は、ほぼ間断なくみられたが、黒色砂（風成砂）の時期、8世紀後半～12世紀前半の遺物は殆どみられず、今回の調査地区においては空白の400年といえる。特に宋商人が多く博多に居住し活躍した11世紀後半から12世紀前半の遺構がみられないことから、当時は宋人居住区からはずれていたことを示唆するものであろう。今後、調査の進展とともに11世紀後半から12世紀前半の遺構が密集する地域を絞り込む作業を積み重ね、陶磁器の組成等もかねあわせて、宋人居住区「宋人百堂」の範囲を確定することが可能となるであろう。4世紀前半の鍛冶炉、13世紀後半から14世紀前半にかけての井戸から出土した滑石製石の未製品、原石はその生産と流通を探る上で、貴重な資料である。

4．第Ⅳ面全景
（8世紀後半、東から）

5．掘立柱建物
（8世紀後半、南から）

6．鉄滓廃棄壙
（14世紀前半、南から）

9018　飯倉G遺跡第2次（IKR－2）

所 在 地　早良区干隈二丁目地内
調査原因　公園建設
調査期間　900703～900831
調査面積　1.480㎡
担 当 者　宮井、長家
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は油山より派生する丘陵上に位置する。前年度調査地点の延長部分にあたる。1区は民家が立っており、削平が著しく、2区は丘陵西側斜面にあたり、雑木林であった。標高は凡そ22m。

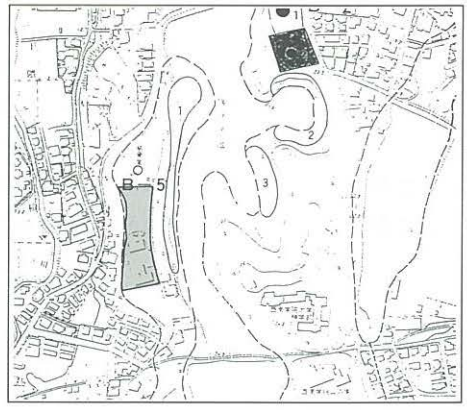
検出遺構　全体に遺構の密度は散漫であり、削平も手伝って遺存は良くなかった。

・1区：竪穴住居址、土壙、ピット
・2区：竪穴住居址、溝、土壙、ピット

また2区より石棺墓とも思われる土壙を検出した。石材の抜き穴等を検出したが、基底部のみの検出であり詳細は不明である。

出土遺物　遺物量は少なく全体でパンケース4箱分出土した。竪穴住居址からは古墳時代後期に属する須恵器、土師器が出土した。また他には古代に属する須恵器等が出土している。

まとめ　遺構、遺物ともに少なかったが、前回調査の結果と合わせ考えることによって、古墳時代後期～古代の本遺跡群についての推移もうかがうことができるであろう。



1．調査地点の位置（74－A－2、1：8,000）

2．Ⅱ区全景
（南から）

3．土壙群検出 状況
（東南から）

9019　羽根戸古墳群B群第2次（HNK－B－1）

所 在 地　西区大字野方字塚原1098-1他
調査原因　宅地造成
調査期間　900709～900808
調査面積　古墳1基
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　羽根戸古墳群は、140基からなる古墳時代後期の群集墳で早良平野の西縁を画す叶岳山塊の東麓に広く立地する。本古墳は、この羽根戸古墳群のB群に属し、これから東に伸びる標高90mを測る小支丘の南斜面上に立地する。現状は山林である。

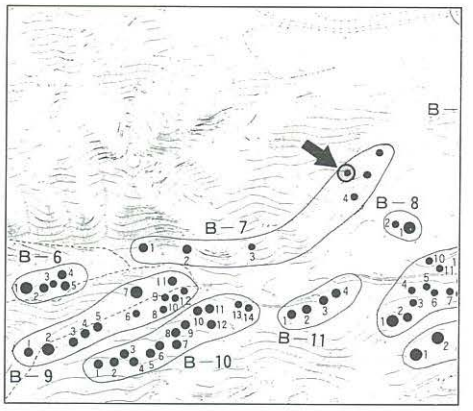
検出遺構　古墳時代後期：円墳1基，焼土壙1基

出土遺物　遺物は、横穴式石室や墳丘上に供献された須恵器（コンテナ1箱）のほか刀子等の鉄器（標本箱1箱）が出土した。

まとめ　本古墳は、墳径1.5mの円墳で、後背面には地山の削り出しによる幅1～1.5mの馬蹄形溝が巡る。

石室は、長さ1.5m、幅1.8mを測る両袖式単室の横穴式石室で、南側の谷に向かって開口する。壁面は、奥壁に3個、側壁に各々2個の腰石を据え、その上に7～8段の小振りの花崗岩を持ち送りぎみに小口積みしている。石室内には扁平な花崗岩を敷き並べているが、大半は盗掘によって消失している。羨道は長さ2.4mで、東側壁は玄門と同じレヴェルから構築しているために墓道から見た石室は片袖的な様相をなす。閉塞石は基底に30～50cmの比較的大きい花崗岩を敷き、徐々に小振りに積み上げている。墓道は削平のため大半が消失していた。この墓道と閉塞石下には鉄滓と炉壁体片が供献されていた。

本古墳は、石室内と羨道の副葬遺物から6世紀後半から7世紀代にかけて順次築造、追葬されたものと考えられる。



1．調査地点の位置（105－B－7、1：8,000）

2．古墳全景
（南から）

3．石室検出状況
（南から）

9020　有田遺跡群第158次（ＡＲＴ－158）

所 在 地　早良区有田一丁目34－１
調査原因　専用住宅建設
調査期間　900709～900727
調査面積　214㎡
担　　当　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

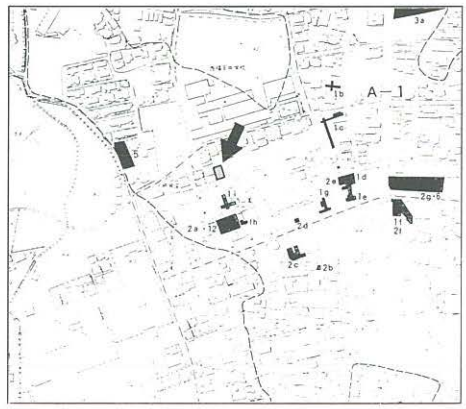
位置・環境　本調査区は有田遺跡群の西南部、北西方に延びる小支丘の中央基部にあたり、近接して第１次、第31次調査が行われている。現況は未使用の宅地で地表下10～20cmで基盤のローム層に達する。

検出遺構　検出した遺構は次のとおり。
・古墳時代～奈良時代：土壙２基、柵列２条
・古墳時代～中世　　：掘立柱建物７棟

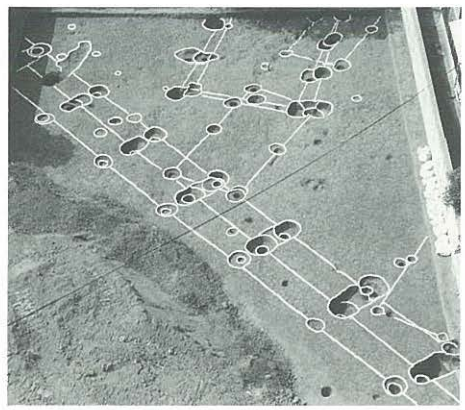
出土遺物　遺物は柱穴覆土から土師器、須恵器の小片が少量出土したのみで年代比定が困難である。総量でコンテナ１箱未満。

まとめ　柵列は北から西に60°ほどの方向で、調査区を斜断するように検出された。柵列は改築されており、１本単位の柵列に３本単位の柵列が柱間をそろえて重複している。ともに柱間間隔は2.6～2.7ｍで６間分を確認、柱掘り方は直径、深さともに40cm前後、柱痕跡は15cmほどである。現在までにこの２種の柵列は７地点で別個に検出されていたが、本調査で一本単位の柵列が前出する可能性が示された。３本単位の柵列柱穴からやはり７世紀前葉の須恵器を検出している。

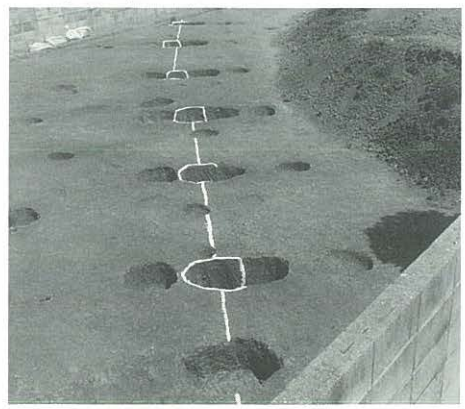
７棟の掘立柱建物は桁方向をＮ－７°－Ｗから Ｎ－23°－Ｗをとり、方向から４グループにわけられる。切りあいから少なくとも３時期にわたるとおもわれる。



1．調査地点の位置（82－Ａ－2、1：8,000）



2．調査区全景
（南から）



3．SA02柵列検出状況（北西から）

9021　相原古墳群C群第1次（ABK－C－1）

所 在 地　西区大字上の原字相原
調査原因　畑地造成
調査期間　900709～900803
調査面積　160㎡
担 当 者　下村、常松、荒牧、佐藤、菅波
処　　置　調査後破壊

位置・環境　相原古墳群は今宿平野の南端、高祖山から東側に延びる丘陵上に築造された群集墳である。標高約58mを測る。

今回の調査は相原古墳群C群の内の6号、21号墳について行った。2基の古墳とも墳丘の残りは悪く、石室の天井石等は既に持ち去られていた。

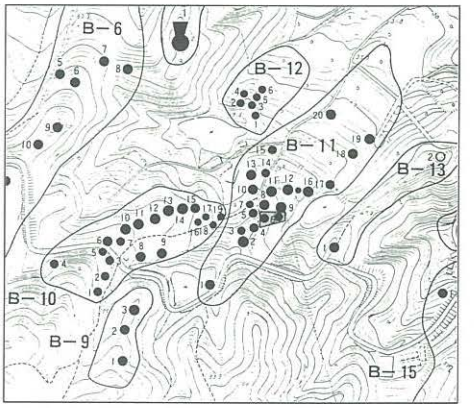
検出遺構　6号墳は直径約8～9mの円墳である。主体部は両袖型の横穴式石室で、南側に開口する。天井石は残存していない。石室の全長4.5m、玄室長1.2m、幅1.6mを測る。玄室内は撹乱をうけていて、副葬品は原位置を保っていない。

21号墳は6号墳の東側に近接して築造された直径8～9mの円墳である。墳丘の一部に外護石が認められる。主体部は両袖型の横穴式石室で、南側に開口する。天井石と右側壁は残存していない。石室の全長約3.8m、玄室長1.6m、幅1.6mを測る。

この他、6号墳の墳丘の北側で焼壁土壙を1基検出した。土壙からは少量の須恵器片が出土した。古墳に関連する遺構と考えられる。

出土遺物　遺物は6号墳の玄室からは須恵器、土師器が出土した。また、羨道からは耳環、鉄滓が出土した。出土遺物から6世紀末～7世紀前半に位置づけられる。

21号墳の石室からは須恵器、土師器が出土した。また、羨道からは耳環、鉄滓が出土した。出土遺物から7世紀中頃～7世紀後半に位置づけられる。（コンテナ6箱）



1．調査地点の位置（113－B－11、1：8,000）

2．相原古墳全景（東から）

3．第6.21号墳 石室（東から）

9022　博多遺跡群第66次（ＨＫＴ－66）

所 在 地　博多区御供所町129－１他
調査原因　テナントビル建設
調査期間　900702～900929
調査面積　324㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　調査後破壊

位置・環境　当該地は旧博多部に所在する東長寺の南側に位置している。この地域は博多遺跡群の中では標高が最も高く、古砂丘頂上部に相当する。当該調査地点の南側約50ｍの第27次調査では全長75ｍの前方後円墳を発見している。

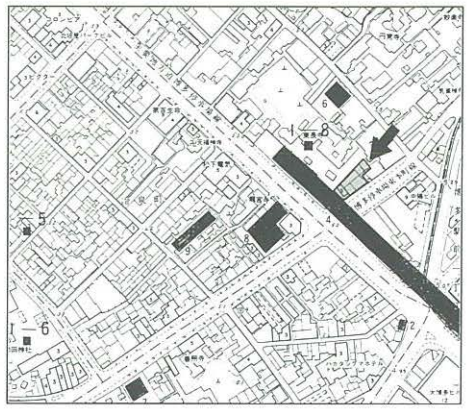
検出遺構　調査では地表下約1.2ｍを重機によって削除した。遺構面は３ｍ存在する第１面は近世の遺構が主体を占めており、17～19世紀の年代幅をもっている。第２面の遺構面は暗黄褐色粘質土又は暗灰色粘質土で、11～13世紀までの遺構や遺物を検出した。井戸はいずれも井側に木桶を用いているが、基底部には曲物は存在しない。第３面は非常に遺存状態が悪い。

第１面　江戸時代　土壙、素掘井戸、溝、ピット
第２面　鎌倉時代　土壙、井戸、溝、ピット
第３面　平安時代　井戸、ピット

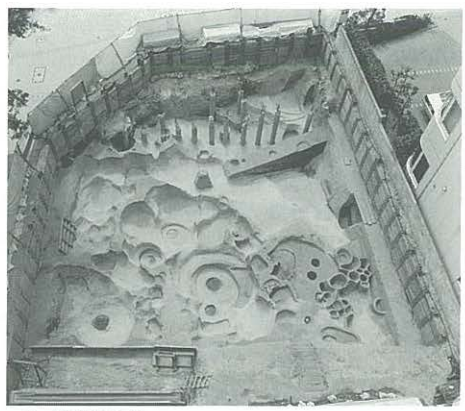
出土遺物　遺物は包含層や遺構内より大量に出土した。コンテナ11箱に相当する。

近世の遺物は伊万里、唐津系の陶磁器の他、土師器、瓦質土器、獣骨、魚骨、瓦類、鉄製品などがある。中世の遺物は龍泉窯系青磁碗、白磁碗、土師器坏・皿、石鍋、製鉄品、銅線が出土。古代の遺物は井戸より須恵器坏蓋、土師器片等が出土している。

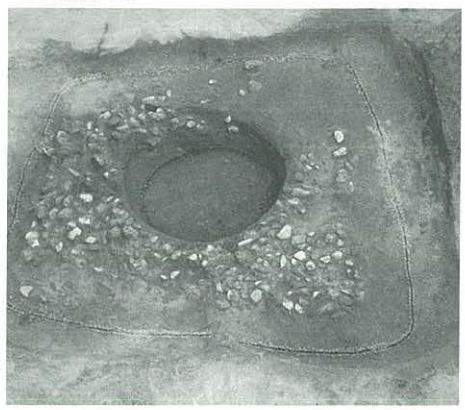
まとめ　今回の調査地点が古砂丘頂上部に立地するため古式古墳や方形周溝墓等の存在を期待したが検出できなかった。中世の大溝は断面がＶ字形を呈し、幅4.1ｍを測る。南北方向を示しており、博多の町割りにかかる溝と考えられる。



1．調査地点の位置（49－Ａ－1、1：8,000）



2．第3面全景
（東から）



3．第3面平安時代井戸址

9023　名島城址第１次（ＮＺＥ－１）

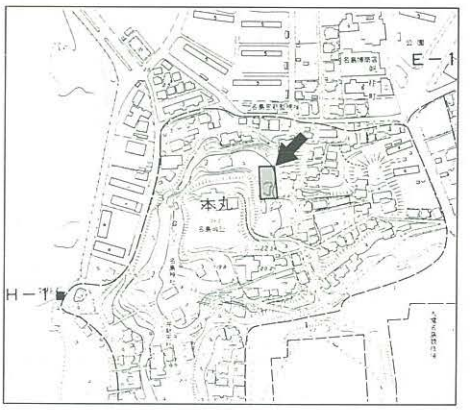
所 在 地　東区名島一丁目11
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900709～900905
調査面積　458㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　1588年、小早川隆景によりそれまでの立花城の支城から筑前一国と筑後・肥前各２群を統治するための拠点として築城された名島城は、多々良川河口部に位置する。調査地は名島城絵図によると、本丸天守曲輪の東斜面から平坦部にかかる位置に相当する。

検出遺構　天守曲輪石垣の根石とみられる南北方向の石列を延長約22m検出し、天守曲輪に沿って幅2.4mの浅い溝を掘り、根石を安定させるための栗石を敷いた上に、径約１m前後の根石（おもに花崗岩、蛇紋岩）を並べている。根石の上の石積みはなく、福岡城を築城した際に運び出し再利用したことを示している。石垣の東側の平坦地では、染間４間、桁行３間以上の長大な建築物の遺構を検出した。柱間の距離はおおよそ２m（６尺５寸）で、内部に間仕切りを持つ。絵図面に記されている埋蔵もしくは宝蔵に相当するものと考えられている。

出土遺物　出土遺物は瓦がその半分を占め、石垣裏込め、建築物の遺構の埋土内から多量に出土した。コンテナ50箱。福岡城の発掘調査の際に名島城出土のものと同じ型の瓦が出土しており石垣と同様に福岡城の際に運び出し再利用したことを示している。他に僅かであるが、明代青花磁器、瀬戸・美濃系天目碗、備前焼・瓦質土器すり鉢、土師器坏片が出土。

まとめ　名島城は黒田氏による福岡城築城の際、建築材や石垣まで運び出されたと考えられ、さらに近年の開発により壊滅状態とされてきたが、今回の調査で石垣や建築物の遺構が確認されたことにより、天守曲輪の一帯は意外と旧地形をとどめていることがわかった。



1．調査地点の位置（32－Ｅ－1、1：8,000）

2．名島城1次調査区全景（東から）

3．名島城1次石垣根石（北から）

9024　雑餉隈遺跡第１次（ＺＳＫ－１）

所 在 地　博多区新和町二丁目10- 2他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900718～900825
調査面積　300㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後消滅

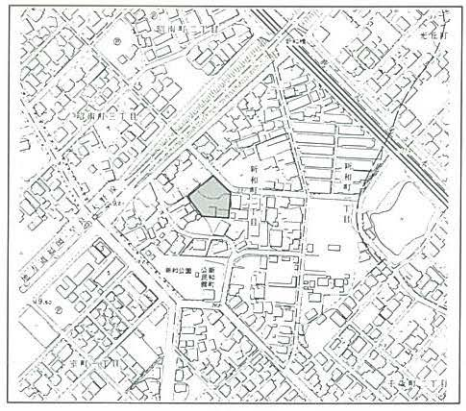
位置・環境　本調査地点は雑餉隈遺跡の南東部に位置する。台地周縁は開析を受け著しく入り組む。現標高は22.60mを測り、1.70mの盛り土下が検出面の鳥栖ロームである。調査区南側にかけて緩やかに落ち、黒色有機土の推積が見られる。

検出遺構　・奈良時代；土壙２基、柱穴若干

出土遺物　遺構がきわめて少ない為、総量にしてコンテナ２箱である。種類は奈良時代の須恵器坏、土師器甕片、弥生時代の黒曜石製石鏃等である。

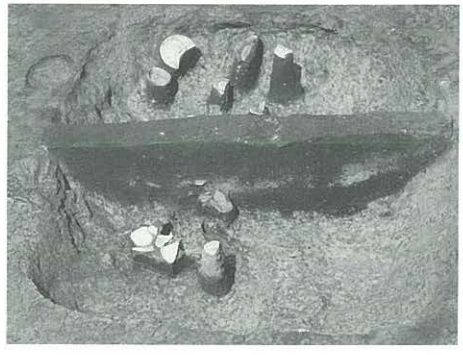
まとめ　遺構の密度は疎であるが、北側の南八幡遺跡第２次、第３次調査同様、奈良時代の集落が予想される。周辺一帯が古墳時代後期、奈良時代に限られて遺構が検出されることは留意される。

また試掘の資料を加えると、当地点の南西部には谷が近くまで迫り、外方に大きく開口している。すなわち本調査地点は狭い台地に展開した奈良時代（８世紀後半以降と考えている）の集落の外れに位置する可能性が高い。周辺の南八幡遺跡群第２次、第３次調査、麦野Ｂ遺跡群第１次調査、麦野Ｃ遺跡群第１次調査では６世紀後半代と８世紀代に限られた竪穴住居跡が検出されている。奈良時代の井相田遺跡では先進的な掘立柱建物が主流を占め対照的である。これは先の３遺跡群が弥生時代、須玖岡本遺跡と那珂・比恵遺跡に挟まれながら発展をあまり見ないこと、遺跡が営まれる時期が限られることなど水利を含めた地形的な要因と関連するように思える。



1．調査地点の位置（13－Ａ－12、1：8,000）

2．調査区全景
（東から）



3．土壙出土状況
（南から）

9025　警弥郷Ｂ遺跡第２次（ＫＹＢ－２）

所 在 地　南区弥永五丁目14-1、14-38番
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900726～900929
調査面積　444㎡
担 当 者　下村智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　警弥郷Ｂ遺跡は、福岡市の南部に位置し、春日市域、那珂川町域まで広がっている遺跡である。調査地点は遺跡の中央部付近で、標高18m前後。

検出構造　・弥生時代：水田址
・中世：水田址、溝、土壙

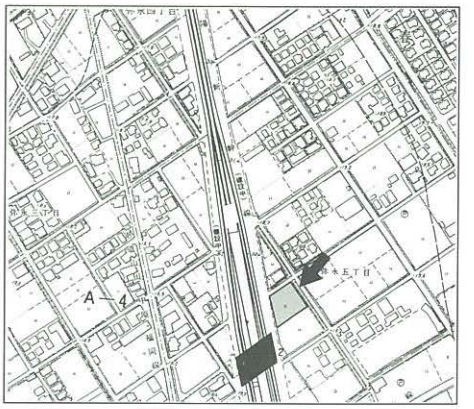
出土遺物　弥生前後後半の水田址から板付Ⅱ式の甕形土器を中心に前期後半の遺物がまとまって出土している。中世の溝及び水田跡からは、土師器の坏・皿・白磁碗類、明代の染付磁器などが出土している。（コンテナ18箱）

まとめ　今回の調査では、調査区東側を中心に３面にわけて調査を行った。

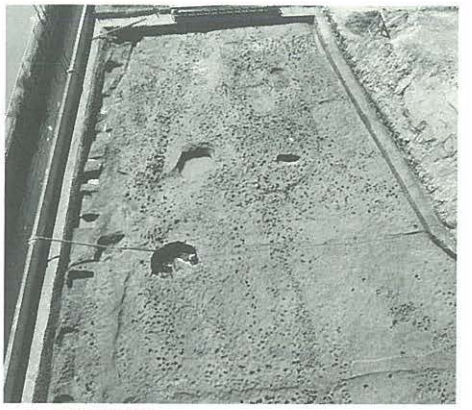
第１面は中世の水田址である。南北及び東西方向の畦畔と東半部に溝を検出することができた。南北方向の畦畔は幅が0.6～0.8m、東西方向の畦畔0.5m前後である。畦畔の高さは、0.1～0.2mで、東西方向の畦畔には水口が設けられていた。畦畔によって区切られた水田は４面である。水田土壌は灰黒色の粘質で、上面には0.1m前後の粗砂が覆っている。水田面には多数の足跡、田ゾリの跡と見られる並行した細い溝が確認できた。東端部には幅1.5～３mの浅い溝が北流し、用水路と考えられる。水田址・溝は15～16世紀。

第２面は東西方向の細井溝が数条検出された。淡黄褐色のシルトが基盤となっており、水田址は確認できなかった。

第３面は弥生時代前期後半の水田址である。東端部に一部だけ認められた。水田土壌は黒色粘質土で、足跡が多数確認できた。



1．調査地点の位置（41－Ａ－4、1：8,000）


2．調査区全景
（北から）

3．弥生時代水田址出土状況
（北から）

9026　那珂遺跡群第29次（ＮＡＫ－29）

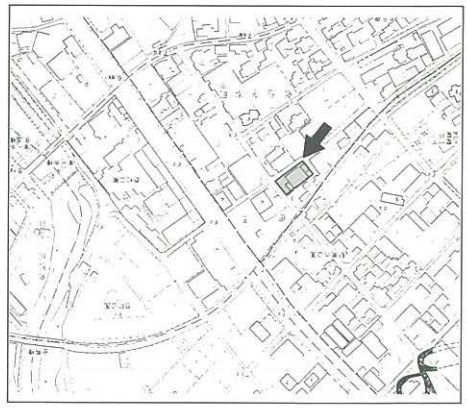
所 在 地　博多区東光町一丁目162 他
調査原因　社屋建設
調査期間　900802～900825
調査面積　313㎡
担 当 者　山口、菅波
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、那珂遺跡群の北端部の標高6.7ｍ前後に位置し、比恵遺跡群に隣接している。約50cm前後の盛り土・耕作土を除去すると基盤の鳥栖ローム層となり、古代から近世の遺構を検出した。

検出遺構
・古代：井戸２基、溝２条、柱穴
・中世：近式横穴３基、溝条
・近世：土壙墓３基、井戸３基、土壙４基

出土遺物　本調査地では、コンテナ17箱分の遺物が出土した。古代の遺物として、須恵器甕、土師器坏などの土器や斎串、櫛、曲物、などの木器があり、中世から近世の遺物として陶磁器、土師器や桶、絵馬などの木器がある。以上のほか、弥生時代の石斧などの石器、土器、古墳時代の須恵器、土師器が出土している。

まとめ　本調査は、那珂・比恵両跡群の境界に位置することから、弥生時代から古墳時代の生活遺構の把握と旧地形の確認を目的として実施した。調査の結果、古代から近世初頭の遺構が見室でき、弥生時代から古墳時代の遺構は検出できなかつた。古代の井戸からは坏・蓋坏・甕などの土器とともに斎串・櫛・曲物などの木器が出土し、古代における井戸祭祀の典型例と考えられる。比恵・那珂遺跡群でこれまでの調査では中世から近世にかけての遺構は希薄であった。今回中世後半期の地下式横穴、近世初頭の座棺と考えられる土壙墓の検出は、両遺跡の中世以降の集落を考える上で参考となろう。本調査地での基盤層である鳥栖ローム・八女粘土層　はほぼ水平であり、本調査でみる限り、比恵・那珂台地は一連のものと考えられる。



1．調査地点の位置（37－Ａ－3、1：8,000）

2．調査区全景（東から）

3．井戸址内桶出土状況

9027　有田遺跡群第159次（ＡＲＴ－159）

所 在 地　早良区小田部三丁目251
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900807～900911
調査面積　185㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

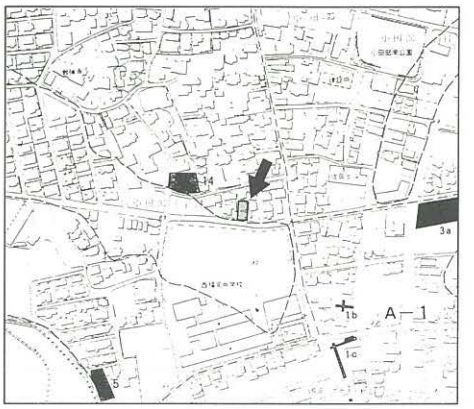
位置・環境　本調査区は有田・小田部台地の中央部、北西から南東へ細長く開析する谷部をのぞむ南緩傾斜面に位置する。標高約10m。周辺では14次、103次、117次調査が行われている。旧状は宅地で、調査区南側に暗褐色の包含層が若干残るが表土下30～50cmで赤褐色ロームの遺構面に達する。

検出遺構　・古墳時代後期：竪穴住居址３
・古墳時代後期～奈良時代：掘立柱建物３

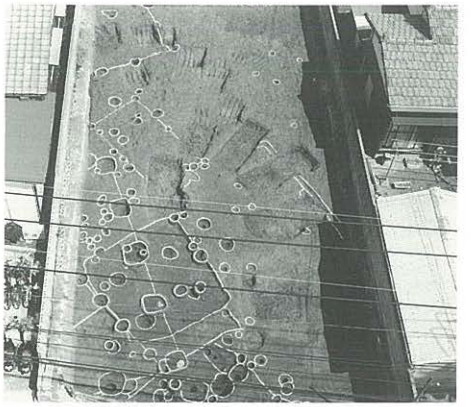
出土遺物　縄文時代早期の石鏃から近世陶器までを包含層、遺構から検出したが、古墳時代後期の土師期、須恵器が主で、総量でコンテナ１箱分。

まとめ　竪穴住居址は４～５ｍ程の方形で３とのきりあいとなっている。最上面のSC－01は４本の主柱穴を持ち、北側の壁中央部にカマドを設けている。切り合い部分には張床がなされ、この上部からⅢＡ～ⅢＢ期を検出している。

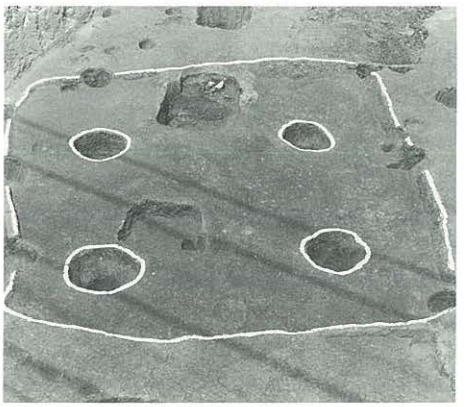
掘立柱建物は１×２間以上、掘り方20～30cm程の小規模な側柱と４間以上の大型側柱建物とがある。大型建物は竪穴住居址を切って建てられており、切り合い部分には根石を用いている。桁行き４間（8.3m）・染行き２間以上の規模となる。掘り方は60～80cm程の方形で、深さ40cm程、柱径は30～35cm程である。柱穴から奈良時代の須恵器が出土している。周辺域では初めての大型建物の検出である。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）



2．調査区全景
（南から）



3．SC01住居出土状況
（南から）

9028　博多遺跡群第67次（ＨＫＴ－67）

所 在 地　博多区冷泉町１－６
調査原因　ビル建設
調査期間　900807～900901
調査面積　210㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群の中央部祇園交差点の北西、第４次調査地点に隣接する。第４次調査の南端では、北西方向きに走る溝が確認された。今回は、その延長部に当たることから、埋蔵文化財の包蔵が予想された。

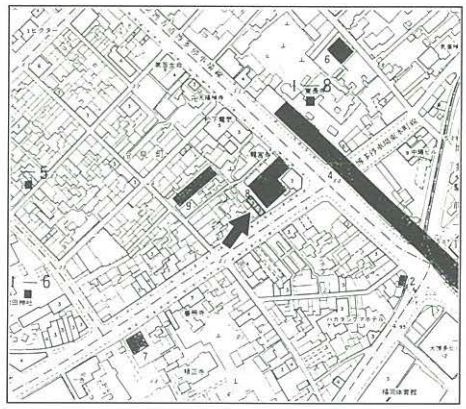
検出遺構　検出した遺構は、土壙が21基検出され、そのうち８基は井戸である。時期は近世から中世であり、涌水部では五つの桶や曲げものを残すものがある。中世の井戸には、猪や馬の顎骨を投棄したものがある。

溝の幅は、上面で約5.2m、深さは遺構確認面から約1.3mを測る。埋土中には焼け土を大量に含んでおり、時期は下限が13世紀後半に比定できる。

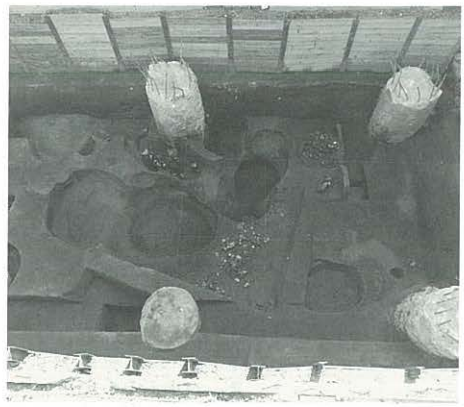
また溝は、調査区の西壁では確認できなかったことから、本調査区の北西隅で終わることが明らかとなった。

出土遺物　出土遺物には陶器、白磁、青磁、土師器、須恵器等を主体とし、少量であるが弥生式土器の破片も確認することができた。出土遺物はコンテナ85箱にのぼる。

まとめ　14号土壙出土の黄釉褐彩四耳壺は人骨に伴うもので墓に供された可能性がある。東西溝は調査区内で終わっているが、今後周辺域の発掘によって区画の全容が明らかになれば、当調査の位置づけもはっきりするであろう。



1．調査地点の位置（49－Ａ－1、1：8,000）



2．調査区全景
（東から）

3．溝土層断面

9029　有田遺跡群第160次（ＡＲＴ－160）

所 在 地　早良区小田部一町目157番地
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900817～900927
調査面積　612㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、八ッ手状に広がる、小田部台地北側の舌状に突出する台地基部の西側緩斜面上に位置する。

現況は畑地。表土下15～20cmで黄褐色の鳥栖ローム層に掘り込まれた遺構面を検出した。遺構面は、谷部に向かって緩やかに傾斜し、標高は東側の最頂部で9.5mを測る。この緩斜面上には黒褐色の遺物包含層が５～10cmの厚さで包含層が薄く堆積するが、遺物量は少ない。

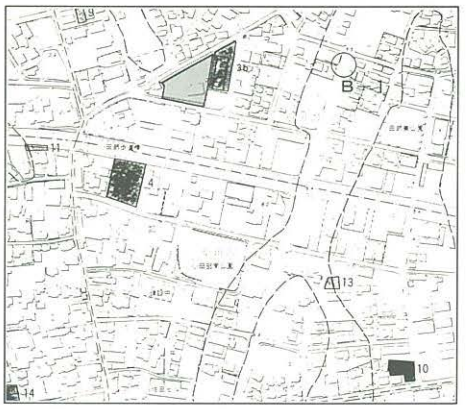
周辺には、東側に第34次・３ｂ、西南に第80次調査が位置する。これらの調査区からは弥生時代前期の甕棺墓、貯蔵穴、中期～後期の竪穴住居址・井戸址、古墳時代の竪穴住居址・掘立柱建物址等の遺構が検出されている。

検出遺構　古代：土壙５基、柱穴多数

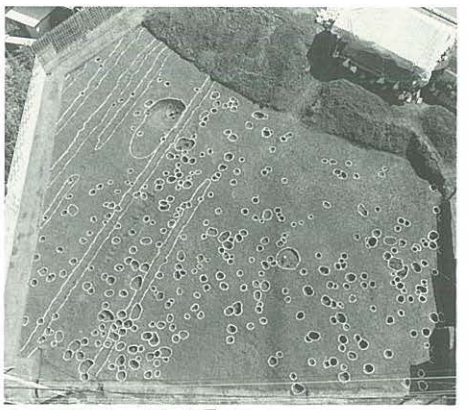
出土遺物　遺物は、土壙や柱穴から土師器・須恵器（コンテナ３箱）の他砥石、打製石鏃、鉄滓が出土した。

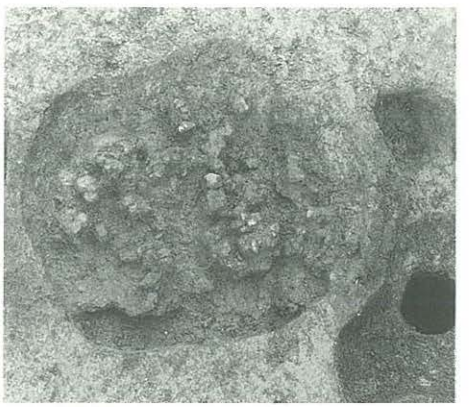
まとめ　５基の土壙のうち、SK－01は長さ2.2m、幅0.6mの長方形プランで、土壙墓の可能性も考えられる。SK－04は0.6×0.7mの小土壙であるが、壙内には鉄滓の小片が充満しており、廃滓壙かとも考えられる。また、調査区内には多数のピットがあるが、周辺調査区で確認されている掘立柱建物址としてはまとまらなかった。

本調査区の遺構は周辺調査くの成果を補完するもので、古代の有田台地における集落址の一様相を示すものである。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）


2．調査区北半部全景
（北から）


3．SK-04
土壙出土状況
（北から）

9030　吉塚本町遺跡群第１次（ＹＡＴ－１）

所 在 地　博多区吉塚本町130－６
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900820～901227
調査面積　2,380㎡
担 当 者　常松・菅波
処　　置　調査後破壊

位置・環境　吉塚本町遺跡群は御笠川の東岸域に位置する。この遺跡群は今回の開発に際しての事前の試掘調査で発見されたもので、新たに周知遺跡の範囲に含まれた。御笠川の東岸域には海岸線に並行した砂丘列上に竪粕遺跡群、吉塚遺跡群、豊遺跡群等があり、本遺跡群も同様の砂丘上に営まれた遺跡である。標高約4.0mで地表下約60～100cmで遺構面の砂丘を検出した。

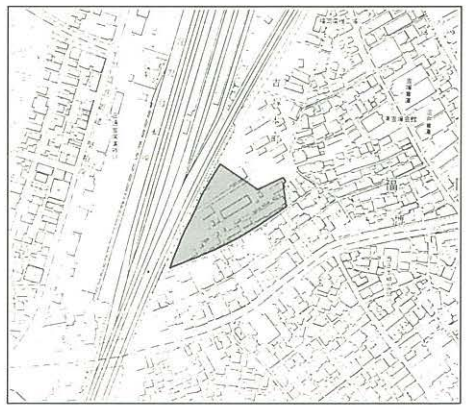
検出遺構
・弥生時代後期：竪穴住居址、土壙
・古墳時代後期：土壙
・奈良時代：竪穴住居址、土壙、掘立柱建物、柱穴多数

調査地は旧国鉄（現在のＪＲ）の操車場の跡地で、その時の工事で遺構はかなり攪乱をうけている。遺構は主に奈良時代のもので、調査区東側では住居と考えられる竪穴遺構を検出した。

出土遺物　遺物は竪穴住居跡、土壙などからコンテナ45箱が出土した。遺物は奈良時代の須恵器、土師器の他、製塩土器、移動式の竈、土錘、布目瓦等がある。又、弥生時代後期の遺物では銅鏃、滑石製の石錐等が出土した。

まとめ　今回の調査では弥生時代後期から奈良時代にかけての遺構を検出した。これらの主体は奈良時代で、遺構としては竪穴住居跡、掘立柱建物等がある。建物としては土器類の他に、製塩土器、土錘等が出土した。

本遺跡の調査はまだ出発したばかりで、今後の調査で集落の規模、性格など明らかにしていかなければならないだろう。



1．調査地点の位置（35－Ａ－5、1：8,000）

2．吉塚本町遺構 全景(1)
（北から）

3．吉塚本町遺構全景(2)
（北から）

9031　飯倉Ｆ遺跡第２次（ＩＫＲ－Ｆ－２）

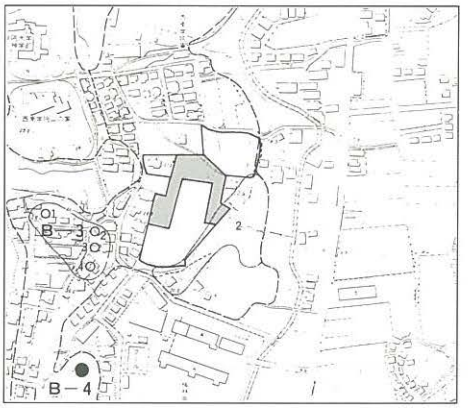
所 在 地　城南区梅林３丁目
調査原因　公園建設
調査期間　900904～901228
調査面積　1,731㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、早良平野の東部に位置し、福岡平野と早良平野を画す油山山塊、鴻巣山丘陵の東端部に立地する。飯倉丘陵上には舌状に入り込む谷が多くあり、調査地は、谷に面した東斜面に占地する。

検出遺構
・弥生時代後期：包含層
・古墳時代前期：住居址８基以上
・奈良時代：住居址、祭祀遺構、焼土壙

北側から入り込む谷の谷頭部に包含層が認められ最も古い遺物は、弥生時代の後半期前後と思われる。古墳時代の住居址は、残りが比較的よい。規模は一辺７～８ｍほどである。焼失住居を１基検出したが、遺物は殆ど見られなかった。奈良時代の祭祀遺構には、焼土の散布が見られるものや白色粘土を底面に敷き詰めたものがある。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ68箱である。
特徴的な遺物としては以下のようなものがある。
中国鏡片：浅い土坑から出土した。鏡縁部の小片で鏡式は不明、平縁と思われ、後漢鏡であろう。
男根状土製品：祭祀遺構？から出土した。周囲の状況から奈良期のものと思われる。土製品としては、全国で２例目である。



1．調査地点の位置（74－Ａ－3、1：8,000）

2．焼失住居検出状況
（古墳時代前期）

3．祭祀遺構検出状況
（奈良時代）

9032　大橋E遺跡第3次（00E－3－2）

所 在 地　南区三宅一丁目1108－2
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900904～901004
調査面積　80㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、三宅廃寺比定地の東約100mにあたる。標高は約6mで、周囲は住宅地である。

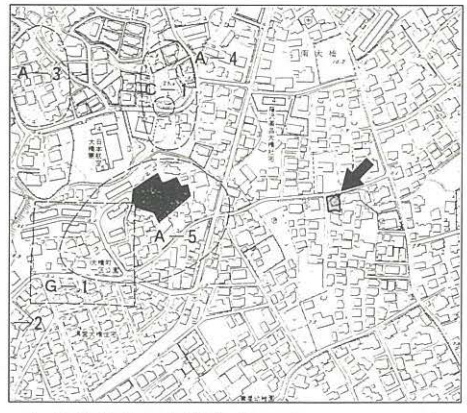
検出遺構　・試掘調査データをもとに、申請地の南東部を主体に遺構を検出した。発見された遺構は、環状にめぐる中世の溝の一部、径1.4と1mの土壙2基、長軸が1.7mの墓壙状の掘り込みなどがある。

中世の溝は幅1～1.7mで深さは0.3～0.5mをはかる。外周を復元すると径20mほどの規模となり、北側に幅1mほどの陸橋部分がある。

墓壙状の土壙内からは、副葬遺物は出土しておらず、墓とするきめてにかける。

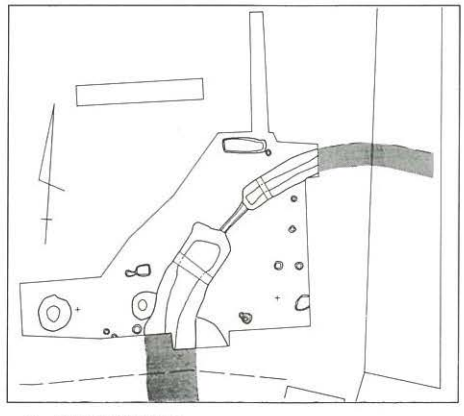
小面積の調査であり、排土も調査地内で処理しなければならなかったので、北側と西側は試掘溝を設定するにとどまった。

出土遺物　2基の土壙から出土した遺物には、陶磁器や瓦がある。溝から出土した遺物には、土師器片などがあり、時期は古代から中世にかけてである。出土遺物は、コンテナ2箱分である。



1．調査地点の全体図（35－A－5、1：8,000）

2．調査区全景（西から）



3．調査区全体図

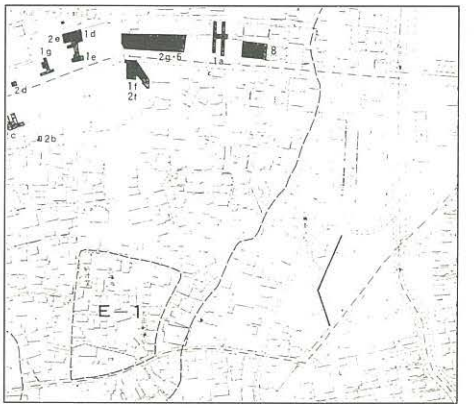
9033　有田遺跡群第161次（ＡＲＴ－161）

所 在 地　早良区有田地内
調査原因　下水道建設
調査期間　900910～910331
調査面積　85.5㎡
担 当 者　長家伸
処　　置　調査後破壊

位置・環境　有田・小田部地区下水道建設に伴う調査の最終年度である。今回は有田大地の東裾、金屑川の西側にあたる。地表下0.7mで暗褐色土が検出され、厚さ20cm程を測る。以下５cm程の薄い明黄褐色が堆積し、粗砂層・礫層へと続く。人工遺物はない。

まとめ　1986年より行われた有田地区の下水道工事に伴う調査は有田台地の南半分について行われた。当該当地点では、弥生時代環濠、中世壕を初めとする多様な遺構、遺物が出土しており、その接続・分布を追うことができた。弥生時代前期初頭に位置づけられる環濠は133次調査地点南側の調査区で途切れており陸橋部が考えられる。他に５次調査地点北側からは縄文時代土壙が検出され、その広がりが確認された。又69次調査地点北東部では古墳時代溝より良好な遺物が出土した。また中世溝からの出土ではあるが朝鮮系軟式土器片も出土している。

下水道調査は幅１mの調査区内で道路部分に入るため既設管等の撹乱も多く、調査不能な地点もあったが、主に遺構の繋がり、分布を追うに当たっては有効な成果が得られた。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）

2．調査地点全景
（南から）

9034　有田遺跡群第162次（ＡＲＴ－164）

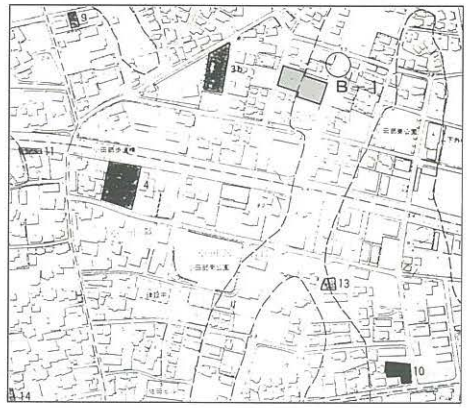
所 在 地　早良区小田部１丁目108他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900910～900914
調査面積　132㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、八ツ手状に北へ分岐して広がる台地の東から二番目台地の東側斜面上に立地する。標高は６ｍ前後を測り、現状は宅地であった。調査区は余り調査が行われておらず、西側に30次・163次調査地点などがあるだけで、それらの地点では古墳時代から奈良時代にかけての集落が見つかっているが、余り実態がわかっていない地域である。また北東側には筑紫殿塚といわれる古墳があったが、区画整理時に破壊されている。

検出遺構　・土壙１基、溝３条、ピット群
東側は段落ちし、谷部となっている。

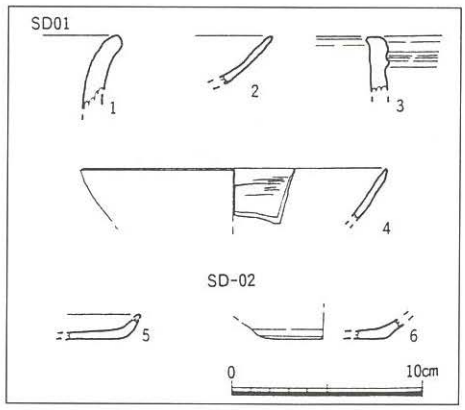
出土遺物　出土量は少なくコンテナ1/2位である。土師器、須恵器、中国の青磁器、弥生式土器、褐釉陶器などの細片が中心で図化できるものは少なかった。

まとめ　今回の調査によって、台地落ちラインがほぼ推定どおりであることが確認できた。またこれまで当地周辺ではほとんど調査が行われておらず、実態もよくわかっていなかったが、今回の調査でその実態の一部を把握することができた。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景（南から）



3．出土遺物実測図（1/4）

9035　立花寺遺跡群第２次（ＲＧＫ－２）

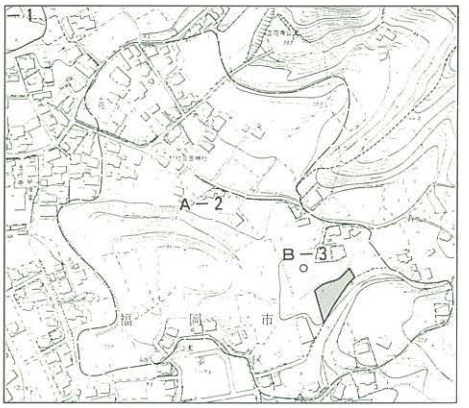
所 在 地　博多区大字金隈字隈ノ下959他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900917～9011225
調査面積　1,002㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

位置・環境　月隈丘陵からは多くの舌状台地が派生している。本調査地は、月隈丘陵の西側斜面に所在する標高25m前後の舌状台地上に位置し、調査前は果樹園として使用されていた。10～50cm前後の耕作土を除去すると、遺構が検出できた。これを第１面とし、整地面は５面確認できたが、第１面下30cm前後の褐色粘土質土面を第２面とし、第２面下50cm前後の黄褐色粘土質土面を第３面として調査を実施した。

検出遺構　・古墳時代後半期：竪穴住居址、掘立柱建物、土壙、溝、柱穴
・奈良時代～平安時代（古代）：掘立柱建物、土壙、柱穴

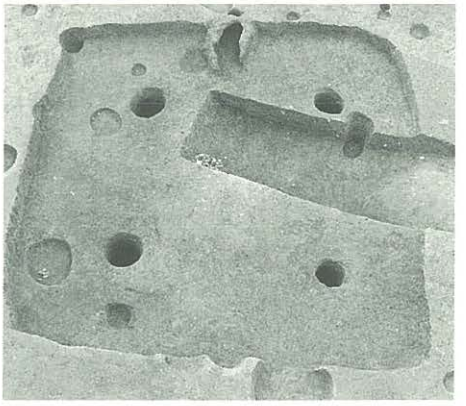
出土遺物　本調査では、コンテナ32箱の遺物が出土した。古墳後半期の遺物として須恵器、紡錘車などがある。古代の遺物としては、須恵器、土師器のほか少量の皿、壺などの越州窯青磁や緑釉陶器、鉄器がある。以上のほか、整地層中より弥生時代の土器や打製石鏃、蛤刃石斧などの石器が出土した。耕作土中や第一面より上の整地層面では、中世の土師器、輸入陶磁器が出土した。

まとめ　本調査地では、古墳時代後半期の竪穴住居址・掘立柱建物、７世紀後半から11世紀の掘立柱建物群を検出した。いづれも整地層中で検出した。７世紀後半以降の掘立柱建物群は地山整形も行われており、建物配置に規則性があり、建物規模が大きいこと、少しづつ方位を変えながら同じ場所で建て替えられ４世紀に亘っていること、９世紀になると越州青磁・緑釉陶器などの優品があることなどから、豪族の居館あるいは寺址・駅家の可能性もある。



1．調査地点の位置（11－Ａ－2、1：8,000）

2．調査区全景
（西から）


3．竪穴住居址完掘状況
（東から）

9036　有田遺跡群第163次（ＡＲＴ－163）

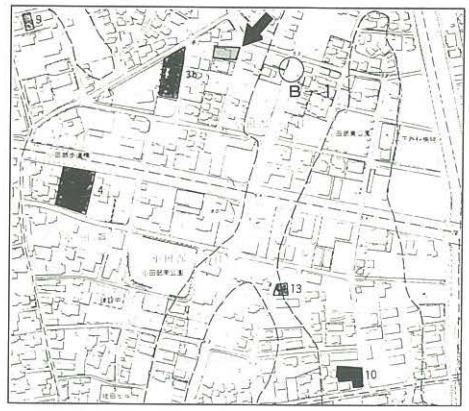
所 在 地　早良区小田部一丁目123
調査原因　宅地造成
調査期間　900917～901011
調査面積　150㎡
担 当 者　松村道博
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は早良平野の中央部、有田・小田部台地の北東端の台地縁に位置する。消滅した有田古墳群の２号墳と３号墳の中間に位置し、周辺部では34、35、160、162次の調査が実施され、古墳時代～中世の遺構が検出されている。

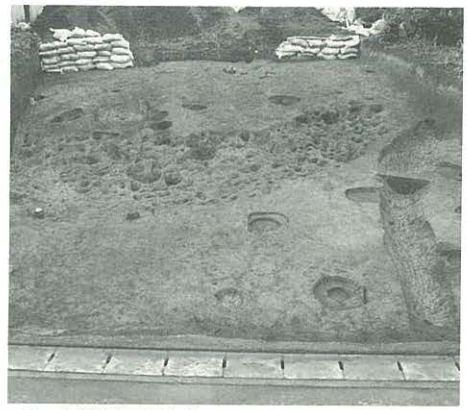
検出遺構　検出した遺構は古墳時代前期の溝２条、竪穴式住居址１棟、ピット群である。調査区を南北に縦断するSD-10は幅1.2m、深さ0.5mの溝である。溝内から肩部に瘤状小突起をもつ初期須恵器の甕が１点出土している。他に周溝だけの遺存であるが隈丸長方形の住居址がある。掘立柱建物は２間×２間の建物で、柱穴の掘り方は0.4～0.5mを測る。遺物は出土していないが埋土から古代の所産であろう。

出土遺物　先に述べた肩部に瘤状突起のつく初期須恵器を初めとして住居址から須恵器坏、蓋、土師器等が少量出土した。遺物量はコンテナ１箱である。

まとめ　台地から谷部へ傾斜する斜面に位置するため西半部の高い部分は削平を受け、遺構は認められない。台地縁には住居址、溝があり、裾部に掘立柱建物を確認できた。周辺部に有田古墳群１・２号墳があり、土地利用が集落⇒墳墓⇒集落と変遷している。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）


2．東側調査区全景
（東から）

3．西側調査区全景
（東から）

9037　比恵遺跡群第32次（ＨＩＥ－32）

所 在 地　博多区博多駅南３丁目46－１　　**調査面積**　159㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　荒牧宏行
調査期間　900925～901113　　**処　　置**　調査後消滅

位置・環境　本調査地点は中位段丘面に立地する比恵遺跡の北端に位置する。隣接した第24・25次調査によって、弥生時代における台地落ち際の様相が明らかになっている。

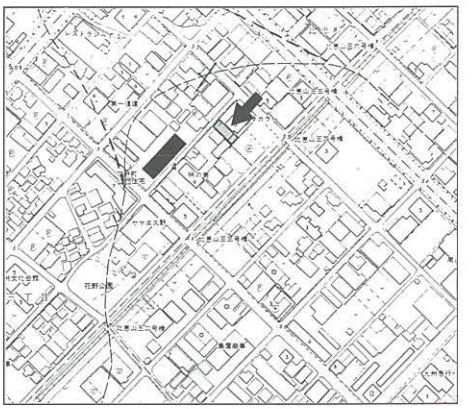
検出遺構　調査範囲の全域が埋没谷中に占める為に遺構はなく、層位の判別と流入した遺物の取り上げが主目的になった。

・１層；客土（層厚60cm、標高5.2m）
・２層；旧水田土壌と床土（層厚20cm）
・３層；褐色土。整地層か（層厚30cm）
・４層；灰色粘土（層厚５～10cm）
・５層；暗灰色粘土（層厚30cm）
・６層；灰黒色粘土（層厚30cm）
・７層；灰白色（八女）粘土（標高3.4m）

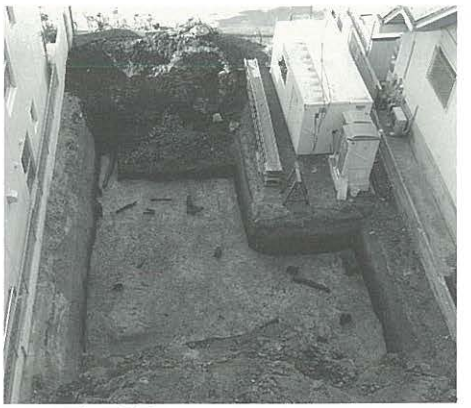
出土遺物　４層までは遺物は皆無に近く、５、６層から弥生前期末～中期初頭の土器片が出土した（コンテナ20箱）。木器は又鍬、木鍬も出土した。

まとめ　第24次、第25次および今回の調査をもって台地に入り込む谷部の形状を知ることができた。木器の出土量は、台地落ちから幾分離れているため前記の調査に比べ少ないものの貴重なものが出土し成果を得た。

このように比恵遺跡における埋没谷の調査では、有機質遺物の出土や古環境の復元に有効な資料が得られることが再認識された。



1．調査地点の位置（51－Ａ－3、1：8,000）



2．調査区全景
（南から）

3．土層および木器出土状況
（西から）

9038　カルメル修道院第２次（ＫＭＳ－２）

所 在 地　城南区神松寺三丁目1617－２
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900926～901016
調査面積　224㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、金山を中心とする油山北部台地の東側に位置し、標高28mを測る丘陵尾根上にある。弥生前期から中期にかけての集落遺跡である浄泉寺遺跡や後期の集落遺跡の神松寺遺跡は同一丘陵にある。

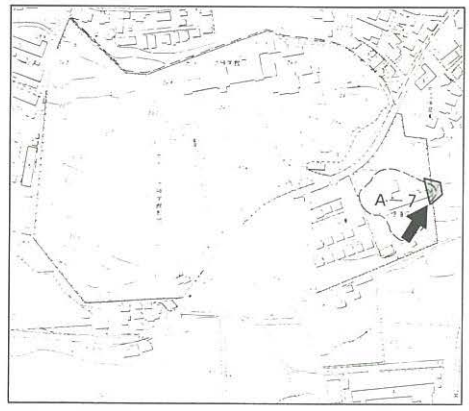
昭和51年の第２次調査区では弥生前期末の金海式甕棺墓に切られた土壙墓から３個の錫釧が発見されている。

検出遺構　・弥生時代中期後半～後期初め：甕棺墓５基、土壙、土壙墓８基

遺構は丘陵部の頂上部を中心に、表土下の花崗岩風化土上面で検出した。

出土遺物　甕棺墓・土壙・土壙墓から副葬品の出土はなかった。また表土中からも遺物の出土はほとんどなかった。しかし、第５号の甕棺墓から40才以上と推定される女性のほぼ完全な屈葬された人骨が一体出土した。また別の倒置された小児用甕の中から成人と思われる頭蓋骨出土した。

まとめ　今回の調査で、当遺跡が弥生時代前期末から後期初めにかけての墳墓遺跡であることが判明した。住居址などは検出されておらず、東側に隣接する浄泉寺遺跡と関連づけて当遺跡の正確を考えていく必要があろう。



1．調査地点の位置（74－Ａ－8、1：8,000）

2．調査区全景
（南から）

3．甕棺墓人骨出土状況

9039　比恵遺跡群第33次（ＨＩＥ－33）

所 在 地　博多区博多駅南４丁目150－３他
調査原因　公園建設
調査期間　901004～900208
調査面積　965㎡
担 当 者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、比恵遺跡の北東よりに位置し、標高６ｍを測る。周辺には第７次・11次・13次調査地点が広がっている。遺構は、黄褐色ローム層に掘りこまれており、整地層を除去するとすぐに検出できる。

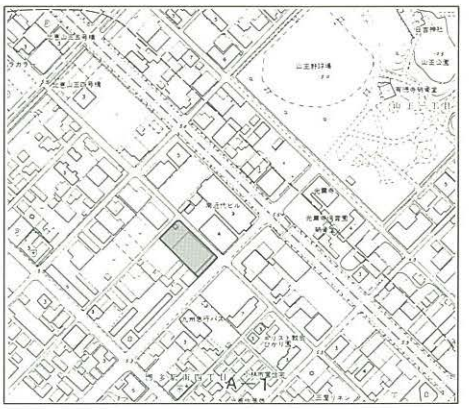
検出遺構
・弥生時代中期：竪穴住居址３軒、井戸址２基、土壙３基、袋状竪穴２基
・弥生時代後期：竪穴住居址12軒、井戸址10基、掘立柱建物２棟、土壙13基、甕棺１基
・古墳時代中期：不定形土壙１基

出土遺物　遺物の多くは井戸址と土壙から出土している。中期末から後期前半に属する井戸址からは完形の壺、甕と木製品が多数出土している。木製品の中では木臼が注目される。口径60cm、器高さ45cmでクリ材をくりぬいて作られ、遺存状態が非常によいものである。その他、木製品、ネズミ返し、鞍なども出土している。

また、２基の袋状竪穴からも多量の遺物が出土している。中期末に属し、炭化米、木製品、完形の壺や甕、椰子の実容器などである。

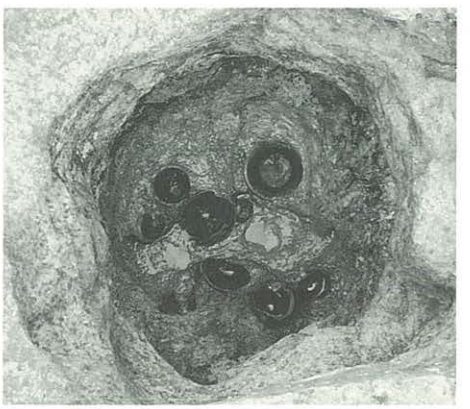
椰子の実容器は、口径8.5cm、高さ12cmで口縁部の対向する２ヶ所に２個づつ小孔を明けたものである。博多湾岸に漂着したものを加工したものか。その他、石庖丁、石斧類、石錘、ヒスイ曲玉、ガラス管玉、銅鏃などの遺物も出土している。（コンテナ157箱）

まとめ　今回の調査は、弥生中世紀から後期にかけて貴重な資料を提供した。各期の遺構の広がり、完形土器の組み合わせはもとより、多くの木製品の出土は興味深い。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1、1：8,000）

2．調査地区全景
（北から）


3．SK50遺物出土状況（南から）
（左端がヤシの実容器）

9040　岩本遺跡群第４次（ＩＷＡ－４）

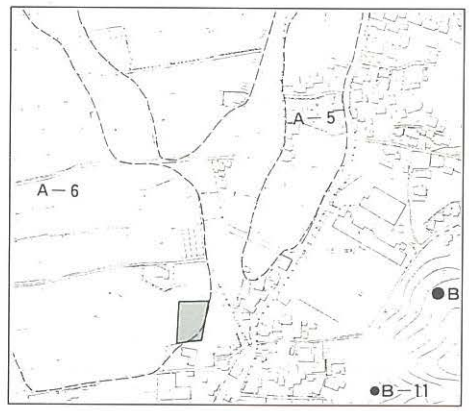
所 在 地　早良区大字東入部字1433番９
調査原因　郵便局建設
調査期間　901003～901215
調査面積　734㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、早良平野東端、油山山塊西麓の沖積部に立地する。山麓と平野東部の貞島川との間に幾筋かの旧河道があり、調査地はこの旧河道と両岸の微高地を含む範囲である。調査前は水田であり、標高35ｍを測る。調査は現地表から約0.６ｍの水田耕土、床土を除去した後に順次遺構面を掘り下げた。第４面は旧河道上面であり、東西方向の流路が現れた。

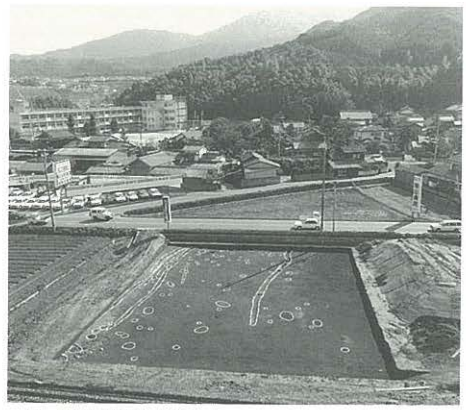
検出遺構
・第１面（中世？）：溝７、掘立柱建物１、柱穴、土壙
・第２面：（弥生中期？）：水田24（面積は５～20㎡）、溝３
・第３面：（弥生中期？）：水田19（面積は20㎡）、溝３
・第４面：（縄文後～晩期）：包含層

出土遺物　全体でコンテナ３箱。主体は縄文時代の遺物であり、土器（粗製、精製）、石器（石斧、剥片）などがある。他に弥生時代土器片、中世の土師器、陶磁器片などがある。

まとめ　今回の調査では沖積地内の微地形と各時代の利用状況が判明した。縄文時代後～晩期には集落縁辺であり、主に北側から遺物が投棄されていた。弥生時代には水田が開されている。中世には建物等が営まれた。



1．調査地点の位置（85－Ａ－6、1：8,000）


2．第1面遺構全景（西から）

3．第3面遺構全景（西から）

9041　有田遺跡群第164次（ＡＲＴ－164）

所 在 地　早良区小田部２丁目106
調査原因　共同住宅建設
調査期間　901011～901130
調査面積　416㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は北へ八手状に広がる有田・小田部台地の中央部に位置し、現標高は約11mを測る。現状は宅地であった。調査地区周辺は同遺跡群で最もよく調査が行われており、弥生時代中期や古墳時代前期から後期の集落、南側の３次・124次調査では台地を切断する奈良から平安時代の大溝が確認されている。

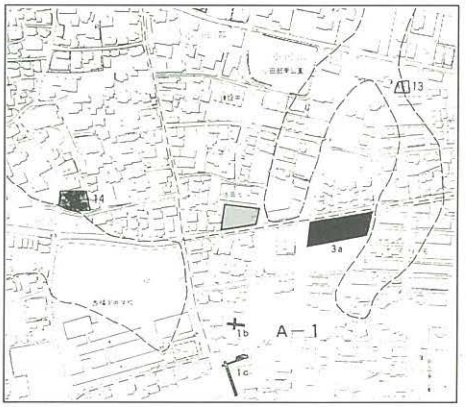
検出遺構　・奈良時代：大溝１、土壙１、掘立柱建物２棟（１×２間）

大溝は幅５m以上、深さ約１mで全容は把握していない。

出土遺物　弥生時代から中世までの遺物がコンテナ７箱出土した。大半が大溝からの出土である。溝の下層では奈良時代、上層では平安時代の遺物が出土し、越州窯系青磁碗、猿投窯系戸思われる、灰釉陶器碗片、布目瓦片などが少数含まれていた。

まとめ　当地区で検出した大溝は、早良平野の条里方向（Ｎ－10°－Ｗ）とほぼ直交するもので、調査南側の第124次調査区出検出した大溝とほぼ平行している。両溝との間隔は約17～18mを測る。この溝は東河にある原遺跡群の第11次地点の大溝とつながる可能性がある。

また溝の北側の２棟の建物は柱方向が溝に沿ったものであり、同時期のものと考えられる。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景
（北東から）

3．大溝出土状況
（東から）

9042　博多遺跡群第68次（ＨＫＴ－68）

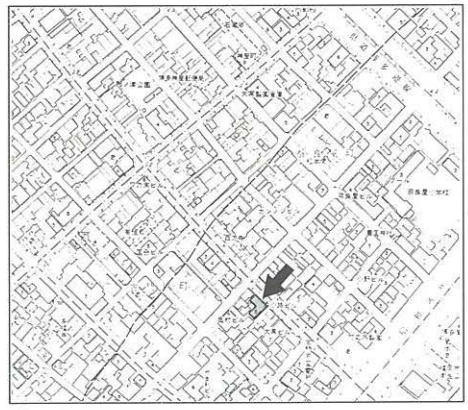
所 在 地　博多区古門戸町98－１内
調査原因　ビル建設
調査期間　901029～910131
調査面積　1731㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群の北西部を占める旧息の濱の砂丘頂上部から旧海岸へ向かう傾斜面上に位置する。調査区の西側に接して14世紀初頭に建立された妙楽寺の推定地がある。遺構面は３面存在し、第１面は近世、第２面は鎌倉～戦国時代、第３面は平安時代末～鎌倉時代である。第２面～第３面の地形では浸食による砂丘の崩落との後の嵐による大規模な砂堆の跡を検出した。

検出遺構
・鎌倉時代：土壙墓、柱穴、井戸、護岸状石積み
・室町時代：井戸、土壙、pit
・戦国時代：井戸、土壙、pit
・江戸時代：瓦井戸、石組み溜桝、土壙

出土遺物　中世の遺物には土師器杯、皿、瓦質土器湯釜、火鉢、土師質土器鍋、釜他、高麗青磁、雑釉陶器、白磁が出土している。第３面の土壙墓には青磁龍泉窯系碗と鉄製刀子が副葬されていた。戦国時代では石組み井戸から明代の青磁、白磁片、染付碗・皿、備前焼摺鉢、李朝の壺、瓦類出土した。軒丸瓦は巴文を主体にするが、卍字文様の軒丸瓦もある。江戸時代の遺物は主に石組溜桝遺構より出土した。18世紀前半代に比例できるもので、筅や毛筆の柄、漆器、木製品、伊万里系の皿・碗、瓦類がある。（コンテナ109箱）

まとめ　今回の調査では12～13世紀の海岸線を検出した。この海岸の波打際には60～80㎝の岩石を護岸状に積んでおり、元寇の役と同時期と考えられる。また、16世紀の井戸の出土遺物からは戦国時代に焼失した妙楽寺の存在を推定できる資料を得ることができた。



1．調査地点の位置（49－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景
（南から）

3.石組み井戸検出状況
（南から）

9043　比恵遺跡群第34次（ＨＩＥ－34）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目15－17
調査原因　社屋建設
調査期間　901107～901115
調査面積　80㎡
担 当 者　管波正人
処　　置　調査後破壊

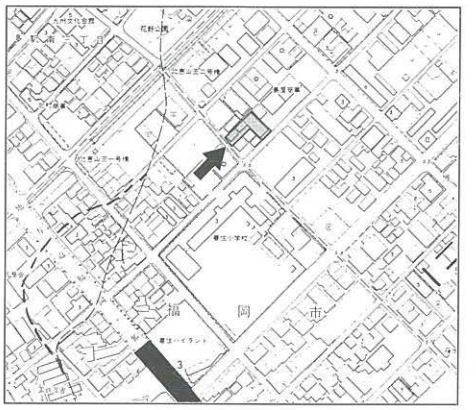
位置・環境　調査地は、比恵台地の北西部あたり、調査地周辺では西側で第３、８次調査が行われている。標高は約6.0m、地表下1.0～1.6mで基盤の鳥栖ローム層となる。遺構面は緩やかに北西に傾斜していく。

検出遺構　・弥生時代中期：溝１条、土壙１基
・近世以降：溝２条

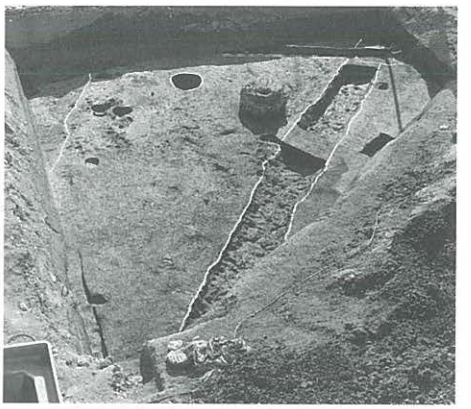
弥生時代中期の溝SD-001は北西に緩やかに傾斜していく台地の落ち際にあり、南北方向に直線的に延びる。台地の落ち際には弥生時代前期～中期の包含層が形成される。井戸や住居址などの生活遺構は検出されなかった。

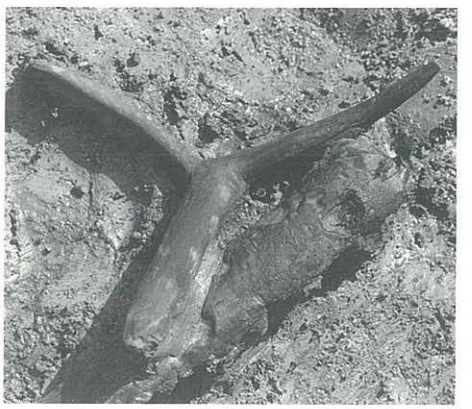
出土遺物　遺物は溝、谷部の包含層からコンテナ６箱が出土した。溝の遺物は弥生時代前期の弥生土器、磨製石剣、木製品等がある。また、包含層からは弥生時代前期後半から中期前半の弥生土器が出土した。

まとめ　比恵台地は最近の調査で、その先端には狭い谷が入り込んでいることが判明している。今回の調査では台地の北西端部の様子を知る事ができた。今回検出した台地の落ち際は多少の出入りがあるものの北側約200m先にある第４次調査で検出された台地の落ち際に連なると考える。今回の調査は比恵台地の旧地形、集落の形成を考えるうえで重要な成果と言えよう。また、谷は弥生時代中期前半には埋没しており、その後の水田耕作などの利用の可能性を含めて、今後の周辺の調査が期待される。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1、1：8,000）


2．調査地点全景
（東から）


3．SD-001 出土木製品

9044　中村町遺跡第１次（ＮＭＭ－１）

所 在 地　南区野間三丁目46－１他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　901121～910228
調査面積　820㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後消滅

位置・環境　本調査は丘陵を占める中村町遺跡の頂部付近に位置する。標高は13.60ｍを測る。現状は個人住宅跡で、削平を受け平坦な地形を呈す。検出面は表土下10～60㎝の鳥栖ローム下部で、南西側に下降していく。

検出遺構
・古墳時代後期：竪穴住居址９軒
・古代（７世紀代）：掘立柱建物址１棟、溝３条

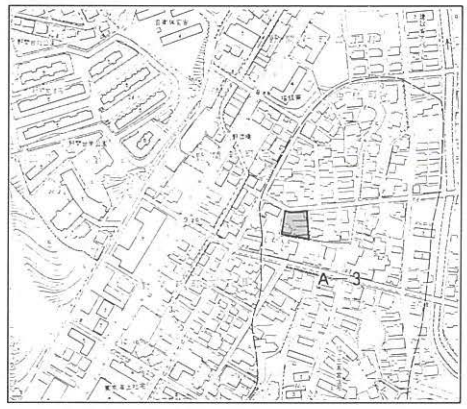
竪穴住居址は下降した調査区南側と南西部に限って検出された。遺存は良好で、壁高50㎝を測るものがある。掘立柱建物址は梁行６間（12.50ｍ長）の規模で、掘り方の１辺の長さも80～110㎝を測り大きい。

遺構は調査区北側では現代の削平を受けているが、柱穴の遺存状況から遺構が営まれた時期に造成が行われた可能性もある。

出土遺物　竪穴住居址のカマド周辺に出土した甕、甑、高坏（支脚）を主に、総量コンテナ８箱分出土した。

まとめ　古墳時代後期の竪穴住居址は削平を免れた低所に検出されたが、柱穴の分布からさらに北側の広範囲に営まれていたものと考えられる。その後、相応の有力者居館址の可能性もある大規模な掘立柱建物が構築される。

遺構の時期は上記の頃に限られるが、黒曜石片も出土し前代のものが周辺に検出される可能性がある。



1．調査地点の位置（51－Ａ－3、1：8,000）

2．調査区全景
（北から）

3．掘立柱建物全景
（西から）

9045　野芥遺跡群第２次（ＮＫＥ－２）

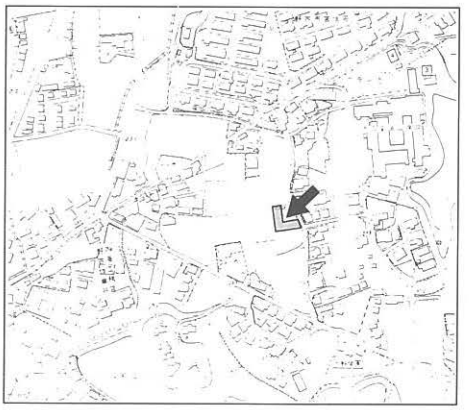
所 在 地　早良区野芥五丁目386 －１
調査原因　分譲住宅建設
調査期間　901123～901222
調査面積　300㎡
担 当 者　松村道博
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は野芥遺跡群の南端部に位置し、油山の西側にある。北から南へ緩傾斜丘陵裾部にあたり、標高28m前後を測る。周辺部での調査は岩隈遺跡、野芥遺跡１次調査が実施されている。岩隈遺跡では弥生時代前期末～中期末までの甕棺、木棺墓が70数基確認され、野芥遺跡１次調査では古墳時代後期の住居址が１基確認されている。

検出遺構　調査は開発地の中で道路部の南端部分幅７ｍ、長さ45ｍである。トレンチ状の狭い範囲であるが遺構は全体に分布し、調査地点の西隣接地でも古墳時代の集落が確認されている。検出した遺構は竪穴住居址４棟、溝状遺構２条、掘立柱建物２棟、土壙３基である。竪穴住居址は古墳時代後期のもので隅丸長方形である。溝は古墳時代、奈良時代の時期に分かれる。

出土遺物　出土遺物は土師器と須恵器でコンテナ３箱である。他に包含層から夜臼式土器、黒曜石製石鏃等が少量出土している。

まとめ　狭い範囲の調査であったが古墳時代～奈良時代の集落を確認できた。隣接する西側にも同時代の遺構が確認されているので丘陵裾部に展開するかなり大規模の集落が予想される。



1．調査地点の位置（84－Ａ－8、1：8,000）

2．調査区全景(1)
（東から）

3．調査区西側全景(2)
（北から）

9046　那珂遺跡群第30次（ＮＡＫ－30）

所 在 地　博多区那珂１丁目462-１
調査原因　倉庫建設
調査期間　901202～901215
調査面積　80㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

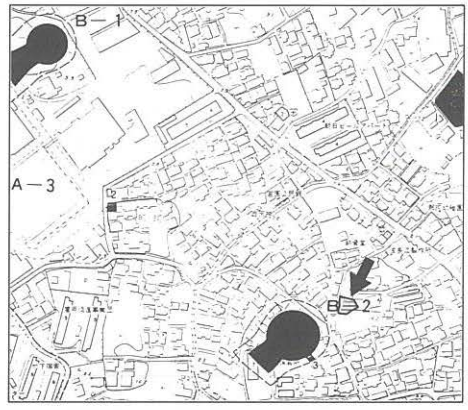
位置・環境　調査地は、那珂八幡古墳の東に位置している。現況の地表面から約40cmの深さで遺構検出を行った。検出された遺構は弥生時代から古墳時代にかけての時期にわたっている。

検出遺構
出土遺物　弥生時代の遺構として、後期の掘立柱建物と井戸址がある。掘立柱建物は１×１間で桁行き3.3m、梁行き2.5mをはかる。柱の掘り方の一つには小形の壺を埋置したものがあり、柱抜きの祭りを行った可能性がある。

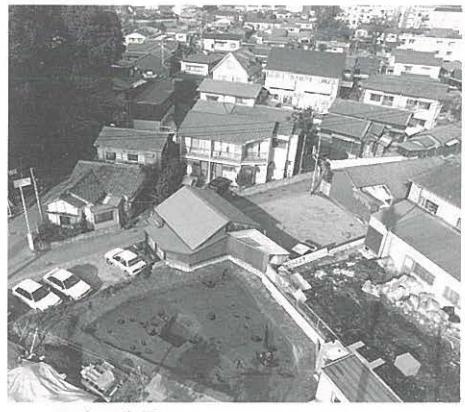
２基の井戸址のうち１基は、径0.8mの深さで八女ロームとなる。井戸出土の土器は、破片ではあるが弥生後期終末に比定できる。

古墳時代の遺構としては土壙墓１基がある。一部に撹乱を受けていたが、副葬の須恵器の坏や供献の小壺、高坏などがある。墓壙の長軸は2.3m幅0.7mをはかる。時期は６世紀後半に比定できる。（コンテナ16箱）

まとめ　今回検出された生活址は、那珂八幡古墳造営の時期に近接しており、該期の歴史的環境を考えるうえで興味深い。



1．調査地点の位置（37－Ａ－3、1：8,000）


2．調査区全景
（東南から）

3．古墳時代土壙検出状況
（南から）

9047　有田遺跡群第165次（ＡＲＴ－165）

所 在 地　早良区有田一丁目21 - 11
調査原因　倉庫建設
調査期間　901207～910111
調査面積　184㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

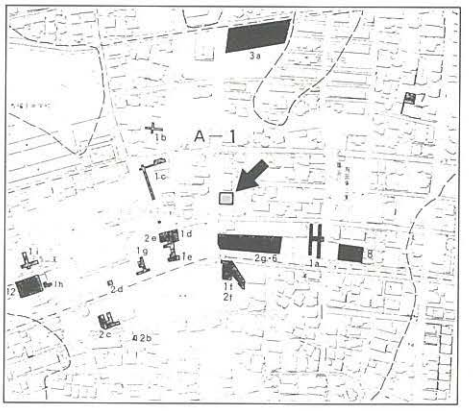
立地・環境　調査区は有田台地の中央部に位置し、現標高は約12mを測る。周辺は有田遺跡群で最もよく調査が行われており、弥生時代前期の環濠や、律令期の大型建物群、戦国時代の壕などが検出されている。有田遺跡群の中でも遺構密度の濃い地域である。調査前の現況は荒れ地であった。

検出遺構
・中世（12～13世紀）：井戸１
・中世（15～16世紀）：溝２、土壙５、方形段落状遺構１
・近世：溜池１、溝１

15～16世紀の井戸は１辺が３ｍを越える方形の掘方の中に桶組の井筒がある。３ｍの深さまで掘り下げたが、湧水と壁の崩壊の恐れから完掘を断念した。

出土遺物　弥生時代から近世までの遺物がコンテナ14箱、井戸材は７箱出土した。遺物は溝と方形の段落ち状遺構内からの出土が多い。種類としては瓦類が多い。また須恵質の緑釉陶器１点が井戸上層より出土した。

まとめ　15～16世紀の遺構は当地周辺で検出されている小田部城関連の遺構であろう。また当地点では瓦が多く出土しているが、隣接する第19次・41次・61次・77次・113次地点などでも多く瓦が出土しており、このあたりに瓦葺きの建物が存在した可能性が強い。



1．調査地点の位置（82－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景
（南から）

3．井戸出土状況
（東から）

9048　四箇古川遺跡第１次（ＳＫＦ－１）

所 在 地　早良区大字重留字ケコジ2042－１・～字カイコ2051
調査原因　道路建設
調査期間　900501～900615
調査面積　1,100㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　調査後破壊

位置・環境　当該地は室見川を中心とする大小河川の開析によって形成された早良平野の南側狭隘地にあって、室見川右岸の油山山麓に位置している。遺跡は沖積地の堆積土上面に形成されている。現状は水田である。道路予定地は貞島川（用水路）を横断する形で設定されている。地形的には旧河川上面に位置しており、河川の埋没後に生活面が形成されている。

検出遺構　旧河川跡の幅は調査区内では約11ｍを測るが、全体の幅は確認できない。この河川は隣接の入部４次調査でも検出しており、ここでは河川跡の深さ約1.7ｍを測り、川底には暗灰色粘質土と砂礫が互層に堆積していた。川底から明代の青磁や下駄などの木製品が出土しており、15世紀初頭の時期が考えられる

当該調査での遺構面は２面存在し、第１面の遺構面は暗灰色粘質土である。第２面の遺構面は褐灰色砂質土で、重複した河川跡を検出した。

・戦国～江戸時代初頭　土壙、ピット、河川跡
・室町～戦国時代　河川跡

出土遺物　第１面の遺構面から初期伊万里、明代の染付、青磁碗片等が出土した。第２面の河川跡からは明代の青磁碗片の他、土師器坏、皿等が出土している。（コンテナ２箱）

まとめ　今回の調査では重複した河川跡の変遷状況を把握することができたが、これらの時期は15～16世紀の短い時間に集中している。水路として開削された時期を示すものと考えられる。

1．調査地点の位置（85－Ａ－1）

2．調査区全景
（南から）

3．河川土層状況

9049　内野原田第１次（ＵＨＤ－１）

所 在 地　早良区大字西127番地
調査原因　圃場整備
調査期間　901207～901225
調査面積　120㎡
担 当 者　池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　内野原田遺跡は、背振山の北側山麓に延びる支尾根に挟まれた、幅200ｍ程の谷地の西側山裾に位置する。標高91ｍを測る。谷の中央には、貞観年間の疏鑿の伝承をもつ釣溝からの水路が流れる。周辺では、脇山Ａ遺跡で12世紀後半の集落が、峯遺跡では８世紀後半、12世紀後半から14世紀前半の集落が確認されている。

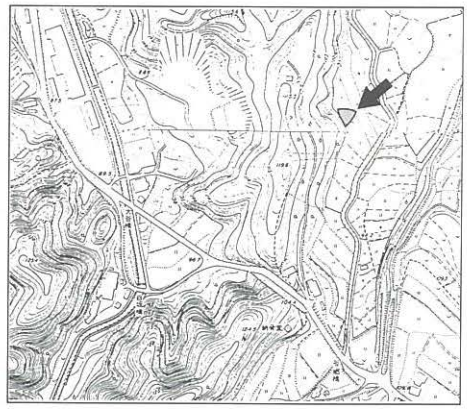
検出遺構　客土直下に遺構及びそれに伴う炭層を検出し、この面と炭層を除去した下層の２面で遺構を検出した。

・第１面：半地下式竪形製鉄炉１、焼土壙１、土壙２、ピット
・第２面：焼土壙３、円形炉、土壙４、ピット

この他調査区の東側の段落ち部分には、１ｍ程の鉄滓が堆積する。

出土遺物　灰層及び土壙より、土師器甕・土師器皿・フイゴの羽口が出土した。また散乱する鉄滓、炉壁も可能な限り採集した。

まとめ　半地下式の１号炉を中心に、比較的残りの良い製鉄遺構群を検出した。１号炉は、炉体前面に４×３ｍのテラスを備える。炉体埋土の土層観察より最低２回の操業が確認できた。第２面で土壙、焼土壙としたものには箱形炉の可能性をもつものがある。また、砂鉄を詰めたピット、粘土貯蔵用と思われる土壙を検出した。遺構ごとの年代決定は困難だが、炭層などの遺物から、８世紀後半～９世紀前半頃と考えられる。



1．調査地点の位置（早良ー11、1：8,000）

2．調査区全景（東から）

3．第1号炉全景（東から）

9050　板付遺跡（ＩＴＺ）

所 在 地　博多区板付二丁目９番
調査原因　史跡整備に伴う遺構確認調査
調査期間　890415～891029
調査面積　800㎡
担 当 者　二宮忠司
処　　置　埋め戻し

位置・調査　本遺跡の調査は史跡整備に伴う遺構確認調査である。今年度から指定地外の水田遺構・外濠の確認調査を実施した。目的は二重環濠と推定した区域の確認調査で、今年度は、３個所を対象とした。

遺跡は福岡平野の中央部で、御笠川左岸、板付団地の東に位置する。指定地の北側50mに位置し、北側の東西に流れる外濠に当たる部分の確認調査である。

検出遺構　遺構は縄文時代晩期の住居址１軒、竪穴３基、掘立柱建物２棟、土壙墓２基が検出、弥生時代前期からは土壙墓９基、土壙３基、溝１条を検出した。この他に中世（鎌倉～室町時代）の時期の溝３条、杭列、水田址が検出された。

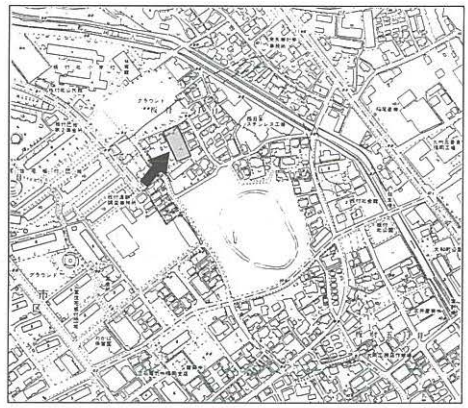
調査の目的である外濠は北側の道路部分から板付北小学校の南側に検出されているが南側の範囲（外濠の段落ち部分）については、明確な段落ちは、検出できなかった。しかし、南北から北・西の部分に傾斜が認められる。比高差は、0.5m程で中世水田を境に落ちている。この結果外濠の段落ちは、北側の道路部分（下水道埋設管に伴う調査で外濠内を検出、板付北小学校）からで、急激に落ちるものと考えられる。

出土遺物　縄文時代晩期円形住居址出土一括土器（夜臼式土器）、板付式土器、石器等多数出土（コンテナ20箱）。中世遺構に伴う土器、石器出土。中世遺構は溝のみ調査。他の遺構は確認のみ。

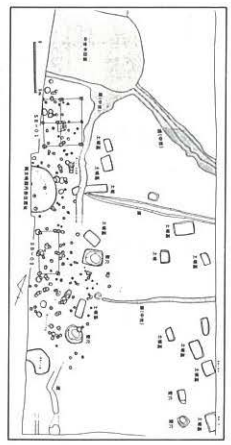
まとめ　今回の調査成果として外濠の段落ち部分は北側の道路部分にあることが判明した。

縄文時代晩期の円形住居址、掘立柱建物、竪穴、土壙墓等の遺構検出が出来たこと。

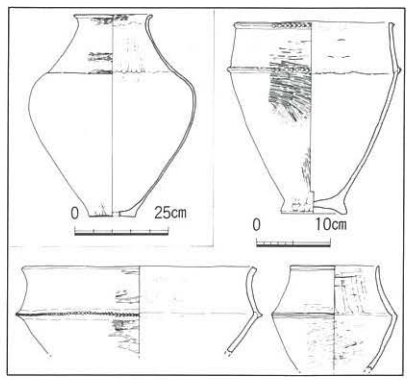
弥生時代前期の土壙墓、竪穴等の検出が出来たことがあげられる。



1．調査地点の位置（24－Ａ－8、1：8,000）



2．遺構全体図



3．調査出土の土器類

9051. 9052　板付遺跡（ＩＴＺ）

所 在 地　博多区板付五丁目５－２
所 在 地　博多区板付二丁目地内
調査原因　史跡整備に伴う遺構確認調査
調査期間　901115～901228

調査面積　150㎡
調査面積　100㎡
担 当 者　二宮忠司
処　　置　埋め戻し

位置・調査　本遺跡の調査は史跡整備に伴う遺構確認調査である。今年度から指定地外の水田遺構・外濠の確認調査を実施した。目的は二重環濠と推定した区域の確認調査で、今年度は、三個所を対象とした。

9015の板付五丁目調査地点は外濠の東側部分でE-5, 6地点、E-5b地点の南側に位置する。

E-5, 6地点、E-5b地点では、外濠と水田址が検出されていることから南側の確認調査を実施した。

遺跡は福岡平野の中央部で、御笠川左岸、内濠の東に位置する。指定地の東30mに位置する。

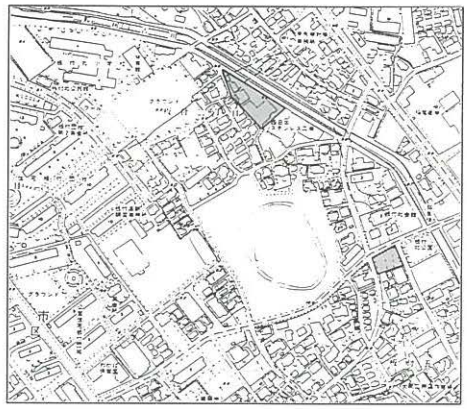
9052の板付二丁目調査地点は外濠の北東部に当たる部分で東側外濠が東西に流れを変える重要な調査であったが、砂の堆積が厚く、湧水が激しいため崩壊が著しく明かり掘削による調査は断念せざるおえなかった。

検出遺構　板付五丁目調査地点で幅２ｍの弥生時代の前期の環濠と水田址を確認した。この他に弥生時代中期の矢板列、水田址を２面確認した。

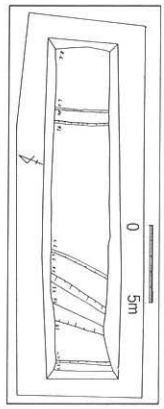
出土遺物　弥生式土器（板付Ｉ式土器他）、石器、木器、矢板、杭等。（コンテナ５箱）

まとめ　今回の調査成果は、板付五丁目調査地点で幅２ｍの弥生時代の前期の環濠と水田址を確認したことと、外濠の外側にも水田址が広がっていたことを確認できたことである。

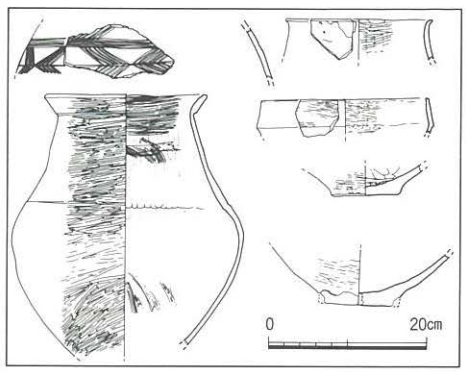
板付二丁目調査地点では今回は確認できなかったが、鋼矢板等により湧水を遮断して調査を行えば必ず外濠の確認が出来るものと考えられる。



1．調査地点の位置（24－Ａ－8、1：8,000）



2．第1水田面検出状況



3．ＳＤ01溝出土土器実測図

9053　那珂遺跡群第31次（ＮＡＫ－31）

所 在 地　博多区那珂字沼口802-15
調査原因　病院建設
調査期間　901202～910131
調査面積　123㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

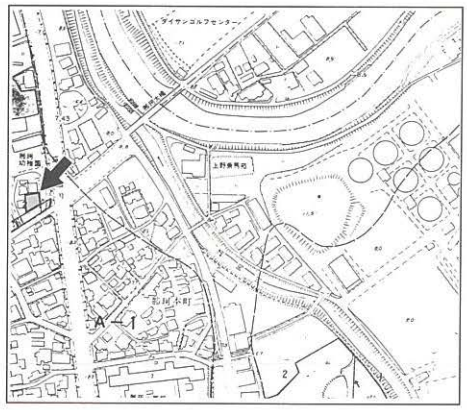
位置・環境　調査地は、那珂遺跡群の東端部に位置する。これまでの調査によって隣接部から弥生時代の甕棺墓が確認されている。

検出遺構　今回の調査で検出された弥生時代の遺構は、前期の甕棺墓１基、土壙墓及び木棺墓各１基がある。甕棺墓は大半が削平を受けており、遺存状況は極めて悪い。土壙墓は、長軸が1.8m、幅0.8mをはかり、南隅に小壺が副葬されていた。木棺墓は、長軸1.8m、幅0.9mをはかり、側板および小口板の痕跡が認められる。木棺墓も略同時期の可能性が強い。

古墳時代の遺構として住居址の切りあいが認められる。住居は一辺が４cmほどの方形プランをもち、隅に竈を据えるタイプである。時期はいずれも後期に属するものである。切りあい関係が複雑で整理段階で基数は変わる可能性がある。住居址の一つは部分的に炭化木が残っており、焼失住居と考えられる。

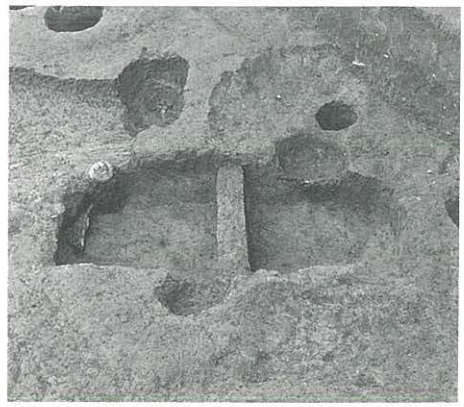
出土遺物　出土遺物は木棺墓の副葬壺、甕棺、古墳時代の須恵器、土師器を含めて総計コンテナ８箱になる。

まとめ　弥生の集団墓地の状況は、いまだ断片的である。周辺地域の調査に今後注目したいとおもう。



1．調査地点の位置（23－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景
（南から）


3．木棺墓出土状況
（北から）

9054　堅粕遺跡群第５次（ＫＫＳ－５）

所 在 地　博多区吉塚一丁目568-2外
調査原因　公営住宅建設
調査期間　901219～910330
調査面積　1600㎡
担 当 者　山口、菅波
処　　置　調査後破壊

位置・環境　堅粕遺跡群は御笠川の東岸に位置し、海岸線に平行して延びる砂丘上に立地する。本調基地の西側では第４次調査が行われている。標高は約4.5ｍを測る。地表下0.5～0.8ｍで遺構面である砂丘が検出される。

検出遺構
・古墳時代後期：土壙墓、土壙
・奈良時代：竪穴住居址、土壙
・平安時代：土壙墓、木棺墓、溝、土壙
・近世：井戸
・近代：木棺墓

平安時代の溝は調査区東側にあり、Ｌ字に折れて、東西、南北方向に延びる。溝は更に調査区外に延びる。建物等を囲む溝と考えられるが、溝の内側で建物は検出できなかった。

出土遺物　遺物は溝や土壙からコンテナ10箱が出土した。遺物は主に奈良、平安時代の須恵器、土師器、黒色土器、緑釉陶器等が出土した。この他、土壙墓SX-010からは鐙、轡などの馬具が出土した。ここからは馬具以外の遺物がないため、時期は決めがたいが、古墳時代のものと考える。また、木棺墓SX-036からは緑釉緑彩陶器の小壺が出土した。太宰府等で類例が幾つかある。10世紀代に位置づけられる資料である。

まとめ　今回の調査では古墳時代後期から平安時代にかけての遺構・遺物を検出した。その中でも平安時代の区画溝や緑釉陶器を副葬する木棺墓などは通常の集落では見られないものである。これらの遺構、遺物の類例を含めて、この集落の性格づけについては今後の検討課題としたい。

1．調査地点の位置（35ーＡ－2、1：8,000）

2．調査区全景
（北から）

3．ＳＸ－036 遺物出土状況

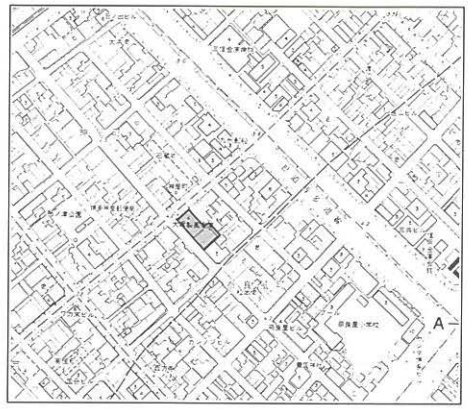
9055　博多遺跡群第69次（ＨＫＴ－69）

所 在 地　博多区奈良屋町267番
調査原因　倉庫建設
調査期間　901225～910131
調査面積　257㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、息ノ浜砂丘の北側斜面に当たる。調査は、地表下1.5mあまりの造成土を重機で除去した後、確認された厚さ10cm前後の包含層（暗灰色砂質土）を人力で掘り下げ、基盤の砂層で遺構の検出にあたった。

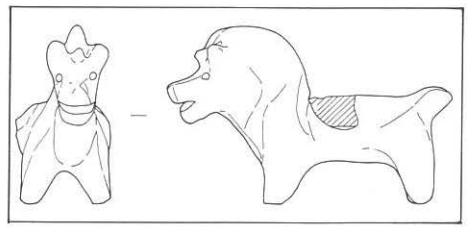
検出遺構・出土遺物　検出した遺構は16世紀末から17世紀初頭にかけての溝１条、井戸３基、木棺墓１基、甕棺墓１基、土壙墓（墓壙は確認することができなかった。）２基である。井戸３基はいずれも桶組の木枠をもち、内２基は重複して検出された。２基の底面には曲物の桶がすえられていた。井戸枠内からは、初期唐津焼と伴って、明末か清初の青花磁（景徳鎮、福建・広東産）が出土している。墓域は調査区の南西隅に広がる。木棺墓は長さ70cm＋α（東側欠失により）、幅80cmを測る。人骨の残存状態は良好な方である。土師器坏が副葬されていた。甕棺墓は備前焼の大甕を利用している。甕棺内から完形の軒平瓦（宝珠から左右にのびる均整唐草文）が出土している。墓域内の包含層からは土製馬形が出土している。わざわいを取り去ることを願ったものであろう。溝は現在の町割りと平行する溝で、時期的にも太閤町割と関連するものであろう。

まとめ　調査地点は息ノ浜砂丘の北側斜面に当たり、豪商神屋宗湛の屋敷跡から北西約200ｍに位置するが、今回の調査では16世紀末から17世紀初頭にかけての秀吉・宗湛・島井宗室らによる再興に伴う遺構が検出された。



1．調査地点の位置

2．調査区全景（北から）



3．博多69次出土土製馬形

9056　野方久保遺跡第３次（ＮＫＵ－３）

所 在 地　西区野方２丁目486-１他
調査原因　道路建設
調査期間　900104～900130
調査面積　300㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

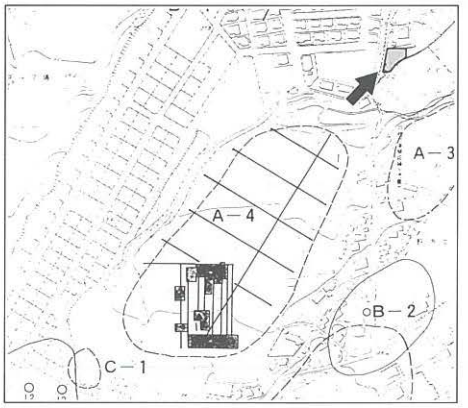
位置・環境　調査区は、十郎川中流東岸の沖積地に位置する。

検出遺構　基本層序は、旧表土下に２面の整地層が見られ、その下は、礫層になる。

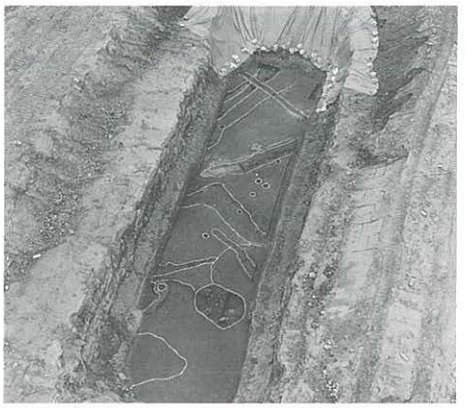
上面の整地層上で遺構を検出したが、溝８条、土壙５基、ピット等にすぎない。遺物が極めて少なく、性格等は不明である。出土遺物で見る限り、古墳時代後期を上限とす時期が考えられる。上面整地層下に堆積した青灰色砂層は包含層で、弥生時代後期～古墳時代後期の遺物が見られる。その下層から、細砂と礫の混じった整地層らしき層が検出され、水田等の可能性も考え精査したが、遺構は、検出されなかった。

出土遺物　出土遺物は極めて少なく、コンテナ１箱である。ほとんどが小片で、図化に耐え得るものは、10点余りを数えるのみである。

まとめ　自然科学的な分析は、今回行ないえなかったが、下面整地層上の青灰色細砂層は、一部グライ化しており、水田遺構が存在した可能性は、否定できないものと考えられる。



1．調査地点の位置（92－Ａ－1、1：8,000）


2．調査区全景
（北から）

3．調査区 東壁土層 断面
（南から）

9057　浦江B遺跡第1次（URB－1）

所 在 地　西区大字金武字牛久保860－1
調査原因　道路建設
調査期間　910114～910115
調査面積　117.3㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

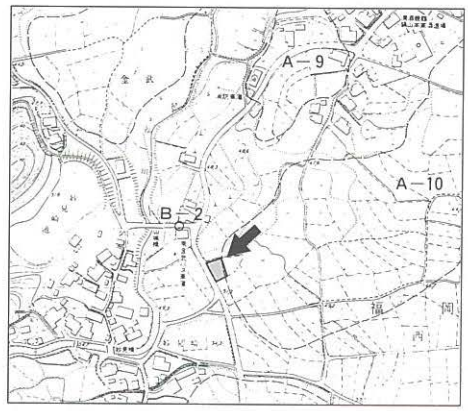
位置・環境　室見川中流左岸にあり、西山（430.10m）東麓に形成された小扇状地の扇央部に位置する。調査地点の北西約50mに妙見崎古墳群があり、東側の水田中には横穴式石室の残骸がある。何れもすでに墳丘は失われているが、多量の須恵器、馬具などの鉄器、耳環などが出土したという。

検出遺構　・古墳時代後期：竪穴式住居址1、柱穴7（堀立柱建物）

出土遺物　古墳時代須恵器・土師器などコンテナ1箱程度。この他に住居址埋土中より安山岩剥片が出土した。また、現水田床土下部から青磁壺、須恵質壺の破片が出土した。

まとめ　道路拡張部分の調査であり、検出遺構はごく部分的なものである。調査地点は東側に向かって下る緩斜面であり、古墳時代後期の集落が形成されたものと見られる。出土遺物が少なく存続期間は明確でないが、6世紀後半代と推定される。

また、この時期以外に縄文時代、中世の遺物が出土しており、こうした時期の生活址も周辺に予測される。



1．調査地点の位置（94－A－10、1：8,000）

2．竪穴式住居検出状況（西から）

3．調査風景（南から）

9058　周船寺遺跡群第７次（ＳＳＪ－７）

所 在 地　西区周船寺一丁目531-１
調査原因　共同住宅
調査期間　910106～910320
調査面積　700㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

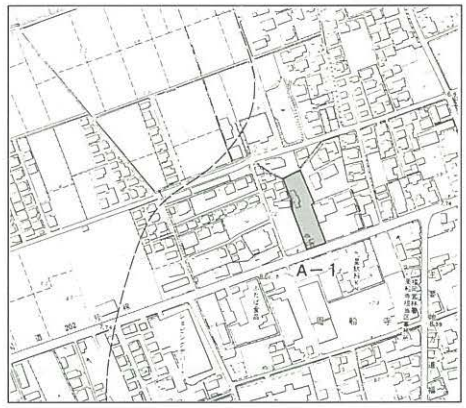
位置・環境　調査区は周船寺遺跡群の北西側に位置する。遺跡は高祖山から張出した丘陵部と瑞梅寺川に挟まれた扇状地上に立地し、現標高は７ｍを測る。本遺跡の調査は昭和54年の第１次調査以来、現在まで７次を数える。これまでの調査で縄文時代後期から弥生時代中期にかけての包含層及び集落・墓地などが確認されている。低地部に立地する縄文時代遺跡として注目される遺跡である。

検出遺構　遺構面は、淡灰緑色粘質シルトから灰褐色砂礫で、南東側が高く、北西側に緩やかに傾斜している。主要遺構は以下の通りである。

・弥生時代前期～中期：甕棺墓６基、貯蔵穴８基、土壙36基、溝３条、掘立柱建物５棟、竪穴住居址１棟

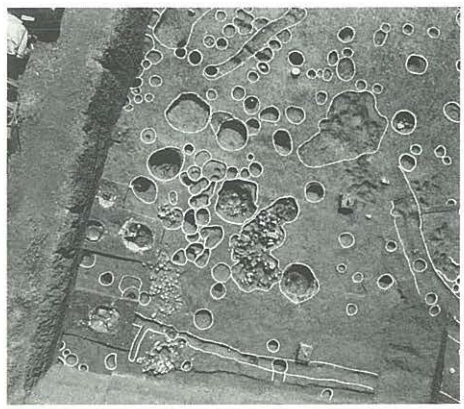
出土遺物　包含層、各遺構から55箱出土した。遺物としては縄文時代後期から古墳時代までの遺物を含むが、大半は弥生時代前期の土器である。他には木製品、木の実などの植物遺体、碧玉製管玉１、土製紡錘車２、磨製石鏃１、アオザメのものと思われる歯２本などがある。

まとめ　今回の調査では、周船寺遺跡群に弥生時代前期の集落が存在する事が確認出来た。遺構は主に東から南側にかけて密度を増すことから、集落の中心は調査区の東側と考えられる。掘立柱建物は弥生時代の可能性が強く、掘立柱建物を伴った弥生集落のあり方に興味がもたれるところである。



1．調査地点の位置（131－Ａ－1、1：8,000）

2．調査区全景（南から）



3．北側甕棺墓群検出状況

9059　田村遺跡群第11次（TMR－11）

所 在 地　早良区大字田
調査原因　道路建設
調査期間　910118～910309
調査面積　600㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

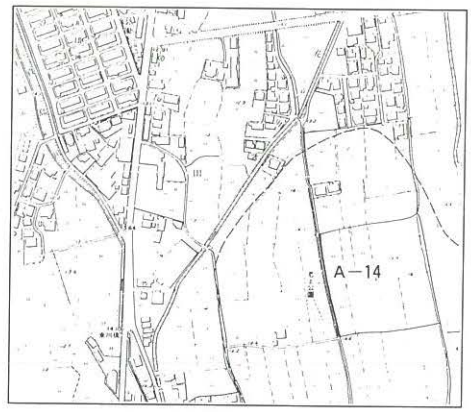
位置・環境　調査地は室見川などによって形成された早良平野のほぼ中央に位置する。標高14～15cmを測る。調査地内の現況は　水田、水路、畦畔、道である。周辺は条里制地割が比較的良く残っている。本調査区は第８次（8847）調査区の北側に連続する部分である。

検出遺構　・溝２条　調査区に沿った南北溝は第８次調査区SD－100の延長部分である。最大幅約４ｍ、深さ約0.8ｍであり、北に従って規模が小さくなる。断面観察では数回の掘り変えがあり、12世紀～14世紀にかけての遺物が多く出土した。なお溝は更に近世をへて現代溝に連続している。

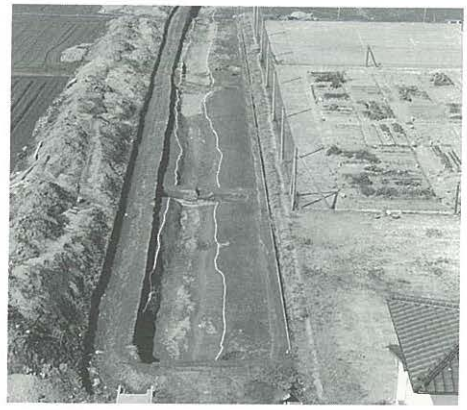
調査区北端で多くの鉄滓が出土したが、関連遺構は未検出である。

出土遺物　コンテナ10箱。中世（12～14C）土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器他が主体をしめ、他に弥生時代中期、古代の遺物を含む。

まとめ　第８次調査の成果を追認するとともに、中世の土地区画の精度、内容を知る資料がえられた。



1．調査地点の位置（92－Ａ－14、１：8,000）



2．調査区全景（南から）

3．溝土層断面（南から）

9060　山の鼻２号墳（ＹＨＫ－１）

所 在 地　西区大字徳永字山ノハナ
調査原因　重要遺跡確認調査
調査期間　910117～910228
調査面積　古墳１基
担 当 者　小林義彦
処　　置　現状保存

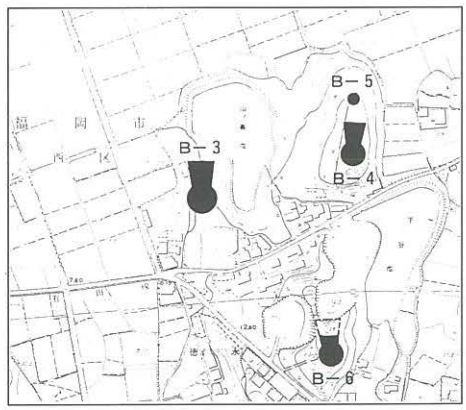
位置・環境　本古墳は、糸島平野の東縁部に東西長約３kmにわたって細長く伸びる今宿平野のほぼ中央部に位置し、高祖山から派生する舌状丘陵の先端部に立地する前方後円墳で、標高は10.5mを測る。本古墳の東には若八幡古墳が、更に、その南には下谷古墳があり、同一丘陵上に４基の前方後円墳が分布している。この狭隘な今宿平野には本古墳のほかに鋤崎古墳や今宿古墳大塚古墳・丸隈山古墳等12基の前方後円墳がある。

まとめ　本古墳の調査は今宿平野における前方後円墳の系譜とその展開を確認する重要遺跡確認調査の一貫として実施されるもので、今宿大塚古墳、鋤崎古墳、山の鼻１号墳の発掘調査に続くものである。

本古墳の現況は、東側が梅林、北～西側は竹林、南側は畑地で丘陵全体が荒れ、雑木が繁茂している。また、丘陵上には、昭和初期に改葬された近世墓が散乱しているために墳丘の改変が著しく、現況は前方部西縁とくびれ部がかろうじて確認できるのみである。

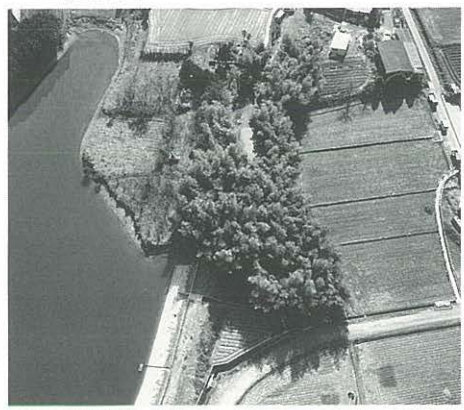
このような現状から、本古墳の確認調査は、本年度（90年）が、繁茂する雑木を伐開して古墳の全景写真撮影と墳丘の地形測量、明年度(91年度)が墳丘各部にトレンチを設定して墳丘規模を確認する二ヶ年度の調査となった。

墳丘測量の結果、本古墳の墳丘規模は後円部径約25m、前方部長30m、前方部幅約20m、全長50～60mの前方後円墳であると推定される。



1．調査地点の位置（120－Ｂ－３、１：8,000）

2．古墳現況 全景
（西から）


3．古墳現況 全景
（北から）

9061　比恵遺跡群第35次（ＨＩＥ－35）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目109－１
調査原因　ビル建設
調査期間　910218～910328
調査面積　432㎡
担 当 者　常松、下村
処　　置　調査後破壊

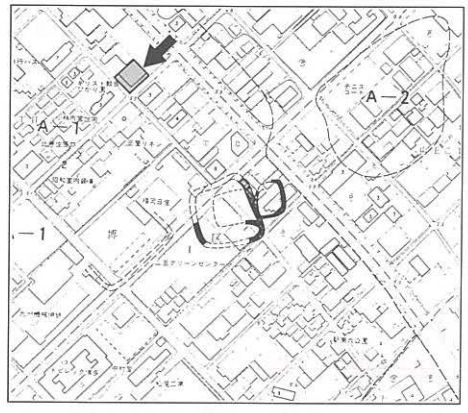
位置・環境　調査地は、比恵の低丘陵の東端部に当たる。試堀調査によって、地内には通称八女ロームとされる風化の進んだローム層と北に向かって下がる段落ちが確認されていた。

検出遺構　調査は申請地の遺構検出から開始したが、ここで確認できたのは東端と西端に集中した柱穴群と性格不明の土壙３基であった。この時、落ち際とされる部分の土層を調べるために掘削をおこなった結果、三叉鍬の一部や丹塗の無頸壺、銅族などが発見できた。そこで落ち際の北側にトレンチを設定したところ、ここでも八女ロームが確認できた。以上から落ち際は環濠の可能性が強まったことから、調査区を北側に拡張することで協議が成立した。

拡張区で明らかとなったのは、東西方向に走る溝である。溝は幅３～3.5m、深さ0.7～0.8m、をはかり、断面は逆台形を呈している。また南西方向に緩くカーブを描いていることから南側を取り巻く環濠とおもはれる。

出土遺物　環濠の埋土は、黒色の粘質土で青灰色の粘土をはさんで２層に分けられる。上層は中期末の土器を主体としている。木製品は主に下層から出土しており、平鍬、三叉鍬、エブリ、杓子等のほか未成の加工材がある。（土器－コンテナ９箱、木器－コンテナ10箱）

まとめ　環溝の規模や用途を含めた検討は今後の課題であり、周辺域の調査に注目したいとおもう。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8,000）

2．調査区全景（南から）

3．溝内無頸壺出土状況

9062　博多遺跡群第70次（ＨＫＴ－70）

所 在 地　博多区冷泉町388 外
調査原因　ビル建設
調査期間　910311～910531
調査面積　350㎡
担 当 者　井澤洋一
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は博多浜の砂丘中央部から南西側に位置しており、調査区西側には櫛田神社が所在する。当該地の昭和初めまでの旧町名は「櫛田前町」に相当し、南側の櫛田神社を含んだ地域は「社家町」に当る。

京都東福寺の僧良覚が記した「博多日記」には鎌倉時代末期の博多の状況を書き付けており、正慶２年（1333年）に菊池武時が鎮西探題北条英時を攻めた時の櫛田宮の様子や博多の状況が描かれている。

検出遺構　遺構面は４面存在する。

第１面　土壙、瓦井戸、溝、炉跡、かまど、石組み溜桝

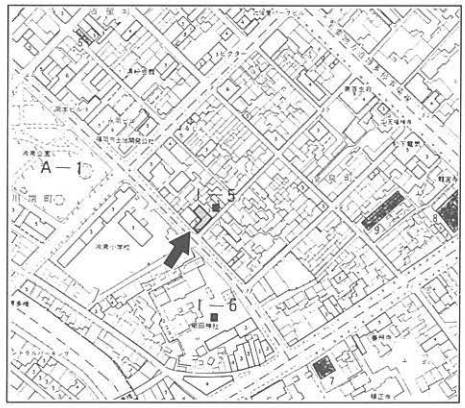
第２面　土壙、井戸、堀立柱建物、溝

第３面　土壙、土壙墓、井戸、溝

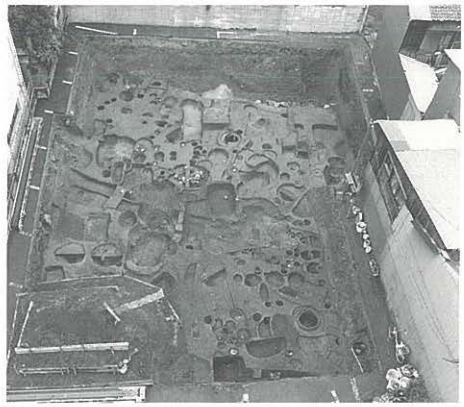
第４面　木棺墓、pit

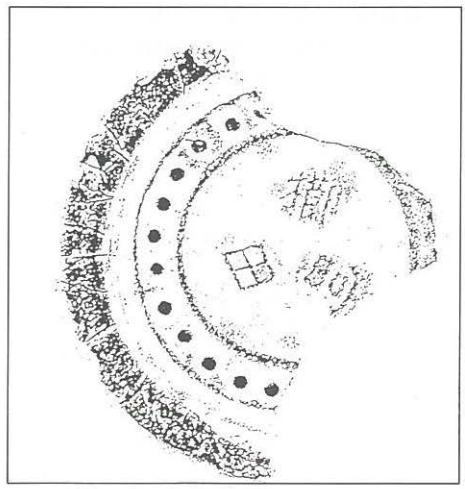
出土遺物　第１面からは伊万里系、唐津系の陶磁器や瓦類の他、明代の染付碗片や16世紀代の瓦、硯、備前焼、常滑焼等が出土。第２面からは中国製の青磁、白磁、陶器の他、石鍋、土師器坏、皿、瓦質土器、銅銭等がある。又、第３面からは須恵器坏、皿、土師器碗が出土している。第２面で特筆すべき遺物は瓦当面に「櫛田宮」の文字を入れた軒丸瓦が溝から出土したことである。（コンテナ172箱）

まとめ　櫛田神社の由来については平清盛が肥前国神埼荘の櫛田宮を勧請したたとする伝承があるが、今回の調査で、「博多日記」に描かれた櫛田宮の存在を裏付けることができた。又、神社を明らかに示した瓦としては九州では初めての出土である。



1．調査地点の位置（49－Ａ－１、１：8,000）


2．調査区第2、3面全景（南から）


3．「櫛田宮」文字瓦拓影

9063　飯倉C遺跡第2次（IKRC－2）

所 在 地　早良区飯倉六丁目15番地2
調査原因　宅地造成
調査期間　910311～910827
調査面積　1,861㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、早良平野東部の油山西麓から細長く、丘陵上に立地する飯倉C遺跡群ほぼ中央部に位置する。

現状は雑木林で、西側は住宅建設時に大きく削られている。1963（昭和38）年には、崖面から細形銅剣1口を副葬した弥生時代前期末の甕棺墓が発見されている。

検出遺構　弥生時代：竪穴住居址3軒，甕棺墓54基，土壙墓37基

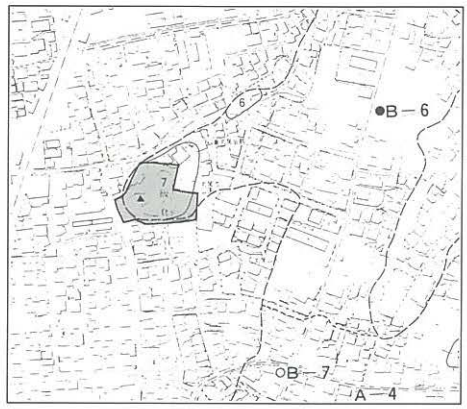
古墳時代：竪穴住居址28軒，掘立柱建物8棟，方墳3基，円墳1基

中世：土壙墓1基，火葬墓2基

出土遺物　遺物は、甕棺墓のほか竪穴住居址や掘立柱建物の柱穴から多量の弥生式土器（コンテナ80箱）や土師器（コンテナ15箱）、須恵器（コンテナ5箱）が出土したほか、甕棺墓には細形銅剣1、素環頭鉄刀1、碧玉製管玉3、小型壺4が副葬されていた。

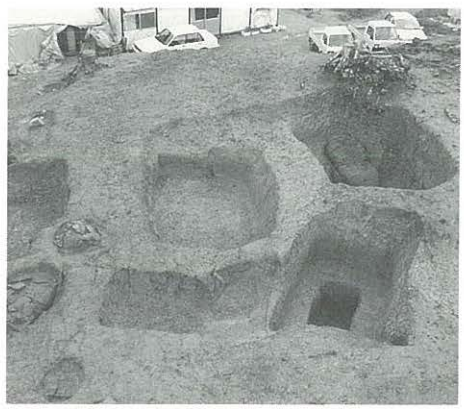
まとめ　甕棺墓と土壙墓群は、弥生時代前期末～中期後半のもので、西に突出する舌状丘陵の緩傾斜面に並行して分布する。早良平野で銅利器や鉄製武器を副葬する甕棺遺跡は、本遺跡のほか野方久保遺跡、有田遺跡、東入部遺跡があり、これらは部位や銅鏡などの豊富な副葬遺物を持つ吉武遺跡群の衛星的集団として促らえることができよう。

竪穴住居址群は、丘陵の東西の緩斜面を階段状に造成して構築されており、弥生～古墳時代の集落構造の一様相を窺う上で貴重な資料になるものである。また、方墳は5世紀代の低墳丘墳である。一辺20mの1号墳上には、墳丘と周溝をそのまま利用する形で直径15mの円墳が6世紀後半に築かれている。



1．調査地点の位置（73－A－3、1：8,000）

2．調査区全景（南から）


3．弥生時代 墓地検出 状況（南から）

9064　比恵遺跡群第36次（ＨＩＥ－36）

所 在 地　博多区博多駅南46－１他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　901121～910228
調査面積　820㎡
担 当 者　下村、常松、荒牧
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、台地上に占める比恵遺跡南西部に位置する。旧地形図では尾根近くに当たる。検出面（鳥栖ローム）は標高7.20mを測り、西側へ緩やかに下降する。

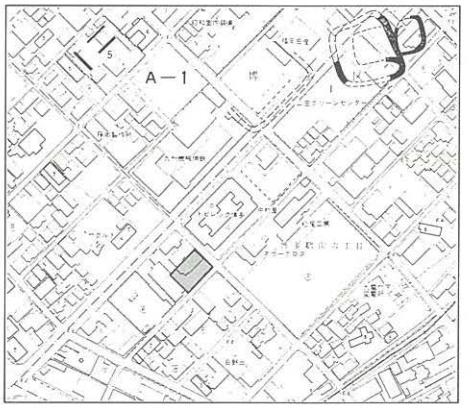
検出遺構　・古墳時代初頭；溝１条（方形周溝墓？）
・古墳時代後期；溝３条、柱穴

庄内併行期に比定できる溝は幅3.2m、深さ0.6mを測り、調査区内において１つのコーナーを有す。その形状、出土遺物から方形周溝墓の可能性が高い。コーナー部には石で根固めした立柱（復元径60cm）が検出された。

尚、この溝内に前代の石棺材と思われる板石も出土した。

出土遺物　遺物総量はコンテナ30箱である。
周溝と考えられる溝内から二重口縁壺、穿孔を有す甕、銀製指輪が出土した。

まとめ　調査範囲が狭いため、不明な点が多いが、方形周溝墓の可能性を有す溝（SD01）、そのコーナーで検出された立柱は注目される。立柱は祭儀の場を区画していたとも推測される。最近、注意されている古墳をめぐる立柱と比較すると、規模、配置等が異なり、その性格に差異が認められる。



1．調査地点の位置（37－Ａ－１、１：8,000）

2．調査区全景（東から）

３．立柱検出状況（西から）

9065　月見櫓（FUE）

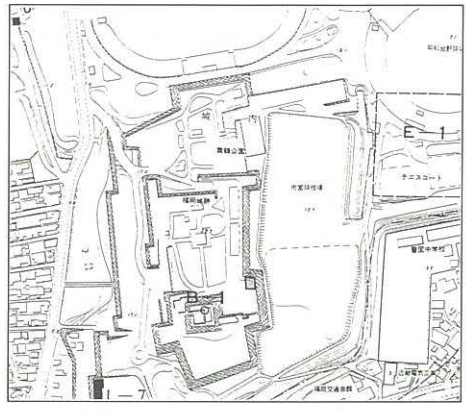
所 在 地　中央区城内
調査原因　確認調査
調査期間　910301～910331
調査面積　190㎡
担 当 者　山崎純男、吉武　学
処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　福岡城は、博多湾岸にほど近い丘陵の先端を利用した平山城である。内堀は現在北～西側の１～６号堀と大濠（大堀）が現存しており、東・南側は埋め立てられ市街化している。福岡城は三の丸、二の丸、本丸、天主台からなり、月見櫓は本丸の天主台下東側に位置している。

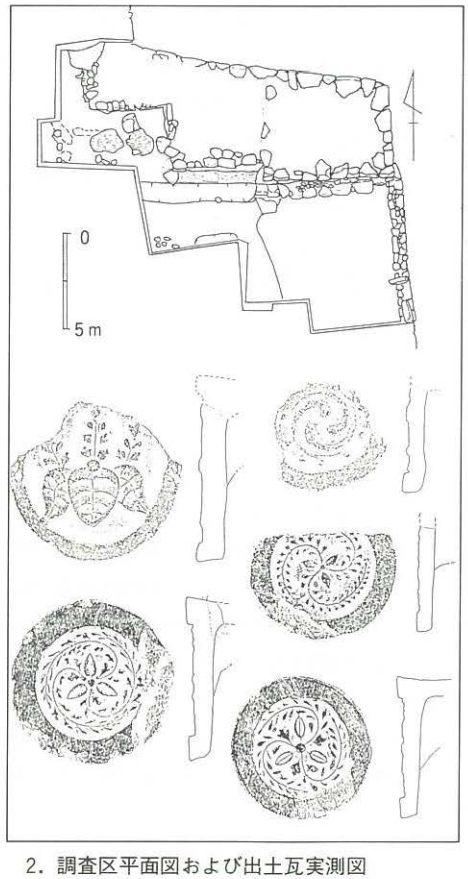
検出遺構　調査は月見櫓の規模の解明を目的としたものである。現状ではすべてが埋まっていたため予想できる範囲でやや広めに発掘した。櫓本体の基壇は東辺約５ｍ、西辺約６ｍ北・南辺約７ｍである。南の付櫓基壇は東・西辺約６ｍ、北・南辺５ｍである。

出土遺物　福岡城に葺かれた古瓦類が主で、一部近代の陶磁器や福岡陸軍病院に関する遺物がある。コンテナ２箱。

まとめ　福岡城の櫓は、『福岡県地理全誌』では47の櫓があったとされている。現在、その規模などが判明しているものは、極めて少ない。本調査で月見櫓の規模は判明したことは、他のところに移築現存する櫓を対比・研究するには一つの好材料をえたいといえる。また、出土古瓦の中には、五三の桐、五七の桐の軒丸・軒平瓦が出土したことは、名島城から本城へ移転したことを語る有力な考古資料である。



1．調査地点の位置（06－Ｅ－1、1：8,000）



2．調査区平面図および出土瓦実測図

Ⅲ．文化財調査の概要

Ⅰ．文化財の調査

福岡城関係資料調査

国の史跡福岡城跡の環境整備については長年にわたる取組みがなされてきたところであるが、1987(昭和62)年末から始まった鴻臚館跡発掘調査を契機として、福岡城への関心もさらに増した感がある。昭和63年度には『舞鶴城址将来構想委員会』が設置され、平成３年度にはその答申がなされる予定である。

以上の状況を踏まえて福岡城関係資料の調査・収集を実施した。調査対象を主に活字化された文献とし、関係資料の検索を行い、年次の明らかなもの、推定できるもの909項目について整理した。その結果は「福岡城関係資料年表稿」として『福岡城跡・Ⅳ－内堀内壁の調査－』（福岡市埋蔵文化財調査報告書　第237集）に掲載させていただいた。

なお本調査は今後は未公刊の古文書類に検索の範囲を広げて継続する予定である。

Ⅱ．平成２年度の福岡市の文化財指定

１．筥崎宮出土瓦経　所有者：筥崎宮、所在地東区箱崎一丁目22番１号。平成元年７月５日、筥崎宮の会館『清明殿』建設中に発見されたものである。縦22.8cm、横18.6cm、厚1.9cmの素焼きの粘土板に界線と罫線をひき、10行17字詰で表裏二面に写経されている。書写された経典は『仁王般若波羅密経』と『摩訶般若波羅密多心経』である。出土枚数は前者が40数枚中35枚分、後者が全一枚分である。平安時代後期、末法の時代を迎えた人々の深さや思想のあり方を物語る全国的にも貴重な遺物である。

２．井相田遺跡出土供養遺品　所有者：福岡市、所在地：博多区井相田二丁目１番94号（福岡市埋蔵文化財センター）。昭和61年から62年にかけて実施された井相田Ｃ遺跡第２次調査において、室町時代の池状遺構から出土したものであり、こけら経一束、笹塔婆２点、卒塔婆16点の計19点からなる。

こけら経は全長27～35cm、幅1.4～2.0cm、厚さ1.3～1.0cmの杉板の片面あるいは両面に法華経８巻を書写している。本来は2,141本からなったものと考えられるかが、その７割近くが原形を保っている。まとまった一束のこけら経は九州。中国地方においては唯一の出土例である。

笹塔婆は、１点は全長26.1cm、幅1.4cm、厚さ0.5mmの完形品、他の一点は残存長20.1cm、幅1.4cm、厚さ0.5cmで下端部を欠く。

卒塔婆は板の一端あるいは両端を五輪塔状に刻む２形態にわかれ、うち２点には「長禄参天」（1459年）、「寛正五」（1464年）の紀年銘が残っている。

これらの供養品は法要もしくは逆修会の後に近くの寺院などに納められていたものが、一定の時期をへて池に投機されたものと考えられる。全国的にも稀な出土例であり、中世における信仰の慣行を窺ううえで極めて貴重な資料である。

３．梅林古墳　所有者：福岡市　所在地：城南区梅林五丁目234番地の１（梅林第一団地内）。横穴式石室を主体部とした５世紀後半築造の前方後円墳である。復元値で全長27m、後円部経15.5m、後円部高2.5m。早良平野の東緑中央部、背振山系に属する油山から北に派生し短く突き出る丘陵の尾根先端部に位置する。1988（昭和63）年市営住宅（野萩台団地）建て替えの際、その存在が確認されたものである。

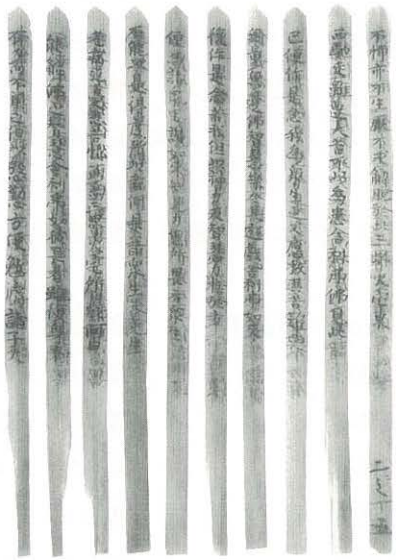
早良平野の前方後円墳としては拝塚古墳が知られるが、墳丘と石室をかき、現在は埋め戻されている。梅林古墳は小型ながら墳丘・石室ともに比較的良好に残っており、さらに出土遺物も須恵器、馬具、工

具、武具、装身具など多様であり、早良平野における首長墳の系譜を考える上で重要な資料となるものである。

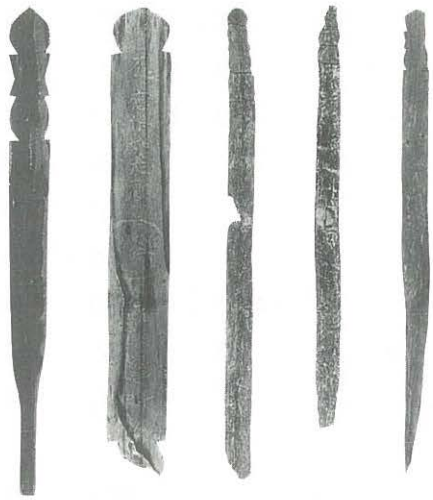
なお、市建築局は建設省、市埋蔵文化財課と協議し、当初の工事計画を変更、本古墳は全面保存されることになり、本年度は復元整備を完了し、現在公園として公開されている。

1．筥崎宮出土瓦経

3．梅林古墳（前方後円墳）



2．井相田遺跡出土供養品　（こけら経）



（卒塔婆）　（笹塔婆）

平成２（1990）年度調査遺跡索引（五十音図）

遺跡名	次数	調査番号	P.
〔ア行〕			
青木（あおき）遺跡群	第２次	9013	31
相原（あいばる）古墳群	第２次	9021	40
有田（ありた）遺跡群	第158次	9020	39
有田遺跡群	第159次	9027	46
有田遺跡群	第160次	9029	48
有田遺跡群	第161次	9033	52
有田遺跡群	第162次	9034	53
有田遺跡群	第163次	9036	55
有田遺跡群	第164次	9041	60
有田遺跡群	第165次	9047	66
入部（いるべ）遺跡	第４次	9006	24
飯倉（いいくら）Ｃ遺跡	第２次	9063	81
飯倉Ｆ遺跡	第２次	9031	50
飯倉Ｇ遺跡	第２次	9018	37
板付（いたづけ）遺跡		9050	69
板付遺跡		9051	70
板付遺跡		9052	70
内野原田（うちのはらだ）遺跡	第１次	9049	68
浦江（うらえ）Ｂ遺跡	第１次	9057	75
大橋（おおはし）Ｅ遺跡	第３次	9032	51
〔カ行〕			
堅粕（かたかす）遺跡群	第４次	9010	28
堅粕遺跡群	第５次	9054	72
カルメル修道院	第３次	9038	57
警弥郷（けやごう）Ｂ遺跡	第２次	9025	44
鴻臚館址（こうろかんあと）	第６次	9005	23
〔サ行〕			
雑餉隈（ざっしょのくま）遺跡	第１次	9024	43
四箇古川（しかふるかわ）遺跡	第１次	9048	67
拾六町平田（ひらた）遺跡	第２次	9011	29
周船寺（すせんじ）遺跡	第６次	9001	19
周船寺遺跡	第７次	9058	76
〔タ行〕			
田村（たむら）遺跡	第11次	9059	77
〔ナ行〕			
那珂（なか）遺跡群	第26次	9002	20
那珂遺跡群	第27次	9003	21
那珂遺跡群	第28次	9008	26
那珂遺跡群	第29次	9026	45
那珂遺跡群	第30次	9046	65
那珂遺跡群	第31次	9053	71
名島（なじま）城址	第１次	9023	42
中村町（なかむらちょう）遺跡	第１次	9044	63
野芥（のけ）遺跡群	第２次	9045	64
野方久保（のかたくぼ）遺跡	第３次	9056	74
〔ハ行〕			
博多（はかた）遺跡群	第65次	9017	36
博多遺跡群	第66次	9022	41
博多遺跡群	第67次	9028	47
博多遺跡群	第68次	9042	61
博多遺跡群	第69次	9055	73
博多遺跡群	第70次	9062	80
羽根戸（はねど）古墳群Ｂ群	第９次	9019	38
比恵（ひえ）遺跡群	第29次	9004	22
比恵遺跡群	第30次	9012	30
比恵遺跡群	第31次	9016	34
比恵遺跡群	第32次	9037	56
比恵遺跡群	第33次	9039	58
比恵遺跡群	第34次	9043	62

比恵遺跡群	第35次	9061	79
比恵遺跡群	第36次	9064	82
藤崎（ふじさき）遺跡群	第20次	9014	32
福岡城月見櫓（つきみやぐら）		9065	83
〔マ行〕			
三苫（みとま）遺跡群	第１次	9009	27
〔ヤ行〕			
山の鼻（やまのはな）２号墳	第１次	9060	78
吉塚（よしづか）遺跡群	第１次	9030	49
〔ラ行〕			
立花寺（りゅうげじ）遺跡群	第２次	9035	54
〔ワ行〕			
若八幡宮(わかはちまんぐう)古墳	第２次	9007	25
脇山（わきやま）遺跡群	第５次	9015	33

Ⅳ．トピックス

海の中道遺跡第４次調査

所 在 地　東区海の中道字シオヤ
調査原因　学術調査
調査期間　900906～901124

調査面積　2,000㎡
担 当 者　海の中道発掘調査 実行委員会
（主催者　朝日新聞社）
横山浩一、山崎純男

三苫から10kmほどのびて志賀島を繋ぐ、白砂青松の砂嘴、海の中道の中央部、玄海灘に面したところに遺跡がある。遺跡は東西約500m、南北50m以上の広さで、前面玄海灘側は波によって破壊が進んでいる。調査は任意の２地点で行った。包含層の上部には２～５mの砂の堆積がある。

今回検出された遺構は製塩用と考えられる炉址２基、製塩による廃棄物を捨てた円墳状をなすゴミ捨て場２ヶ所以上、柱穴多数などである。

また製塩土器、須恵器、土師器、黒色土器、越州窯系青磁器、緑釉陶器、灰釉陶器、土錘、石錘、鉛錘、鉄製漁撈具、鏡、曲玉、小玉、金銅製金具、皇朝十二銭、石帯、帯金具等がある。

さて今回の調査は志賀の海人の漁撈活動の解明を目的とした調査であったが、目的どおりの成果を得ることができた。特に万葉集にみられる藻塩焼きの事態を突き止めたことは大きい成果であった。また、出土遺物から、大宰府主厨司に付属した津厨あるいは、その下部の厨部の遺跡である可能性が強いが、今後の検討が必要である。

付　平成２（1990）度刊行報告書一覧

（　　）内は、報告された遺跡の調査番号

第237集　「福岡城跡・Ⅳ」（8865）
第238集　「今宿五郎江遺跡　Ⅱ」（8407）
第239集　「太田遺跡　Ⅰ」（8521）
第240集　「梅林古墳」（8914）
第241集　「影ヶ浦古墳群　Ⅰ」（8968）
第242集　「徳永遺跡」（8808）
第243集　「三苫京塚古墳」（8860）
第244集　「博多　16」（8740）
第245集　「博多　17」（8843）
第246集　「博多　18」（8852）
第247集　「博多　19」（8857）
第248集　「博多　20」（8862）
第249集　「博多　21」（8918）
第250集　「博多　22」（8947）
第251集　「博多　23」（8948）
第252集　「博多　24」（8962）
第253集　「那珂遺跡　3」（8935）
第254集　「那珂遺跡　4」（8936）
第255集　「比恵遺跡群　（10）」（8828、8917、8924、8939、8971、8981）
第256集　「大塚遺跡」（8944）
第257集　「上月隈遺跡」（8958）
第258集　「飯倉Ｃ遺跡」（8937）
第259集　「藤崎遺跡　6」（8922、8946、8964、8977）
第260集　「藤崎遺跡　7」（8978）
第261集　「四箇遺跡群　24次調査」（8952）
第262集　「箱崎遺跡　2」（8967）
第263集　「野多目Ａ」（8956）
第264集　「有田・小田部　第12集」（8701、8706、8724、8729、8730、8735、8844、8978、8980、9034）
第265集　「有田・小田部　第13集」（8953）
第266集　「有田・小田部　14　原遺跡　5」（8639、8813、8965、9033）
第267集　「東光寺剣塚古墳」（8802）
第268集　「入部　Ⅱ」（8931）
第269集　「脇山　Ⅱ」（8933、8932）
第270集　「鴻臚館跡　1」（8747、8829、8910、9005）

「福岡市埋蔵文化財年報Vol．4―1989年度―」

福 岡 市

埋 蔵 文 化 財 年 報 vol.5

—平成2(1990)年度—

発　行　日　1992年3月13日

編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
〒810 福岡市中央区天神一丁目8-1
TEL. (092) 711-4667
FAX. (092) 711-4600

印　　刷　福博綜合印刷株式会社

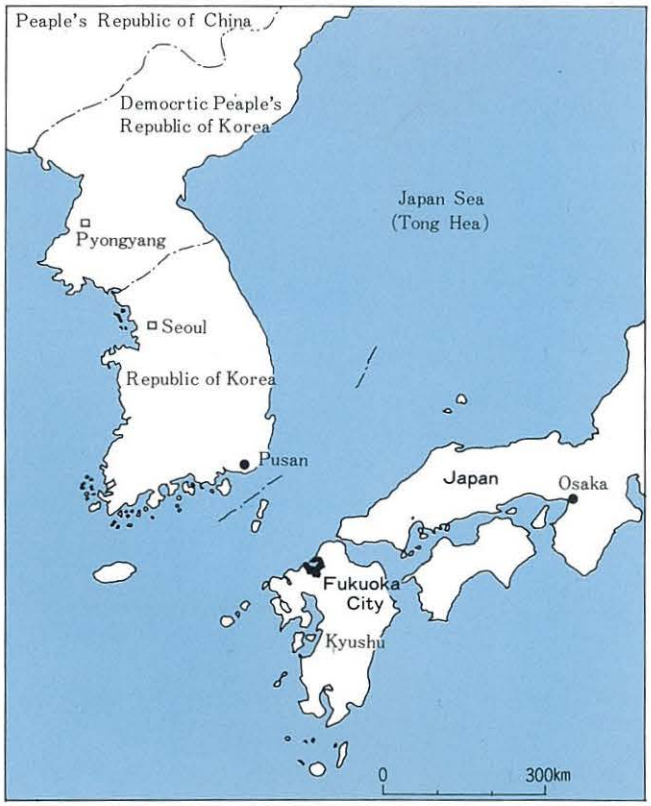
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 5

1990



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1992

Japan